

NEC

P C 9 8 -

NX

PC98-**NX** SERIES

LaVie

LX60T

活用ガイド ハードウェア編

本機の機能

周辺機器を使う

システムの設定

マニュアルの 主な内容

このパソコンには、次のマニュアルが用意されています。



- 『はじめにお読みください』
添付品の確認やWindowsのセットアップ手順について説明しています。
 - ・添付品の確認
 - ・Windowsのセットアップ
 - ・マニュアル紹介



- 『活用ガイド ハードウェア編』
このパソコンの取り扱い方法などを説明しています。
 - ・キーボード、ハードディスク、CD-ROMドライブなどの取り扱い
 - ・周辺機器の接続と利用方法
 - ・システム設定について



- 『活用ガイド ソフトウェア編』
アプリケーションの利用方法、追加と削除の方法について説明しています。また、さまざまなトラブルへの対応方法をQ&A形式で説明しています。
 - ・アプリケーションの利用方法
 - ・トラブル解決Q&A



- 『活用ガイド 再セットアップ編』
このパソコンを再セットアップする場合の方法について説明しています。
 - ・再セットアップの方法



はじめに

このマニュアルは、パソコンの取り扱い方法について説明するものです。

周辺機器やオプションを接続してパソコンを拡張する場合、パソコンの設定を変更する場合などに、このマニュアルをご利用ください。

2001年5月初版

対象機種

LaVie MX : LX60T/7B1EC、LX60T/71EC、LG60T/TL、LG60T/TD
VersaPro : VA60H/TM

853-810060-045-A

このマニュアルの表記について

このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。



警告

注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

注意事項を守っていただけない場合、人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみの発生が想定されることを示します。



感電注意

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、毒物注意、破裂注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。



チェック!

してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性あります。



用語

パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。

利用の参考となる補足的な情報をまとめています。

参照

マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

このマニュアルで使用している表記の意味

LaVie MX	LX60Tのことを指します。特にことわりがない場合はLG60Tのこと も指しています。
モバイルノート (長時間駆動型)	VA60H/TMのことを指します。
CD-ROMモデル	外付CD-ROMドライブが添付されているモデルのことです。
FAXモデム内蔵モデル	FAXモデムを内蔵しているモデルのことです。
LAN内蔵モデル	LANインターフェイスを内蔵しているモデルのことです。
Windows Meモデル	セットアップ時にWindows Meを選んでセットアップしたモデルの ことです。
Windows 98モデル	セットアップ時にWindows 98を選んでセットアップしたモデルの ことです。
Windows 2000 Professionalモデル	Windows 2000 Professionalがあらかじめインストールされている モデルのことです。

【 】	【 】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
「スタート」ボタン→ 「プログラム」→ 「アクセサリ」→ 「メモ帳」	「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「プログラム」を選択し、横に現れるサブメニューから「アクセサリ」→「メモ帳」を順に選択する操作を指します。
「コントロールパネル」 を開く	「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリックする操作を指します。 Windows Meで、「コントロールパネル」の画面に操作したいアイコンが表示されていない場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてアイコンを表示させてください。

LaVie Gシリーズについて

LaVie Gシリーズの各モデルについては、添付の『LaVie Gシリーズをご購入されたお客様へ』をご覧ください。

このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows	次のいずれかを指します。 - Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system日本語版 - Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system日本語版 - Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system日本語版
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system日本語版
Windows 2000、 Windows 2000 Professional	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system日本語版
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system日本語版
Outlook 2000	Microsoft® Outlook® 2000
Outlook 2002	Microsoft® Outlook® Version 2002
インターネット エクスプローラ	Microsoft® Internet Explorer 5.5 または、 Microsoft® Internet Explorer 5.01

このマニュアルで使用しているイラストと画面

- ・本機のイラストや記載の画面は、モデルによって異なることがあります。
- ・本書に記載の画面は、実際の画面とは多少異なることがあります。



当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク・ロゴは参加各国の間で統一されています。

■ 技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第50条第1項の規定に基づく技術基準等適合認定を受けています。申請回線と認証番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

対象機種	モデル	電話回線
LX60T、LG60T	FAXモデム内蔵モデル	A00-0942JP
VA60H/TM		A00-0943JP

LX60T、LG60Tの直流回路の抵抗値は309Ωです。線路抵抗条件によっては使用できないことがあります。

■ 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■ 漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

■ 瞬時電圧低下について

〔バッテリーバックを取り付けていない場合〕

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

〔バッテリーバックを取り付けている場合〕

本装置にバッテリーバック実装時は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

■ レーザ安全基準について

CD-ROMモデルには、レーザに関する安全基準（JIS・C-6802、IEC825）クラス1適合のCD-ROMドライブが添付されています。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBIT-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておられません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じて、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外NECでは、LaVieの保守・修理対応をしておりますのでご承知ください。
上記以外のモデルの海外における保守・修理対応は、海外保証サービス NEC UltraCareSM International Service 対象機種に限り、当社の定める地域・サービス拠点にてハードウェアの保守サービスを行います。
サービスの詳細や対象機種については、以下のホームページをご覧ください。
<http://www.ultracare.nec.co.jp/jpn/>
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft[®] Windows[®] Me、Microsoft[®] Windows[®] 2000 Professional、Microsoft[®] Windows[®] 98は本機でのみご使用ください。また、本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでしかご利用になれません (Intellisyncを除く。詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windows NT、NetMeeting、Outlook、Windows Media、およびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

IntellisyncおよびIntellisyncロゴは、いくつかの法域で登録することができるPumatech, Inc.の商標です。Celeronは、Intel Corporationの商標です。

Crusoe、Code Morphing Software、LongRun Power Managementは、Transmeta Corporationの登録商標です。

Hayesは、米国Hayes Microcomputer Productsの登録商標です。

MNPは、Microcom, Inc.の登録商標です。

PS/2はIBM社が所有している商標です。

SymantecおよびpcAnywhereは、Symantec Corporationの米国における登録商標です。

Virtual CDはFar Stone Tech, Inc.の登録商標です。

IntelおよびLANDeskは、Intel Corporationの米国およびその他の国々における登録商標です。

Intel[®] LANDesk[®] Client Manager 6 (with NEC Extensions) は、Intel[®] LANDesk[®] Client Managerのテクノロジーを使用しています。

Windows 98 CD-ROMデバイスドライバの著作権はPHENIX TECHNOLOGIES社に帰属します。

© 1999-2000 PHENIX TECHNOLOGIES LTD., ALL RIGHTS RESERVED

cdmaOneは、CDGの登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

LaVie MXの場合

■輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出(個人による携帯を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

■ Notes on export

This product(including software)is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.NEC will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.NEC does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product(including carrying it as personal baggage)may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law.Export without necessary permit is punishable under the said law.Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

モバイルノート(長時間駆動型)の場合

■輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。(ただし、海外保証サービス[NEC UltraCareSM International Service]対象機種については、海外でのハードウェア保守サービスを行います。)

本製品の輸出(個人による携帯を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

■ Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.

NEC will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan. NEC does not provide maintenance service or technical support for this product outside Japan. (Only some products which are eligible for NEC UltraCareSM International Service can be provided with hardware maintenance service outside Japan.)

Export of this product (including carrying them as personal baggage) may require permits from the local government authorities.

Please inquire NEC sales offices if permits are required for export.

本機の機能	13
各部の名称	14
本体前面	14
本体背面	15
本体底面	15
表示ランプ	16
表示ランプの名称と役割	16
キーボード	18
キーの名称	18
キーの使い方	19
キーボードの設定をする	21
NXパッド	22
NXパッドの使い方	22
NXパッドドライバをインストールする (モバイルノート(長時間駆動型)のみ)	23
NXパッドの設定をする	26
内蔵ハードディスク	27
ハードディスク使用上の注意	27
ハードディスクの購入時の状態	28
領域の確保とフォーマット	28
FAT32ファイルシステムの利用	33
ハードディスクのメンテナンス	34
フロッピーディスクドライブ	35
フロッピーディスクドライブの取り付け方と取り外し方	35
各部の名称と役割	35
使用できるフロッピーディスクの種類	35
使用上の注意	36
CD-ROMドライブ	37
CD-ROMドライブの取り付け方と取り外し方	37
各部の名称と役割	38
使用上の注意	40
Virtual CD 2を使う	40
液晶ディスプレイ	44
表示を調整する	44
表示できる解像度と表示色	45
解像度と表示色を変更する	46
バーチャルスクリーン(Windows 2000を除く)	47
デュアルディスプレイ機能	49

ディスプレイストレッチ機能	51
画面回転機能(モバイルノート(長時間駆動型)のみ)	53
バッテリー	55
バッテリーで本機を使うときの注意	55
充電のしかた	56
バッテリー残量の確認	57
バッテリーリフレッシュ	58
バッテリーパックの交換	62
省電力機能	64
省電力機能とは	64
省電力機能使用上の注意	65
スタンバイ状態(サスペンド)にする	68
休止状態(ハイバネーション)にする	68
スタンバイ状態または休止状態から復帰(レジューム)する	70
省電力機能の設定をする	71
休止状態の設定の解除と再設定(Windows 98のみ)	75
LongRun Power Management Utility(LaVie MXのみ)	77
セキュリティ機能	80
本機のセキュリティ機能	80
パスワード	80
ハードディスクのパスワード(モバイルノート(長時間駆動型)のみ)	86
スマートカード / 指紋認証ユニット (モバイルノート(長時間駆動型)のみ)	91
その他のセキュリティ機能を使う	91
赤外線通信機能	93
赤外線通信を行う前に	93
機器の配置について	94
赤外線通信をする	95
サウンド機能	98
ボリュームコントロールを表示させる	98
表示項目を切り替える	98
音楽CDを再生するための設定をする	100
内蔵モデム	102
電話回線との接続	102
ダイヤル設定のしかた	104
通信機能使用上の注意	106
インターネットへの通信環境を切り替える	108
携帯電話 / PHS接続機能	113
携帯電話またはPHSとの接続	113

接続先を設定する	114
ダイヤル設定のしかた	115
携帯電話 / PHS 接続機能使用上の注意	117
いろいろなデータ通信を行う	118
LAN (ローカルエリアネットワーク)	120
LAN への接続	120
運用上の注意	122
本機の運用管理	123
周辺機器を使う	127
接続できる周辺機器	128
本機に接続できる周辺機器一覧	128
周辺機器の利用	130
周辺機器利用上の注意	130
プリンタ	135
本機で利用できるプリンタ	135
プリンタの接続	135
プリンタの設定	136
マウス	137
別売のマウスの設定方法	137
NXパッドを使用する設定に戻す	141
他社製のマウスドライバを使用するときの注意	144
外部ディスプレイ	145
CRTディスプレイの接続	145
プロジェクタの接続	147
外部ディスプレイの設定	147
PCカード	151
使用上の注意	151
PCカードのセットのしかたと取り出し方	152
PCカードの設定	154
メモリ	155
メモリ容量について	155
メモリの取り付け方と取り外し方	155
USBコネクタ	162
USBとは	162
USBコネクタに接続する	162
その他の機器	167

PART

3

本機で利用できるその他の機器	167
パラレルコネクタ	168
DCコネクタ	168

システムの設定 169

BIOSセットアップメニュー(LaVie MXの場合)	170
BIOSセットアップメニューを使ってできること	170
BIOSセットアップメニューを使う	170
BIOSセットアップメニューを終了する	171
工場出荷時の値に戻す	172
設定項目一覧	173
起動順位の設定	175

BIOSセットアップメニュー

(モバイルノート(長時間駆動型)の場合)	176
BIOSセットアップメニューを使ってできること	176
BIOSセットアップメニューを日本語表示にするには	176
BIOSセットアップメニューを使う	177
BIOSセットアップメニューを終了する	178
工場出荷時の値に戻す	178
設定項目一覧	179

PART

4

付録 187

本機のお手入れ	188
お手入れをはじめる前に	188
お手入れをする	189

補足情報	190
別売のUSBポートバー使用時の注意	190
サウンド機能について(Windows Meモデルのみ)	191

機能一覧	196
仕様一覧	196
LaVie Gシリーズ	201
内蔵FAXモデム	203
携帯電話 / PHS 接続機能	205
内蔵LAN	206

割り込みレベルとDMAチャネル	207
割り込みレベルとDMAチャネルについて	207

索引 209

P A R T

1

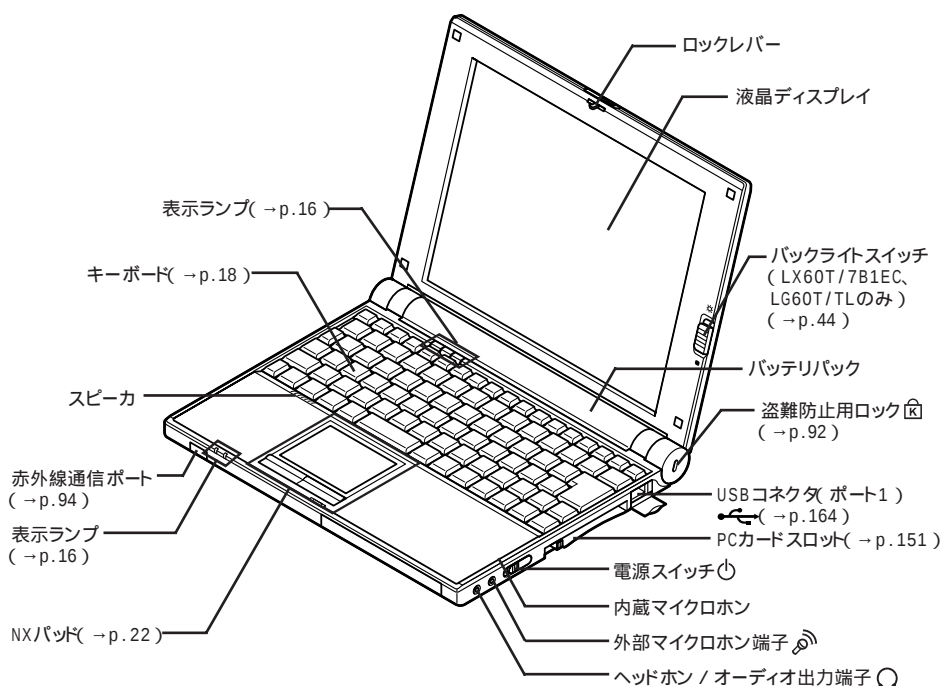
本機の機能

本機の各部の名称といろいろな機能について説明しています。

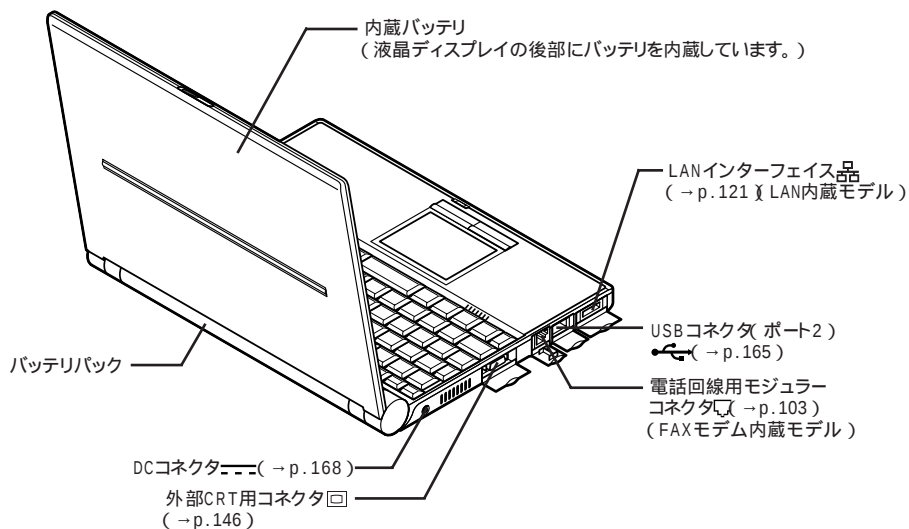
各部の名称

本機の各部の名称と配置について説明しています。それぞれの機能や取り扱い方については、参照ページをご覧ください。

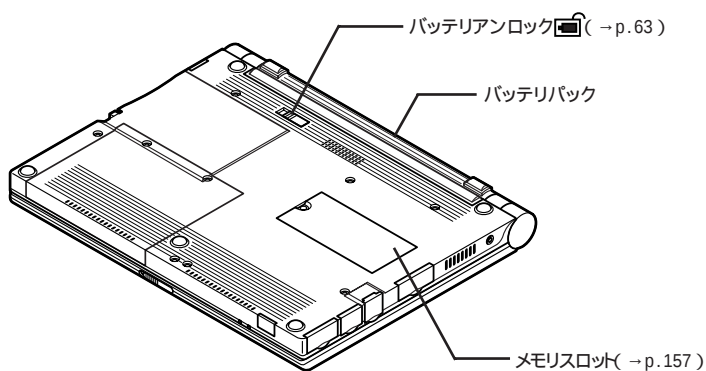
本体前面



本体背面

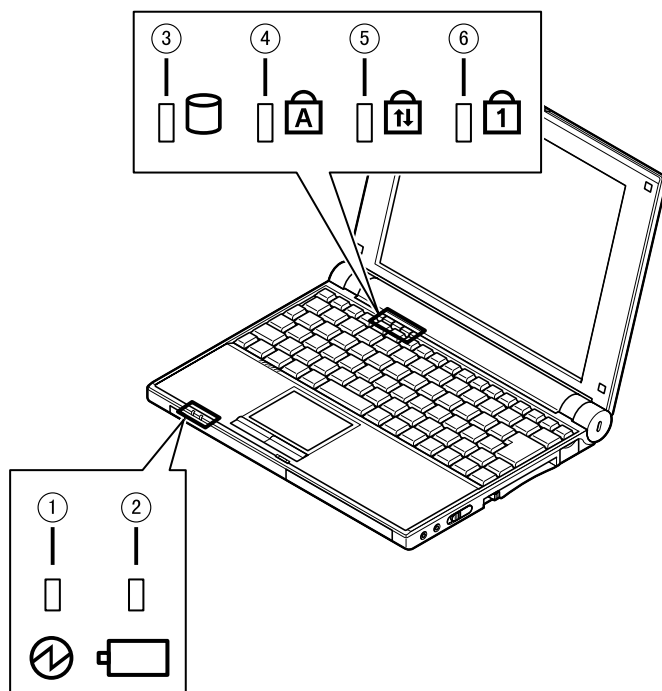


本体底面



表示ランプ

表示ランプの名称と役割



電源ランプ (①)

ランプ		本機の状態
緑	点灯	電源が入っている
	点滅	スタンバイ状態
黄色	点灯	バッテリー容量が少ない
	点滅	スタンバイ状態でバッテリー容量が少ない
オレンジ	点灯	バッテリー容量が残わずか
	点滅	スタンバイ状態でバッテリー容量が残わずか
消灯		電源が切れている、または休止状態

バッテリー充電ランプ()

ランプ	本機の状態
オレンジ点灯	内蔵バッテリー充電中
緑点灯	バッテリーパック充電中
消灯	ACアダプタが接続されていない、または充電完了

アクセスランプ()

ランプ	本機の状態
緑点灯	ハードディスクにアクセス中
消灯	ハードディスクにアクセスしていない

キャップスロックキーランプ()

ランプ	本機の状態
緑点灯	【Caps Lock】がロックされている 英字を入力すると大文字になります。
消灯	【Caps Lock】がロックされていない 英字を入力すると小文字になります。

スクロールロックキーランプ()

ランプ	本機の状態
緑点灯	【Scr Lk】がロックされている
消灯	【Scr Lk】がロックされていない

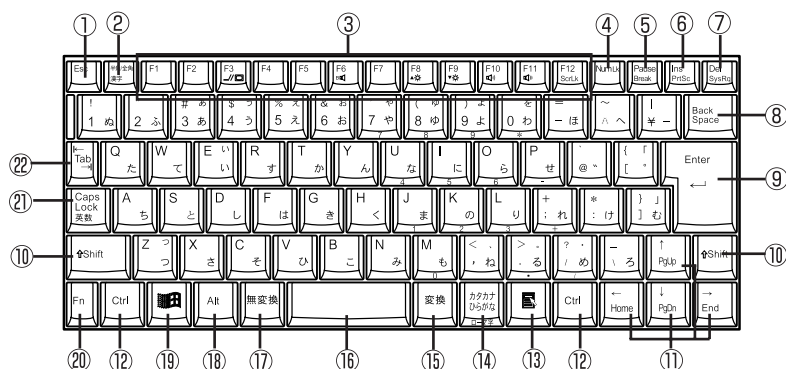
ニューメリックロックキーランプ()

ランプ	本機の状態
緑点灯	【Num Lk】がロックされている キーを押すとキー前面の青い文字が入力されます。
消灯	【Num Lk】がロックされていない キーを押すとキー上の白い文字が入力されます。

キーボード

キーボードの基本的な使い方を説明します。

キーの名称



- ①【Esc】: エスケープキー
- ②【半角 / 全角】: 半角 / 全角キー
- ③【F1】~【F12】: ファンクションキー
- ④【Num Lk】: ニュメリックロックキー
- ⑤【Pause】: ポーズキー
- ⑥【Ins】: インサートキー
- ⑦【Del】: デリートキー
- ⑧【Back Space】: バックスペースキー
- ⑨【Enter】: エンターキー(リターンキー)
- ⑩【Shift】: シフトキー
- ⑪【↑】【↓】【←】【→】: カーソル移動キー
- ⑫【Ctrl】: コントロールキー
- ⑬【】: アプリケーションキー
- ⑭【カタカナ ひらがな】: かなキー
- ⑮【変換】: 変換キー
- ⑯スペースキー
- ⑰【無変換】: 無変換キー
- ⑱【Alt】: オルトキー
- ⑲【】: Windowsキー
- ⑳【Fn】: エフエヌキー
- ㉑【Caps Lock】: キャップスロックキー
- ㉒【Tab】: タブキー

キーの使い方

特殊なキーの使い方

キー操作	説 明
【Shift】+【Caps Lock】	一度押すとキャップスロックキーランプが点灯し、アルファベットを入力すると大文字が入力されます。 もう一度押すとキャップスロックキーランプが消灯し、アルファベットを入力すると小文字が入力されます。
【Alt】+【半角 / 全角】 または 【半角 / 全角】	一度押すと日本語入力システムがオンになり、日本語が入力できるようになります。 もう一度押すと日本語入力システムがオフになり、日本語が入力できなくなります。
【Alt】+【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すとかな入力モードになり、キー上面のかな文字で日本語を入力できるようになります。もう一度押すとローマ字入力モードになり、キー上面のアルファベットの組み合わせで日本語を入力できるようになります。
【Caps Lock】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すと英数字が入力されるようになります。
【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっていて英数字が入力されるモードになっているとき、一度押すとひらがなやカタカナを入力できるようになります。
【Fn】	他のキーと組み合わせて機能を実行します(→p.20)

ホットキー機能【Fn】の使い方)

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、本機の設定をキー操作で簡単に調整することができます。これをホットキー機能といいます。

組み合わせが可能なキーとその機能を表すアイコンは【Fn】と同じ色（青または黄）でキー上面に印字されているものもあります。

キー操作	機 能	説 明
【Fn】+【F3】	ディスプレイの切り替え 	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」→「液晶ディスプレイ」→「CRT」の順に切り替わります（→ p.44, 145）
【Fn】+【F6】	ビープ音量調節 	ビープ音の音量を調節します（小、中、大、なし）。
【Fn】+【F8】	輝度を上げる 	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します。
【Fn】+【F9】	輝度を下げる 	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します。
【Fn】+【F10】	音量を上げる 	キーを押すごとに、スピーカの音量が上がります。
【Fn】+【F11】	音量を下げる 	キーを押すごとに、スピーカの音量が下がります。
【Fn】+【F12】	スクロールロック	【Scr Lk】の役割
【Fn】+【Num Lk】	ニューメリックロック	一度キーを押すとニューメリックロックキーランプが点灯し、キー前面に青で表示されている数字や記号を入力できるようになります。もう一度押すとニューメリックロックキーランプが消灯し、通常の文字が入力できるようになります。
【Fn】+【Pause】	Break	【Break】の役割
【Fn】+【Ins】	プリントスクリーン	【Prt Scr】の役割
【Fn】+【Del】	システムリクエスト	【Sys Rq】の役割
【Fn】+【↑】	Page Up	【PgUp】の役割
【Fn】+【↓】	Page Dn	【PgDn】の役割
【Fn】+【←】	Home	【Home】の役割
【Fn】+【→】	End	【End】の役割
【Fn】+【Alt】	右Alt	右【Alt】の役割
【Fn】+【  】	右Windows	右【  】の役割

：LX60T/7B1EC、LG60T/TLではバックライトスイッチを「オン」にした場合のみ輝度の調整が可能です。

【Fn】+【F3】～【F12】で設定した内容は、電源を切ったり再起動したりすると解除されます（【Fn】+【F6】を除く）。

キーボードの設定をする

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「キーボード」アイコンをダブルクリックする
「キーボードのプロパティ」が表示されます。

「キーボードのプロパティ」ウインドウでは、ウインドウ左上の各タブを選択すると、キーボードの設定を行うことができます。

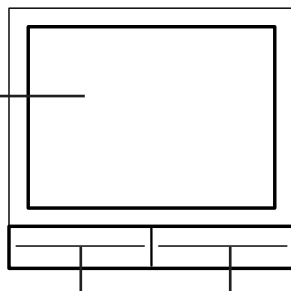
それぞれの設定について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

NXパッド

本機には、ポインティングデバイスとしてNXパッドが内蔵されています。NXパッドは、コントロールパネルを使ってより使いやすいように設定できます。

NXパッドの使い方

パッド
———
ここで指をすべらせて、ポインタの移動などを行います。パッドを使って、クリックと同じ操作をすることもできます。



クリックボタン
———
左右2つのボタンがあります。これらのボタンで操作の確定などを行います。

・クリックボタン

画面上のボタンやアイコンにポインタをあわせて、左のクリックボタンを押すことを「クリック」、すばやく2回続けて押すことをダブルクリックといいます。右のクリックボタンを1回押すことを右クリックといいます。

・パッド

パッド上で指を動かすと、指の動きにあわせて画面上のポインタ（カーソル）が動きます。

パッドを指先で軽くたたくと、クリックボタンを押したときと同じ操作になります。また、2回連続してパッドをたたくと、ダブルクリックと同じ操作になります。パッドを軽くたたいて、クリックと同じ操作をすることをタップといいます。

ドラッグするときはアイコンやフォルダの上にポインタをあわせ、左クリックボタンを押したまま、パッドの上で指を動かします。

クリックボタンを使わずに、アイコンやフォルダにポインタをのせた状態で、パッドを軽くたたき、そのまま指を動かしてドラッグすることもできます。

NXパッドの便利な使い方

タップやパッドのみでのドラッグなどのほかにも、次のような便利な使い方があります。

- ・パッド上で指をすべらせることで画面をスクロールできるスクロール領域の設定。
- ・キーボードからの入力時に、間違えてタップしたりポインタが動くことが無いようにNXパッドを無効にする設定。
- ・NXパッドを使って画面回転機能を利用するとき

これらの機能を活用するために、NXパッドドライバをインストールする必要があります。インストール手順については、次の「NXパッドドライバをインストールする(モバイルノート(長時間駆動型)のみ)」をご覧ください。

NXパッドドライバをインストールする(モバイルノート(長時間駆動型)のみ)

 **チェック!!** LaVie MXでは、次の手順は必要ありません。

■ Windows Me / Windows 98の場合

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 2** 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
- 3** 「マウス」の左の $\oplus$ をクリックする
- 4** 現在セットアップされているマウスを選択し、「プロパティ」ボタンをクリックする
- 5** 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」が起動します。
- 6** 次の操作を行う
 - ・ Windows Meの場合
「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

- ・ Windows 98の場合
「次へ」ボタンをクリックする

7 次のものを選択し、「次へ」ボタンをクリックする

- ・ Windows Meの場合
「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」
- ・ Windows 98の場合
「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」

8 「ディスク使用」ボタンをクリックする

9 「C: ¥NXPAD」と入力し、「OK」ボタンをクリックする

10 「モデル」のリストの中から「NX PAD」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする 「NX PAD」が複数表示されている場合は、一番上の「NX PAD」を選択してください。

 **チェック!!** 「ドライバ更新の警告」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックします。

11 「次へ」ボタンをクリックする ファイルのコピーが行われます。 この操作以降は、マウスポインタが動かない場合があります。その場合は、キーボードで操作してください。

12 「完了」ボタンをクリックする

13 再起動を促すメッセージが表示された場合は、「いいえ」ボタンをクリックする

14 「NX PADのプロパティ」または「NX PADプロパティ」画面の「閉じる」ボタンをクリックする

15 「システムのプロパティ」画面の「閉じる」ボタンをクリックする

16 本機を再起動する

再起動後、設定が有効になります。

 **チェック!!** 再起動後、ポインタが動かない場合は【Ctrl】を押しながら【Esc】を押して「スタート」メニューを表示させ、Windowsを起動しなおしてください。項目の変更はカーソル移動キー、項目の選択は【Enter】で行うことができます。

■ Windows 2000の場合

- 1 「Administrator」でログオンする
- 2 使用中のアプリケーションをすべて終了する
- 3 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする
- 4 「ハードウェア」タブをクリックし、現在使用しているマウスを選択してから「プロパティ」ボタンをクリックする
現在使用しているマウスのプロパティ画面が表示されます。
- 5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
- 6 「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択して、「次へ」ボタンをクリックする
- 8 「ディスク使用」ボタンをクリックする
- 9 「参照」ボタンをクリックする
- 10 「ファイルの場所」に「C:\WIN2K\NXPAD」フォルダを指定する
- 11 「Apfiltr.inf」を選択してから「開く」ボタンをクリックする
- 12 「OK」ボタンをクリックする

13 「NX PAD」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックする

14 「次へ」ボタンをクリックする
必要なファイルがコピーされます。
「デジタル署名が見つかりませんでした」画面が表示された場合は、
「はい」ボタンをクリックしてください。

15 「完了」ボタンをクリックする

16 「閉じる」ボタンをクリックする
「システム設定の変更」画面が表示されます。

17 「はい」ボタンをクリックする
本機が再起動します。

NXパッドの設定をする

WindowsでNXパッドをより使いやすく設定することができます。

1 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする
「マウスのプロパティ」が表示されます。

「マウスのプロパティ」ウィンドウでは、ウィンドウの左上の各タブを選択すると、NXパッドの設定を行うことができます。

それぞれの設定について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

内蔵ハードディスク

ハードディスクとはWindowsやアプリケーションなどのソフトウェアや、作成したデータを磁気的に記録して、読み出すための装置です。

ハードディスク使用上の注意

本機に内蔵されているハードディスクは、非常に精密に作られています。特に、データの読み書き中(アクセスランプの点灯中)には、少しの衝撃が故障の原因になる場合がありますので、ご注意ください。

ハードディスクが故障すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまうことがあります。特に、自分で作成したデータなどは、再セットアップしても元どおりにはできません。

大切なデータは、フロッピーディスクやCD-R、CD-RWなどの、ハードディスク以外の媒体に定期的にバックアップ(コピー)をとっておくことをおすすめします。

FAT32ファイルシステムを使用するときの注意

FAT32を使用するときは、次の注意事項を確認してから使用してください。

- ・ FAT32はWindows Me、またはWindows 98モデルにインストールされているWindows Me、Windows 98で使うことができます。
- ・ 別売のソフトウェアによっては正しく動作しないことがあります。
- ・ スキャンディスク、バックアップ、およびデフラグなど、「アクセサリ」の「システムツール」にあるディスク管理ツールはFAT32に対応しています。ただし、「ドライブスペース」でFAT32のドライブを圧縮することはできません。

ハードディスクの購入時の状態

■ LaVie MXの場合

LaVie MXでは購入時、ハードディスク全容量の75%がCドライブ、残り25%がDドライブに割り当てられており、次のように領域が作成されています。

例：ハードディスクの全容量が「20Gバイト」の場合

Windows Meモデルの場合

Cドライブ：約15Gバイト(FAT32)

Dドライブ：約5Gバイト(FAT32)

Windows 2000 Professionalモデルの場合

Cドライブ：約15Gバイト(FAT32)

Dドライブ：約5Gバイト(NTFS)

■ モバイルノート(長時間駆動型)の場合

購入時、モバイルノート(長時間駆動型)のハードディスクは次のように領域確保されています。

	Cドライブ	Dドライブ
Windows Meモデル	FAT32ファイルシステム (約4Gバイト)	FAT32ファイルシステム (残りの領域)
Windows 98モデル	FAT16ファイルシステム (約2Gバイト)	FAT32ファイルシステム (残りの領域)
Windows 2000 Professionalモデル	FAT32ファイルシステム (約4Gバイト)	NTFSファイルシステム (残りの領域)

領域の確保とフォーマット

ハードディスクの領域を削除した場合や、外付けのハードディスクを増設した場合などには、ハードディスクの領域の確保とフォーマットが必要です。

■ Windows Me / Windows 98の場合

領域の確保

1 「MS-DOSプロンプト」画面でFDISKと入力し【Enter】を押す

2 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されたら「Y」を選んで【Enter】を押す

FAT32ファイルシステムで領域を作成します。より効率よく大容量ハードディスクを利用することができます。

FAT32について詳しくは、「FAT32ファイルシステムの利用」(→p.33)をご覧ください。

Nを入力した場合は、FAT16ファイルシステムで領域を作成します。最大2Gバイトまでの容量をひとつのドライブとして扱えます。

3 【1】を入力し【Enter】を押す

領域を作成する画面が表示されます。

4 【2】を入力し【Enter】を押す

「領域のサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください。拡張MS-DOS領域を作ります」と表示されます。

 **チェック!!** 確保される領域は入力した領域サイズよりも大きくなる場合があります。例えば、FAT16で2,047Mバイトを取得しようすると、2,052Mバイト等の値になり、FAT16で取得できない場合があります。このような場合は、2,045Mバイト等、2,047Mバイトより小さい値で入力してください。

5 【Enter】を押す

「拡張MS-DOS領域を作成しました。」と表示されます。

6 【Esc】を押す

「論理ドライブのサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください」と表示されます。

7 サイズを入力して【Enter】を押す

「論理MS-DOSドライブを作成しました。ドライブ名は変更または追加されました」と表示されます。

8 拡張MS-DOS領域がなくなるまで手順7を繰り返し、すべての拡張MS-DOS領域を論理ドライブに割り当てる

「拡張MS-DOS領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています」と表示されます。

9 【Esc】を3回押す
「C: ¥WINDOWS >」の表示に戻ります。

10 「EXIT」と入力し、【Enter】を押す
Windowsの画面に戻ります。

11 本機を再起動する

フォーマット

領域を確保したら、続いてハードディスクをフォーマットします。

 **チェック!!** すでに使用されているドライブをフォーマットすると、そのドライブに保存されていたデータがすべて消えてしまいます。フォーマットする際は、十分注意してください。

1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする

2 新たに領域を確保したドライブをクリックする

3 「ファイル」メニュー→「フォーマット」をクリックする
フォーマットの画面が表示されます。

4 「通常のフォーマット」をクリックする

5 「開始」ボタンをクリックする
確認の画面が表示されます。

6 「OK」ボタンをクリックする
フォーマットが始まります。
しばらくすると、フォーマットが終了してフォーマットの結果の画面が表示されます。

7 「閉じる」ボタンをクリックする
スキャンディスクの実行を促す画面とヘルプが表示されます。

 **参照** スキャンディスクについて →『活用ガイド ソフトウェア編』

- 8 「OK」ボタンをクリックする
- 9 「フォーマット」の画面をクリックする
- 10 「閉じる」ボタンをクリックする
- 11 ヘルプの内容に従って、スキャンディスクを実行する

複数のドライブをフォーマットしたいときは、手順2～11の操作を繰り返してください。

■ Windows 2000の場合

ここでは、ハードディスクの拡張パーティションの作成と論理ドライブの作成について説明します。プライマリパーティションの作成方法などについては、「ディスクの管理」のヘルプをご覧ください。

領域の確保とフォーマット

- 1 「コントロールパネル」を開き、「管理ツール」アイコンをダブルクリックする
「管理ツール」ウィンドウが表示されます。
- 2 「コンピュータの管理」アイコンをダブルクリックする
「コンピュータの管理」ウィンドウが表示されます。
- 3 画面左側にある「ツリー」の中の「ディスクの管理」をクリックする
表示された画面で、ハードディスクの容量や領域、ファイルシステムを確認してください。
- 4 画面右下に表示されている「未割り当て」を選んで右クリックする
ハードディスクに未割り当ての部分がない場合は表示されません。すでに使用しているドライブのパーティションの削除などについては、「コンピュータの管理」のヘルプをご覧ください。
- 5 表示されたメニューから、「パーティションの作成」をクリックする
「パーティションの作成ウィザード」ウィンドウが表示されます。

6 「次へ」ボタンをクリックする

7 「拡張パーティション」の○をクリックして●にし、「次へ」ボタンをクリックする

拡張パーティションとして使用できる最小サイズと最大サイズが表示されます。

8 作成する拡張パーティションのサイズを入力して「次へ」ボタンをクリックする

指定されたサイズのパーティションが作成されます。

9 「完了」ボタンをクリックする

ハードディスクの未割り当て領域がなくなるまで手順4～9をくりかえし、すべての領域を割り当ててください。割り当てられた領域は、「ディスクの管理」ウィンドウでは「空き領域」と表示されます。続いてフォーマットを行います。

10 画面右下に表示されている「空き領域」を選んで右クリックする

 **チェック!!** すでに使用しているドライブをフォーマットすると、そのドライブに保存していたデータがすべて消えてしまいます。フォーマットする際は、十分注意してください。

11 表示されたメニューから、「論理ドライブの作成」をクリックする
「パーティションの作成ウィザード」が表示されます。

12 「次へ」ボタンをクリックする

13 「次へ」ボタンをクリックする
論理ドライブとして使用できる最小サイズと最大サイズが表示されます。

14 作成する論理ドライブのサイズを入力し、「次へ」ボタンをクリックする

15 表示されたドライブ文字の割り当てを確認して「次へ」ボタンをクリックする
「パーティションのフォーマット」が表示されます。

16 フォーマットの設定を確認して「次へ」ボタンをクリックする
必要であれば、フォーマットの設定を変更してください。フォーマットが
はじまります。

17 「完了」ボタンをクリックする
これで、フォーマットが完了しました。複数のドライブをフォーマットした
場合は、手順10～17をくりかえしてください。

 **チェック!!** ・新たにパーティションの作成を行った後、「コンピュータの管理」ウィンドウを
閉じると「ワトソン博士」のエラーメッセージが表示される場合がありますが、
新たなパーティションは使用できます。

・「パーティションの作成ウィザード」の項目を入力し、「完了」をクリックすると、
新しいパーティションの作成後、「ボリュームは開かれているか、または使用中
です。要求を完了できません。」というようなメッセージが表示される場合があ
ります。この場合は、以下の手順でパーティションの初期化を行ってください。

新たに作成したパーティションを右クリックし、「フォーマット」をクリックする
項目を設定し、「OK」ボタンをクリックする
「OK」ボタンをクリックする

FAT32ファイルシステムの利用

FAT32を利用するには

FAT32を利用するには、「FDISK」コマンドを使用してFAT32ファイルシ
ステムで領域を作成します。

また、Windows 98では「ドライブコンバータ(FAT32)」を利用することで、
FAT16のドライブをFAT32に変換することもできます。「ドライブコンバータ
(FAT32)」について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

「FDISK」コマンドでFAT32の領域を作成する

1 「MS-DOSプロンプト」画面でFDISKと入力し【Enter】を押す

2 【Y】を押して【Enter】を押す

3 領域を作成する

512Mバイト以上の領域を作成すると、その領域にはFAT32が適用されます。作成した領域が512Mバイトよりも小さいときには自動的にFAT16が適用されます。

4 「FDISK」を終了し、本機を再起動する

5 作成したドライブをフォーマットする

ハードディスクのメンテナンス

本機には、ハードディスクの障害を検出したり、アクセス速度を保つためのメンテナンスソフトが組み込まれています。ハードディスクに障害や断片化があった場合可能な範囲で修復することができます。

参照▶ ハードディスクのメンテナンス →『活用ガイド ソフトウェア編』

フロッピーディスクドライブ

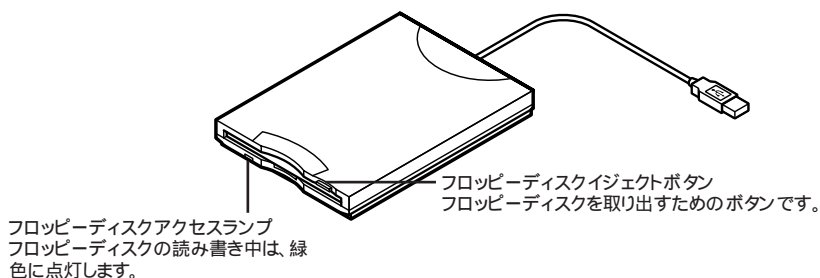
LaVie Gシリーズの外付け3.5インチフロッピーディスクドライブ添付のモデル、またはモバイルノート(長時間駆動型)にはUSBタイプの外付け3.5インチフロッピーディスクドライブが1台添付されています。

LaVie MXでフロッピーディスクを使用する場合は、別売のフロッピーディスクユニット(PK-VP-BU04)が必要です。

フロッピーディスクドライブの取り付け方と取り外し方

本機でフロッピーディスクを使用する場合は、添付のフロッピーディスクドライブをUSBコネクタに取り付けます。USBコネクタにフロッピーディスクドライブを取り付ける / 取り外す手順については「USBコネクタに接続する」(p.162)をご覧ください。

各部の名称と役割



使用できるフロッピーディスクの種類

本機では、次の形式のフロッピーディスクを使うことができます。

ディスクの種類	容量	読み書き	フォーマット	ディスクコピー
フロッピーディスク (2DD)	640KB	×	×	×
	720KB	○	○	○
フロッピーディスク (2HD)	1.2MB	○ ¹	×	×
	1.44MB	○	○	○

○:使用可能

×:使用不可

1:LaVie MXでは使用不可

使用上の注意

- ・本機では、PC-9800シリーズのパソコンでフォーマットされたフロッピーディスクを使ってシステムを起動することはできません。
- ・「ディスクのコピー」のコピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたものを使用してください。
- ・フォーマットしていないフロッピーディスクをマイコンピュータなどで選択すると、フロッピーディスクドライブのアクセスランプが点灯し続けたり、フォーマットしようとするフォーマット開始までの時間が長くなる場合があります。これは、フロッピーディスクの種類を判別しているためなので、処理が開始されるまでしばらくお待ちください。
- ・Windows MeまたはWindows 98を使用している場合、MS-DOS Ver.6.2以前のFORMATコマンドでフォーマットしたフロッピーディスクを、MS-DOSプロンプトからDISKCOPYコマンドでディスクコピーすることはできません。「マイコンピュータ」の「3.5インチFD」アイコンを右クリックし、「メニュー」から「ディスクのコピー」を実行してください。
- ・Windows MeまたはWindows 98を使用している場合、2DDのフロッピーディスクを720KBでフォーマットしたときは、いったんフロッピーディスクを取り出し、もう一度入れ直してから使用してください。フォーマット後に、フロッピーディスクを入れ直さずにファイルを書き込もうとすると、フォーマットが正常に終了していても、エラーが発生する場合があります。クイックフォーマットされたフロッピーディスクの場合は、この手順は必要ありません。
- ・Windows Meを使用している場合、1.2MBでフォーマットされたフロッピーディスクを1.44MBでフォーマットし直すことはできません。
- ・フロッピーディスクドライブの上に重いものを置いた状態で保管したり、使用したりしないでください。破損したり、故障の原因となることがあります。
- ・フロッピーディスクを書き込み、または読み取り中は、フロッピーディスクアクセスランプが点灯します。アクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因となります。

CD-ROMドライブ

ここでは、CD-ROMモデルに添付の外付CD-ROMドライブについて説明します。

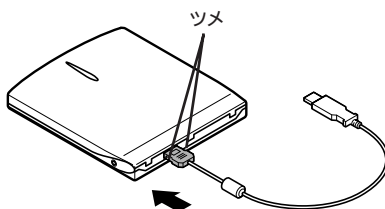
CD-ROMドライブの取り付け方と取り外し方

添付の外付CD-ROMドライブは、本体のUSBコネクタに取り付けます。

CD-ROMドライブを取り付ける

チェック!! Windows 2000の場合、本機に接続できるCD-ROMドライブは1台のみです。複数のCD-ROMドライブを接続することはできません。

- 1** CD-ROMドライブの背面にCD-ROMドライブ用ケーブルの小さい方のプラグを取り付ける
プラグの左右のツメを押しながら、カチッと音がするまで軽く押し込みます。



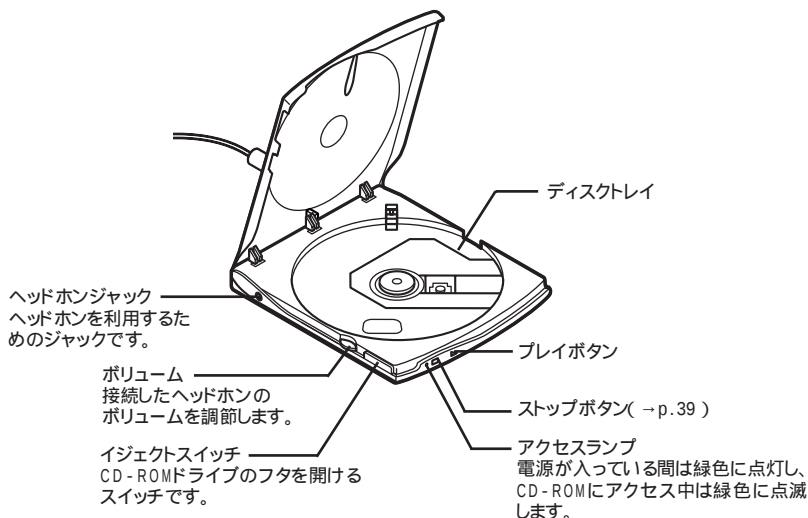
- 2** 本体のUSBコネクタ()にCD-ROMドライブを取り付ける
USBコネクタにCD-ROMドライブを取り付ける手順については「USBコネクタに機器を取り付ける」(→ p.164)をご覧ください。

CD-ROMドライブを取り外す

CD-ROMドライブをUSBコネクタから取り外す手順については「USBコネクタから機器を取り外す」(→ p.165)をご覧ください。

各部の名称と役割

CD-ROMドライブでは、CD-ROMやCD-Rの読み込み、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどの再生ができます。



CD-ROMドライブのイジェクトスイッチやアクセスランプの位置および形状は、イラストと多少異なることがあります。

プレイボタン

プレイボタンを押すときの状態によって、機能が異なります。

プレイボタンを押すときの状態	機能
停止状態で押す	CDの最初のトラックから再生する
ポーズ(一時停止)状態で押す	一時停止した位置からCDを再生する
再生状態で押す	現在再生中のトラックの次のトラックにジャンプし、CDを再生する
再生状態でプレイボタンを約2.5秒以上押し続ける	- 現在再生中のトラックの再生がはじまってから10秒未満の場合は、前のトラックの最初にジャンプし、CDを再生する - 現在再生中のトラックの再生がはじまってから10秒以上の場合は、現在再生中のトラックの最初にジャンプし、CDを再生する

:ランダム再生中も含む

ストップボタン

ストップボタンを押すときの状態によって、機能が異なります。

ストップボタンを押すときの状態	機能
CDを再生中に押す	ポーズ(一時停止)状態になる
ポーズ(一時停止)状態で押す	停止状態になる

ポーズ(一時停止)状態が32秒以上続いた場合、自動的に停止状態になります。次に再生したときにはポーズ(一時停止)した位置ではなく、CDの最初から再生されます。

プレイボタン・ストップボタンの同時押し

CDを再生中に、プレイボタンとストップボタンを同時に約1秒以上押すと、再生中のCDが自動的にランダム再生になります。また、ランダム再生中に、プレイボタンとストップボタンを同時に押し続けると、ランダムに次のトラックにジャンプします。

ランダム再生機能を解除したい場合は、次の操作を行ってください。

- ・ 停止状態にする
- ・ CD-ROMドライブのフタを開ける
- ・ アプリケーションで再生 / 停止の操作をする



チェック!!

- ・ 本体のスピーカからCDの音声が出力されない場合は、「音楽CDを再生するための設定をする」(→p.100)をご覧ください。
- ・ 本機にインストールされているアプリケーションを利用してCDを再生中にCD-ROMドライブのプレイボタン・ストップボタンを押しても、有効に動作しない場合があります。また、ランダム再生中にアプリケーションを起動すると、ランダム再生モードが解除されます。
- ・ 音楽CDを再生するアプリケーションを使用せずにCD-ROMドライブのみで音楽CDを再生する場合は、CD-ROMドライブのプレイボタン、ストップボタンを使って操作を行ってください。音楽CDを再生するアプリケーションを使用する場合は、CD-ROMドライブのプレイボタン・ストップボタンは使用せず、アプリケーションで操作を行ってください。

使用上の注意

- ・ CD-ROMドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。
- ・ アクセスランプが点滅しているときは、ディスクを取り出したり、本体からCD-ROMドライブ用ケーブルを取り外したりしないでください。本機の故障の原因となります。ケーブルの抜き差しを行うときは、3秒以上の間隔をおいて行ってください。
- ・ ディスクの盤面にはラベルやテープなどを貼らないでください。故障の原因となります。
- ・ 本体を移動するときは、CD-ROMドライブ用ケーブルを本体から取り外してください。取り外さずに本体を移動すると故障の原因となることがあります。
- ・ CD-ROMドライブ用ケーブルをCD-ROMドライブから取り外すときは、ケーブルの左右のロックを解除して(ツメを押しながら)取り外してください。左右のロックを解除しないでケーブルを引き抜くと、故障の原因となることがあります。
- ・ 本体にCD-ROMドライブとそのほかのUSB対応機器が接続されている場合には、CD-ROMドライブのデータ転送速度が遅くなることがあります。
- ・ Windows MeまたはWindows 98の場合、接続されていないCD-ROMドライブが存在する場合がありますが、これはVirtual CD 2によって作成された仮想のCD-ROMドライブです。仮想CD-ROMドライブについて詳しくは、「Virtual CD 2を使う」をご覧ください。

Virtual CD 2を使う

ここでは、Windows MeモデルおよびWindows 98モデルに添付されているVirtual CD 2について説明しています。

Virtual CD 2は、パソコンに仮想CD-ROMドライブを追加し、そのドライブで利用できる仮想CDを作成して利用するためのアプリケーションです。作成した仮想CD-ROMドライブは、Windows上で通常のCD-ROMドライブを扱うような感覚で利用できます。

仮想CDとは、CD-ROMや音楽CDの内容をハードディスク上に1つのファイルとしてまとめたもので、Virtual CD 2によって追加された仮想CD-ROMドライブで使用することができます。



チェック!! Virtual CD 2は、購入時にはインストールされていません。Virtual CD 2を使用する場合は、添付の「アプリケーションCD-ROM」を使ってインストールしてください。

参照 Virtual CD 2のインストール→『活用ガイド ソフトウェア編』の「PART2 添付アプリケーションの追加と削除」

Virtual CD 2のおもな機能

Virtual CD 2には次のような機能があります。

- ・ 仮想CD-ROMドライブとハードディスクドライブ上の仮想CDを使用するので、CD-ROMなどのディスクを利用するたびに入れ替えたり、外出時に持ち歩いたりする必要がなくなります。
- ・ ハードディスクドライブ上の仮想CDを使用するので、通常のCD-ROMドライブに比べて高速にデータの読み出しができます。
- ・ 仮想CD-ROMドライブを最大20台まで追加して使用できます。また、複数の仮想CD-ROMドライブを同時に使用できます。
- ・ 通常のCD-ROMだけでなく、音楽CDを仮想CDにすることができます。
- ・ 仮想CDは必要に応じてデータを圧縮できるので、ハードディスクの容量に応じて作成することができます。

Virtual CDマネージャの起動と終了

Virtual CDマネージャは、仮想CDを作成するとき、または仮想CD-ROMドライブに作成した仮想CDをセットしたり、取り出すときに利用します。次の手順で起動してください。

起動する

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Virtual CD」→「Virtual CD マネージャ」をクリックする

著作権についての注意事項が書かれた画面が表示された場合は、「OK」ボタンをクリックしてください。「Virtual CDマネージャ」が表示されます。

インジケータ領域(タスクトレイ)に表示されているをダブルクリックして起動することもできます。

終了する

Virtual CDマネージャを終了するときは、「Virtual CDマネージャ」画面のをクリックしてください。

仮想CD-ROMを作成する

CD-ROMなどを仮想CD-ROMドライブで使用するには、CD-ROMから仮想CD-ROM(VCDファイル)を作る必要があります。仮想CD-ROMの作成は次の手順で行います。

- 1** 仮想CD-ROMとして作成したいCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする
- 2** 「Virtual CDマネージャ」を起動する
- 3** ツールバーのをクリックする
「仮想CD-ROMの作成」の画面が開きます。
- 4** 「オリジナルCD-ROMの指定」欄の「オリジナルCD-ROMが挿入されているCDドライブ」が、CD-ROMをセットしたドライブになっていることを確認する
ドライブが違っている場合は、▼をクリックして正しいドライブを選んでください。
- 5** 「仮想CD-ROMの作成方法」の「ドライブ指定」で仮想CDを作成するドライブを選ぶ
- 6** 「仮想CD-ROMのファイル名」および「仮想CD-ROMの説明」欄に、ファイル名や作成する仮想CDの情報を入力する
- 7** データ圧縮を行う場合は、「仮想CD-ROMを圧縮する」を☒にして、圧縮の比率を選ぶ
- 8** 「仮想CD-ROM作成開始」ボタンをクリックする
- 9** 「Virtual CD マネージャ」画面で「はい」ボタンをクリックする
仮想CD-ROMの作成がはじまります。
- 10** 「現在の状況」欄に「仮想CDの作成が完了しました。」と表示されたら「OK」ボタンをクリックする

作成した仮想CDを使う

仮想CDをセットする

- 1 「Virtual CDマネージャ」を起動する
- 2 左側の「仮想ドライブ」ウィンドウで使用する仮想CD-ROMドライブを選ぶ
- 3 右側のウィンドウで使用する仮想CDを選ぶ
- 4 ツールバーのをクリックする

仮想CDを使う

「仮想CDをセットする」の順にしたがってセットしたあとは、通常のCD-ROMドライブにCD-ROMがセットされているのと同じように、仮想CD-ROMドライブを使用することができます。

仮想CDを取り出す

- 1 「Virtual CDマネージャ」を起動する
- 2 左側の「仮想ドライブ」ウィンドウで仮想CDを取り出したい仮想CD-ROMドライブを選ぶ
- 3 ツールバーのをクリックする

参照 Virtual CD 2の詳しい使い方について→「Virtual CD 2 マニュアル」

「Virtual CD 2 マニュアル」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「Virtual CD」→「Virtual CD 2 マニュアル」をクリックすると表示されるオンラインのマニュアルです。

「Virtual CD 2 マニュアル」をご覧になるには、Acrobat Readerが必要です。インストールされていない場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』の「PART2 添付アプリケーションの追加と削除」をご覧ください。

液晶ディスプレイ

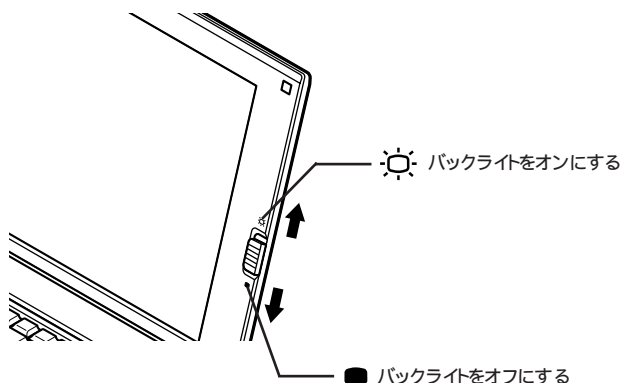
本機の液晶ディスプレイの表示を調整する方法や、表示できる解像度と表示色について説明しています。

✓チェック!! LX60T/7B1EC、LG60T/TLの液晶ディスプレイは微透過型ディスプレイを使用しているため、暗い場所では画面が見えにくいことがあります。このような場合はバックライトスイッチをオンにするか、明るい場所で使用してください。

表示を調整する

ディスプレイのバックライト機能を切り替える

LX60T/7B1EC、LG60T/TLのディスプレイはバックライトを内蔵しています。バックライトのスイッチをスライドして「オン」/「オフ」を切り替えます。



輝度を調整する

本機では、キーボードを使って輝度の調整を行います。

機 能	キー操作	説 明
輝度を上げる ▲☀	【Fn】+【F8】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します。
輝度を下げる ▼☀	【Fn】+【F9】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します。

 **チェック!!** ・LX60T/7B1EC、LG60T/TLでは、バックライトスイッチを「オン」にした場合のみ輝度の調整が可能です。

- ・バックライトスイッチを「オン」にすると、バッテリー駆動時間が短くなります。明るい場所で使用する場合はバックライトスイッチを「オフ」にして使用してください。

表示できる解像度と表示色

本機の液晶ディスプレイは、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

解像度 (ドット)	表示色	本機の液晶 ディスプレイ のみに表示	別売のCRT ディスプレイ のみに表示	本機の液晶 ディスプレイと 別売のCRT ディスプレイの 同時表示 ^{1 2}
640 × 480	16色	○	○	○
	26万色中256色	○	○	○
	65,536色	○	○	○
	1,677万色 ³	○	○	○
800 × 600	26万色中256色	○	○	○
	65,536色 ⁴	○	○	○
	1,677万色 ³	○	○	○
1,024 × 768	26万色中256色	○	○	○
	65,536色	○	○	○
	1,677万色 ³	○	○	○
1,280 × 1,024 ⁵	26万色中256色		○	
	65,536色		○	
	1,677万色 ³		○	
1,600 × 1,200 ⁵	26万色中256色		○	
	65,536色		○	

○：フルスクリーン表示可能

：バーチャルスクリーン(→p.47)のみ表示可能(Windows 2000を除く)

1：別売CRTディスプレイ未接続時は本機の液晶ディスプレイのみに表示される

2：別売のCRTディスプレイへは、表示解像度によらず水平走査周波数48.4kHz、垂直走査周波数60Hz(解像度1024 × 768、60Hz相当)で出力されます。お使いになるCRTディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。

3：本機の液晶ディスプレイでは、ウィンドウアクセラレータのディザリング機能により実現

4：購入時の設定

5：LaVie MXのみ

解像度と表示色を変更する

ディスプレイの解像度と表示色はコントロールパネルで設定します。

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「設定」タブをクリックする

3 画面の領域または色を変更する

画面の領域を変更する場合

「画面の領域」でつまみを「大」の方向へドラッグすると高解像度に、
「小」の方向にドラッグすると低解像度になります。

 **チェック!!** 設定により、マニュアルに記載されていない解像度を選択することができる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度で使用してください。

色を変更する場合

「色」または「画面の色」でをクリックし、選択一覧から変更します。
この選択一覧には、使用している液晶ディスプレイとディスプレイアダプタが対応しているカラーパレットが一覧表示されます。

4 設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックする
このあとは、画面の指示に従って操作してください。

バーチャルスクリーン(Windows 2000を除く)

バーチャルスクリーンとは、実際に表示可能な解像度よりも大きい解像度を使用できるようにするための仮想画面のことです。バーチャルスクリーンでは、仮想画面全体のサイズが実際のディスプレイの画面より大きくなるので、ディスプレイには常に仮想画面の一部が表示されている状態となります。画面をスクロールすると、ディスプレイの画面上で見えていない部分を表示することができます。

バーチャルスクリーンでは、「スタート」ボタンがディスプレイの画面上から外れ、表示されないことがあります。ディスプレイの画面上で見えていない部分を見るには、ポインタをディスプレイの画面の端に移動させます。ポインタの移動した方向に画面がスクロールし、見えなかった部分が表示されます。

 **チェック!!** バーチャルスクリーンを使用しているときは、画面回転機能は利用できません。

バーチャルスクリーンモードの設定方法

バーチャルスクリーンモードを使用する場合には、次の設定が必要です。

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 3** 「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。
- 4** 次の操作を行う
 - ・ Windows Meの場合
「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」を選択し、
「次へ」ボタンをクリックする
 - ・ Windows 98の場合
「次へ」ボタンをクリックする

5 次のものを選択し、「次へ」ボタンをクリックする

- ・ Windows Meの場合
「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」
- ・ Windows 98の場合
「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」

6 「すべてのハードウェアを表示」を選択する

7 「製造元」欄で「標準モニタの種類」を選択し、「モデル」欄の「デジタル フラット パネル(1280×1024)」または「デジタル フラット パネル(1600×1200)」をクリックする

8 「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする

9 「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする

10 「OK」ボタンをクリックする これで設定が完了しました。

この後は、画面の指示に従って操作してください。上記の設定をした後は、「設定」タブで、次の解像度を設定できるようになります。

640×480ドット / 800×600ドット / 1,024×768ドット / 1,280×1,024ドット / 1,600×1,200ドット

:LaVie MXのみ

デュアルディスプレイ機能

ここでは、Windows MeモデルおよびWindows 98モデルのみの機能について説明しています。

デュアルディスプレイ(Dual Display)とは、CRTディスプレイなどの外部ディスプレイを接続したときに、本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを使ってひとつの画面として表示できる機能です。液晶ディスプレイと外部ディスプレイを続き画面として利用できるので、表示できる範囲が広がります。

デュアルディスプレイ機能は、同じ画面を2つのディスプレイに表示するのとは別の機能です。

チェック!! 画面の解像度によっては、デュアルディスプレイ表示にならない場合があります。

参照 別売のCRTディスプレイなどを接続するには→「外部ディスプレイ」(p.145)

デュアルディスプレイ機能を使う準備をする

画面を表示するディスプレイのオン/オフ、プライマリ/セカンダリを次の手順にしたがって設定します。

チェック!! デュアルディスプレイ機能を設定するときには、別売のディスプレイを接続し、電源を入れてから本機の電源を入れてください。

参照 別売のディスプレイを接続するには→PART2の「外部ディスプレイ」(p.145)

LaVie MXの場合

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックする
- 3 「詳細」ボタンをクリックする
- 4 「画面」タブをクリックする
画面の「モニタパネル」の接続状態が表示されます。
- 5 「パネル」ボタンをクリックする

- 6** 「モニタ」のをクリックし、「適用」ボタンをクリックする
「ATI プロパティページ」が表示されます。

- 7** 「はい」ボタンをクリックする

モバイルノート(長時間駆動型)の場合

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。

- 2** 「Lynx3DM」タブをクリックする
「ディスプレイの切り替え」欄に、「LCD」「CRT」の接続状態が表示されます。

- 3** 「CRT」の「オン」をクリックして、にする
CRTへの表示がオンになります。

- 4** 「OK」ボタンをクリックする

 **チェック!!** 接続した別売のディスプレイの電源が入っていないと、エラーメッセージが表示されてデュアルディスプレイ機能を利用することができません。

デュアルディスプレイ機能を使う

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。

- 2** 「設定」タブをクリックする

- 3** 画面2の絵をクリックする
モニタの使用を確認するメッセージが表示されます。

- 4** 「はい」ボタンをクリックする

- 5** 「適用」ボタンをクリックする
これでデュアルディスプレイ機能を使うことができますようになります。

デュアルディスプレイ機能を解除する

- 1 「デュアルディスプレイ機能を使う」の手順1～2を行う
- 2 画面2の絵を右クリックする
- 3 表示されたメニューから「使用可能」をクリックする
- 4 「適用」ボタンをクリックする
これでデュアルディスプレイ機能は解除されました。

ディスプレイストレッチ機能

ディスプレイストレッチとは、640×480ドットまたは800×600ドットの低解像度で表示しているときに、液晶ディスプレイに画面を拡大して表示する機能です。

- ✔ **チェック!!** ディスプレイストレッチ機能を使う設定にするには、あらかじめ、液晶ディスプレイの解像度を640×480ドットまたは800×600ドットにする必要があります。

■ LaVie MXの場合

ディスプレイストレッチ機能を使う

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
- 2 「設定」タブをクリックする
- 3 「詳細」ボタンをクリックする
- 4 「ATI 画面」タブをクリックする
画面の「モニタ」パネル」の接続状態が表示されます。
- 5 「パネル」ボタンをクリックする
- 6 「パネルの属性」欄の「イメージをパネルサイズにする」をクリックしてにする
これで拡大表示が行われます。

7 「OK」ボタンをクリックする

8 「OK」ボタンをクリックする

9 「OK」ボタンをクリックする

■ モバイルノート(長時間駆動型)の場合

ディスプレイストレッチ機能を使う

Windows Me / Windows 98の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「Lynx3DM」タブをクリックし、「特殊モード」の中の「ストレッチ」
で「オン」の○をクリックして●にする

3 「OK」ボタンをクリックする
これで拡大表示が行われます。

Windows 2000の場合

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Silicon Motion Control Panel
プログラム」→「Control Panel プログラム」をクリックする
または、「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルク
リックする
「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする

3 「Lynx3DM」タブをクリックし、「特殊モード」の中の「ストレッチ」
で「オン」の○をクリックして●にする

4 「OK」ボタンをクリックする
これで拡大表示が行われます。

画面回転機能(モバイルノート(長時間駆動型)のみ)

画面回転機能では画面を90、180、270度に回転させることができます。本機の液晶ディスプレイをいっばいに開き、画面を180度回転させることにより、向かい側にいる人にプレゼンテーションを行うときなどに利用できます。

解像度(ドット)	表示色	90度、270度回転	180度回転
640×480	256色	○	○
	65,536色	○	○
	1677万色	×	×
800×600	256色	○	○
	65,536色	○	○
	1677万色	×	×
1,024×768	256色	○	○
	65,536色	○	×
	1677万色	×	×

○:回転可能

×:回転不可

-  **チェック!!** ・バーチャルスクリーン機能使用時、デュアルディスプレイ機能使用時、ディスプレイストレッチ機能使用時は利用できません。
- ・液晶ディスプレイの解像度や表示色の設定によって、回転できる角度が異なります。

画面回転機能を使う

-  **チェック!!** ・解像度や表示色の設定によっては、メッセージが表示され、画面を回転させることができない場合があります。回転可能な解像度と表示色に変更し、再度設定してください。
- ・画面回転機能を利用すると、回転した角度によってはNXパッドでの操作方向と画面のカーソル移動の方向が合わなくなることがあります。このような場合は、NXパッドドライバをインストールしてください。パッドの操作方向と画面のカーソル移動方向を合わせることができます。
- NXパッドドライバをインストールする場合は「NXパッドドライバをインストールする」(→p.23)をご覧ください。

Windows Me / Windows 98の場合

- 1** コントロールパネルを開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2** 「Lynx3DM」タブをクリックし、「特殊モード」の中の「回転」で「オン」の○をクリックして●にする
- 3** 「OK」ボタンをクリックする
「回転の設定」ウィンドウが表示されます。
- 4** 90度、180度、270度の中から希望の角度をクリックし、「OK」ボタンをクリックする
画面が希望の角度に回転します。

Windows 2000の場合

- 1** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Silicon Motion Control Panel プログラム」→「Control Panel プログラム」をクリックする
または、コントロールパネルを開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 3** 「Lynx3DM」タブをクリックし、「特殊モード」の中の「回転」で「オン」の○をクリックして●にする
- 4** 「OK」ボタンをクリックする
「回転の設定」ウィンドウが表示されます。
- 5** 90度、180度、270度の中から希望の角度をクリックし、「OK」ボタンをクリックする
画面が希望の角度に回転します。

バッテリー

本機は、ACアダプタを使用せずに、添付のバッテリーパックだけで駆動することができます。

バッテリーで本機を使うときの注意

- ✓チェック!!** ・バッテリーが十分に充電されているときは、特に必要でないかぎり、バッテリーパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因となります。
- ・充電を行う際にはできるだけフル充電するようにしてください。バッテリー残量が少ない場合などに少量の充放電を何度も繰り返して本機を使用すると、バッテリー残量に誤差が生じることがあります。
- ・ハードディスクやフロッピーディスクなどへの読み書き中にバッテリー残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータが失われたり、ハードディスクやフロッピーディスクなどのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。

⚠警告



発火注意



破裂注意

- 本機は、液晶ディスプレイの後ろにバッテリーを内蔵しています。発熱、発火、破裂の原因となりますので次のことをお守りください。
 - ・ 火中投入、水中投入、加熱しないでください。
 - ・ 改造や分解はしないでください。
 - ・ 強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。

バッテリーの上手な使い方

- ・ バッテリー残量の表示精度を良くするには定期的にバッテリーリフレッシュを実行してください(→p.58)
- ・ 本機を長期間使用しないときは、バッテリー残量を50%程度にしてからバッテリーパックを取り外し、涼しいところに保管しておくことでバッテリーの寿命を長くすることができます。
- ・ バッテリーだけで本機を長時間使用する場合は、本機の省電力機能を使用してください。

参照 省電力機能について→このPARTの「省電力機能」(p.64)

- ・ バッテリーは、自然放電しています。本機を長期間使用しない場合でも、2～3カ月に一度は充電することをおすすめします。

バッテリー駆動中にバッテリー残量が少なくなったときは

バッテリーの残量が少なくなると、電源ランプ (④) が黄色に点灯します。この場合は、状況に応じて次の操作を行ってください。

- ・ ACコンセントから電源を供給できる場合

ACアダプタを接続してACコンセントから電源を供給してください。
ACコンセントから電源を供給すると、バッテリー充電ランプ (④) が点灯し、バッテリーの充電が始まります。また、バッテリーを充電しながら本機を使用することもできます。

- ・ ACコンセントが使えない場合

使用中のソフトウェアを終了して、本機の電源を切ってください。

上記の操作を行わずにそのままにしておくと、「コントロールパネル」の「電源の管理」(Windows Me、Windows 98の場合) または「電源オプション」(Windows 2000の場合) で設定してある状態になります。

バッテリーが少なくなったときの動作の設定をする

バッテリー残量が少なくなったりバッテリー残量がなくなったときに、本機をどのような動作や状態にするかを設定することができます。設定は「コントロールパネル」の「電源の管理」アイコン(Windows Me、Windows 98の場合) または「電源オプション」アイコン(Windows 2000の場合) をダブルクリックすると表示される画面の「アラーム」タブで行うことができます。

充電のしかた

- **チェック!!** ・ バッテリーの充電中は、バッテリーパックを本機から取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。
- ・ 購入直後や長時間放置したバッテリーでは、バッテリー駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリー残量が正しく表示されないことなどがあります。必ずフル充電してから使用してください。

バッテリーの充電のしかた

本機にバッテリーパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリーの充電が始まります。
本機の電源を入れて使用していても充電されます。

充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18～28℃での充電をおすすめします。

参照 ▶ バッテリーの充電時間について → PART4の「機能一覧」(p.196)

充電状態を表示ランプで確認する

バッテリーの充電状態を、バッテリー充電ランプ()で確認することができます
(→ p.17)

参照 ▶ バッテリー充電ランプについて → PART1の「表示ランプ」(p.16)

バッテリー残量の確認

バッテリー残量は、インジケータ領域(タスクトレイ)の  や、コントロールパネルで確認することができます。

■ ACコンセントから電源を供給しているときは  は  に変わります。

インジケータ領域(タスクトレイ)で確認する

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)にある  の上にマウスポインタを合わせる
バッテリー残量が表示されます。

インジケータ領域(タスクトレイ)で詳細な情報を確認する

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)の  をダブルクリックする
バッテリー残量やバッテリーに関する詳しい情報が表示されます。
- ウィンドウ内の  をクリックするとバッテリーの種類が判別できます。

電源のプロパティで詳細な情報を確認する

- 1 「コントロールパネル」を開き、次のアイコンをダブルクリックする
 - ・ Windows Me / Windows 98の場合
「電源の管理」アイコン
 - ・ Windows 2000の場合
「電源オプション」アイコン

- 2 「電源メーター」タブをクリックする

バッテリーリフレッシュ

バッテリーは使用しているうちに、徐々に画面に表示されている残量と実際の残量にずれが生じることがあります。購入直後や長期間、バッテリーを使用しなかったため、バッテリーの性能が一時的に低下したときは、「バッテリーリフレッシュ」を実行すると、残量表示のずれを解消できます。

バッテリーリフレッシュの実行(LaVie MXの場合)

- 1** 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2** バッテリーパックを取り付けていない場合は、バッテリーパックを本体に取り付ける
- 3** パソコンにACアダプタを接続していない場合は、ACアダプタを接続し、電源コードをACコンセントに接続する
- 4** バッテリー充電ランプが点滅している場合は、一度バッテリーパックを本体から外して、再度取り付ける
- 5** バッテリーをフル充電(バッテリー充電ランプが消灯した状態)まで充電する
- 6** BIOSセットアップメニューを起動する(→p.170)
- 7** 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 8** 「終了」メニューの「バッテリーリフレッシュ」を選び、【Enter】を押す
次のような画面が表示され、バッテリーリフレッシュが始まります。

Battery Refresh Now(55% LEFT).....Don't close Display.....Press ESC Key to Cancel

チェック!! ・ バッテリリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。液晶ディスプレイを閉じると、ピピピと警告音がなります。

・ バッテリリフレッシュの所要時間の目安は、以下のとおりです。

	フル充電状態	バッテリー残量10%
LX60T/71EC LG60T/TD	約5時間	約30分
LX60T/7B1EC LG60T/TL	約7時間	約50分

：バックライト「オフ」時

バッテリーリフレッシュが完了し、バッテリー内の電力がなくなると自動的に本機の電源が切れますので、本機の電源が切れるまでお待ちください。

9 バッテリリフレッシュが終了して本機の電源が切れたら、ACアダプタを接続する

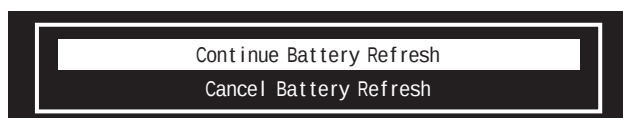
バッテリーの充電がはじまるので、完全に充電されてバッテリー充電ランプ（）が消えるまでお待ちください。

バッテリーリフレッシュを中断する

バッテリーリフレッシュを中断するとき、次の手順で行ってください。

1 【Esc】を押す

次のようなメッセージが表示されます。



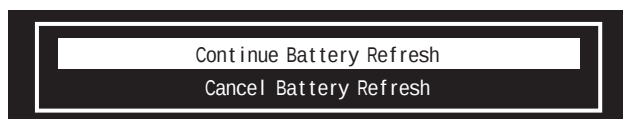
2 【↑】または【↓】で「Cancel Battery Refresh」を選び、【Enter】を押す

本機が再起動します。

バッテリーリフレッシュ中に本機の電源を切ろうとしたり、ACアダプタを接続したときも、バッテリーリフレッシュの中断を確認するメッセージが表示されます。バッテリーリフレッシュを続ける場合はACアダプタを取り外し「Continue Battery Refresh」を選んでください。中断する場合は「Cancel Battery Refresh」を選ぶと、バッテリーリフレッシュが中断し、本機が再起動します。

バッテリーリフレッシュの実行(モバイルノート(長時間駆動型)の場合)

- 1** 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2** 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 3** バッテリーパックをすでに取り付けている場合は、一度バッテリーパックを本体から取り外して、再度取り付ける
バッテリーパックを取り付けていない場合は、バッテリーパックを本体に取り付ける
- 4** BIOSセットアップメニューを起動する(→p.176)
- 5** 【↑】または【↓】で「バッテリーリフレッシュ(Refresh Battery)」を選び、【Enter】を押す
- 6** 「バッテリーリフレッシュを行いますか?」と表示されたら、「はい」を選んで【Enter】を押す
次のような画面が表示されます。



- 7** 【↑】または【↓】で「Continue Battery Refresh」を選び、【Enter】を押す
次のような画面が表示され、バッテリーリフレッシュが始まります。

Battery Refresh Now(55% LEFT).....Don't close Display.....Press ESC Key to Cancel

✓チェック!! ・ バッテリリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。液晶ディスプレイを閉じると、ピピピと警告音がなります。

- ・ バッテリリフレッシュの所要時間の目安は、標準バッテリー使用時フル充電状態で約4時間、バッテリー残量10%(Windowsでバッテリー残量少の警告が表示される程度)の状態で約30分です。

バッテリーリフレッシュが完了し、バッテリー内の電力がなくなると自動的に本機の電源が切れますので、本機の電源が切れるまでお待ちください。

8 バッテリリフレッシュが終了して本機の電源が切れたら、ACアダプタを接続する

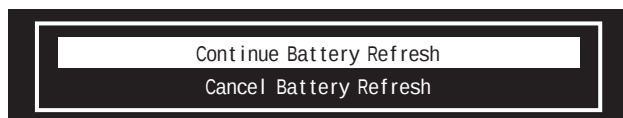
バッテリーの充電がはじまるので、完全に充電されてバッテリー充電ランプ()が消えるまでお待ちください。

バッテリーリフレッシュを中断する

バッテリーリフレッシュを中断するときは、次の手順で行ってください。

1 【Esc】を押す

次のようなメッセージが表示されます。



2 【↑】または【↓】で「Cancel Battery Refresh」を選び、【Enter】を押す

本機が再起動します。

バッテリーリフレッシュ中に本機の電源を切ろうとしたり、ACアダプタを接続したときも、バッテリーリフレッシュの中断を確認するメッセージが表示されます。バッテリーリフレッシュを続ける場合はACアダプタを取り外し「Continue Battery Refresh」を選んでください。中断する場合は「Cancel Battery Refresh」を選ぶと、バッテリーリフレッシュが中断し、本機が再起動します。

バッテリーパックの交換

- ✓ **チェック!!** 本機は、液晶ディスプレイの後ろにもバッテリーパックを内蔵しています。このバッテリーパックの寿命などによる交換の際には、ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所などにご相談ください。

交換の目安

フル充電(バッテリーを充電してバッテリー充電ランプが消灯した状態)で使用できる時間が短くなったら、バッテリーリフレッシュ(→ p. 58)を行ってください。それでも使用できる時間が回復しないときは、新しいバッテリーパックを購入して交換してください。

本機のバッテリースロットに取り付けることができる交換用バッテリーパックにはPC-VP-SP03があります。

- ✓ **チェック!!** ・ 特に必要のない限りバッテリーパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因になります。
- ・ バッテリーパックは消耗品です。充放電をくりかえすと、充電能力が低下します。

バッテリーパックの交換のしかた

⚠ 警告



感電注意

- 雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。



破裂注意



毒物注意

- 使用を終えたバッテリーパックを分解したり、火気に投じることは危険です。絶対にしないでください。破裂したり、液漏れしたりすることがあります。

⚠ 注意



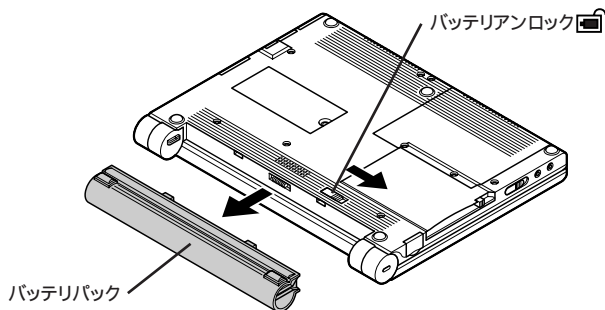
感電注意

- 濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

チェック!! ・ バッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因となります。

- ・ 電源が入っているときやスタンバイ状態のときにバッテリーパックを交換すると、作業中のデータが失われます。電源ランプ①が点滅しているときには、一度スタンバイ状態から復帰し、作業中のデータを保存してからWindowsを終了し、本機の電源を切ってください。

- 1** 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2** 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3** 液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す
- 4** バッテリーパックの横にあるバッテリーアンロック()を矢印の方向にスライドさせたまま、バッテリーパックを外側にスライドして取り外す



- 5** 新しいバッテリーパックを取り付ける

省電力機能

省電力機能とは

省電力機能とは、CPUやハードディスク、ディスプレイといった、パソコンの主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したいときや、中断した作業をすぐに再開したいときにも便利な機能です。

本機の省電力機能

本機の省電力機能には、「スタンバイ状態(サスペンド)」「休止状態(ハイバネーション)」「LongRun Power Management Utility(LaVie MXのみ)」があります。「スタンバイ状態」と「休止状態」を合わせて「スリープ状態」と呼ぶこともあります。

省電力機能の設定は、Windows Me / Windows 98の場合は「コントロールパネル」の「電源の管理」で行います。Windows 2000の場合は「コントロールパネル」の「電源オプション」で行います。

スタンバイ状態(サスペンド)

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、消費電力を抑える機能です。スタンバイ状態のことを「サスペンド」と呼ぶこともあります。データはメモリに保存されているため、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。

参照 スタンバイ状態にする→「スタンバイ状態(サスペンド)」にする (p.68)

休止状態(ハイバネーション)

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切る機能です。休止状態のことを「ハイバネーション」と呼ぶこともあります。普通に電源を切るのとは異なり、次に電源を入れるときに、Windowsを起動する操作をせずに、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。

データを保持するための電力を消費しないので、長時間作業を中断するときなどに便利です。

参照 休止状態にする→「休止状態(ハイバネーション)」にする (p.68)

チェック!! モバイルノート(長時間駆動型)の場合は、BIOSセットアップメニューでも省電力機能の設定項目がありますが、BIOSセットアップメニューでの設定は無効になります。

LongRun Power Management Utility(LaVie MXのみ)

パソコンのCPUの速度を変更することで消費電力を抑えることができます。設定は「LongRun Power Management Utility」を使って行います。

参照 LongRun Power Management Utilityの設定をする→「LongRun Power Management Utility」(p.77)

省電力機能使用上の注意

スタンバイ状態または休止状態を利用できないとき

次のようなときには、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。本機が正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがあります。

- ・プリンタへ出力中
- ・Windows Me / Windows 98で赤外線通信をしているとき(赤外線通信アプリケーションなどを実行中)
- ・通信用アプリケーションを実行中
- ・電話回線を使って通信中
- ・音声または動画を再生中
- ・ハードディスク、CD-ROM、フロッピーディスクなどにアクセス中
- ・「システムのプロパティ」画面を表示中
- ・Windowsの起動 / 終了処理中
- ・スタンバイ状態または休止状態に対応していないアプリケーションを使用中
- ・スタンバイ状態または休止状態に対応していないPCカードやUSB対応機器を使用中

スタンバイ状態または休止状態を使用するときの注意

スタンバイ状態または休止状態にするときは、次のことに注意してください。

- ・スタンバイ状態では、ネットワーク機能が一旦停止します。ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態になったときにデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、システム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態を使用してください。

- ・ バッテリーのみで使用する場合は、あらかじめバッテリーの残量を確認しておいでください。また、バッテリー残量が少なくなってきたときの本機の動作について設定しておくこともできます(→ p.56)。
- ・ スタンバイ状態または休止状態への移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- ・ スタンバイ状態または休止状態のときに、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、スタンバイ状態から正しく復帰できなくなることがあります。
- ・ SCSI PCカードを使用している場合、SCSI PCカードと接続されている機器の組み合わせによっては、スタンバイ状態または休止状態から正しく復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。
- ・ Windows Me / Windows 98でディスプレイの省電力機能を使用する場合は、スクリーンセーバー機能もあわせて使用してください。スクリーンセーバー機能を使用しないと、「MS-DOSプロンプト」使用時、省電力機能は利用できません。
- ・ Windows Me / Windows 98の場合、ATAカードをセットした状態では、スタンバイ状態または休止状態になるまでに時間がかかることがあります。
- ・ Windows Meの場合、「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックすると表示される「画面のプロパティ」の「Web」タブで、「Active Desktop」にWebコンテンツを表示」が☒になっていると、自動的にスタンバイ状態または休止状態にできない場合があります。この場合は、「Active Desktop」にWebコンテンツを表示」を☐に設定してください。
- ・ Windows 98の場合、「スタート」ボタン→「設定」→「アクティブデスクトップ」の「Webページで表示」にチェックマークが入っていると、自動的にスタンバイ状態または休止状態にできない場合があります。この場合は、「Webページで表示」のチェックマークをはずしてください。
- ・ 本機にフロッピーCDをセットしたままスタンバイ状態または休止状態にすると、復帰に時間がかかることがあります。
- ・ Windows Me / Windows 2000で、フロッピーディスクやCD-ROMをセットしたまま休止状態から復帰すると、正しく復帰できずにフロッピーディスクやCD-ROMから起動してしまうことがあります。休止状態にする場合は、フロッピーディスクやCD-ROMを取り出してから休止状態にしてください。また、フロッピーディスクを使用しているときは、必要なファイルを保存してからフロッピーディスクを取り出してください。

スタンバイ状態または休止状態から復帰するときの注意

スタンバイ状態または休止状態から復帰させるときには、次のことに注意してください。

- ・スタンバイ状態または休止状態にしてからすぐに復帰するときは、本機に負担がかからないよう、スタンバイ状態または休止状態になった後、約5秒以上たってから操作してください。
- ・スタンバイ状態または休止状態のときにPCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け／取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常に復帰できなくなることがあります。
- ・タイマ、LAN、FAXモデムの自動操作、および液晶ディスプレイを開いてのスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本機はスタンバイ状態から復帰していても液晶ディスプレイに何も表示されない状態になります。この場合はNXパッドを操作するかキーボードのキーを押すことによって液晶ディスプレイに表示できます。
- ・Windows 2000でスタンバイ状態から復帰後、モデムについての「デバイスの取り外しの警告」画面が表示されることがあります。その場合は「OK」ボタンをクリックしてください。警告が発生したデバイスは、そのまま使用できます。
- ・スタンバイ状態または休止状態からの復帰時にパスワードを入力するように設定してある場合は、パスワード入力画面でパスワードを入力してください。

参照 パスワード設定時の復帰→このPARTの「セキュリティ機能」の「パスワードを設定しているときの復帰のしかた」(p.84)

スタンバイ状態(サスペンド)にする

購入時の状態では、次のいずれかの方法でスタンバイ状態にすることができます。スタンバイ状態になると、電源ランプ(④)が緑色に点滅します。

Windowsの終了メニューで「スタンバイ」を選んで、スタンバイ状態にする

- ・ Windows Me / Windows 98の場合
「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「スタンバイ」を選び、「OK」ボタンをクリックする
- ・ Windows 2000の場合
「スタート」ボタン→「シャットダウン」で「スタンバイ」を選び、「OK」ボタンをクリックする

バッテリー駆動時、キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的にスタンバイ状態にする

液晶ディスプレイを閉じる

LaVie MXをお使いの場合は、液晶ディスプレイを閉じてスタンバイ状態にするには設定が必要です。「省電力機能を設定する」の「液晶ディスプレイや電源スイッチで行う省電力機能の設定」(p.71)の手順で設定を行ってください。

電源スイッチをスライドする

電源スイッチをスライドしてスタンバイ状態にするには設定が必要です。「省電力機能を設定する」の「液晶ディスプレイや電源スイッチで行う省電力機能の設定」(p.71)の手順で設定を行ってください。

休止状態(ハイバネーション)にする

休止状態にする(Windows Meの場合)

購入時の状態では、次のいずれかの方法で休止状態にすることができます。休止状態になると、電源ランプ(④)が消灯し、本機の電源が切れます。

「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「休止状態」を選び、「OK」ボタンをクリックする

バッテリー駆動時、キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的に休止状態にする

ほかにも、設定を行うことにより、次の方法で休止状態にすることができます。

液晶ディスプレイを閉じる
電源スイッチをスライドする

液晶ディスプレイを閉じたり、電源スイッチを使って休止状態にできるようにするためには、「液晶ディスプレイや電源スイッチで行う省電力機能の設定」(→p.71)の手順を行ってください。

休止状態にする(Windows 98の場合)

購入時の状態では休止状態の機能は利用できませんが、設定を行うことにより次の方法で休止状態にすることができます。

参照▶ 休止状態を利用できるようにする→「液晶ディスプレイや電源スイッチで行う省電力機能の設定」(p.71)

休止状態になると、電源ランプ(④)が消灯し、本機の電源が切れます。

電源スイッチをスライドする

「Suspend to Disk」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示されます。

液晶ディスプレイを閉じる

休止状態にする(Windows 2000の場合)

購入時の状態では、次の方法で休止状態にすることができます。

休止状態になると、電源ランプ(④)が消灯し、本機の電源が切れます。

「スタート」ボタン→「シャットダウン」で「休止状態」を選び「OK」ボタンをクリックする

「休止中...」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示されます。

ほかにも、設定を行うことにより次の方法で休止状態にすることもできます。

液晶ディスプレイを閉じる
電源スイッチをスライドする

液晶ディスプレイを閉じたり、電源スイッチを使って休止状態にするには、「液晶ディスプレイや電源スイッチで行う省電力機能の設定」(→p.71)の手順を行ってください。

スタンバイ状態または休止状態から復帰(レジューム)する

スタンバイ状態や休止状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。

スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態からの復帰は次の方法で行うことができます。

電源スイッチをスライドする

スタンバイ状態にする前の元の状態が表示されます。

液晶ディスプレイを閉じてスタンバイ状態にした場合、液晶ディスプレイを開けることで復帰することができます。また、タスクスケジューラで時刻を指定してスタンバイ状態から復帰することもできます。タスクスケジューラについて詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

Windows 2000でログオンパスワードを入力する画面が表示された場合は、パスワードを入力してください。

休止状態から復帰する

休止状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。休止状態からの復帰は次の方法で行います。

電源スイッチをスライドする

復帰(レジューム)中を表すメッセージと作業状況を示す棒グラフが表示されます。

復帰が完了すると、元の状態(休止状態に入る前)の画面が表示されます。

Windows 2000でログオンパスワードを入力する画面が表示された場合は、パスワードを入力してください。

省電力機能の設定をする

省電力機能の設定は、Windows Me / Windows 98の場合は「コントロールパネル」の「電源の管理」で行います。Windows 2000の場合は「コントロールパネル」の「電源オプション」で行います。

 **チェック!!** モバイルノート(長時間駆動型)の場合は、BIOSセットアップメニューでも省電力機能の設定項目がありますが、BIOSセットアップメニューでの設定は無効になります。

「電源の管理」や「電源オプション」では、省電力機能を実行するときの操作方法や実行するまでの時間を変更したり、ACアダプタ駆動時にも省電力機能が働くように設定できます。また、あらかじめ設定されている電源設定モードを選ぶこともできます。

液晶ディスプレイや電源スイッチで行う省電力機能の設定

液晶ディスプレイを閉じたり電源スイッチを操作したときにスタンバイ状態や休止状態にするときや、Windows 98で休止状態を利用するときには、次の設定を行ってください。

1 「コントロールパネル」を開き、次のアイコンをダブルクリックする

- ・ Windows Me / Windows 98の場合
「電源の管理」アイコン
- ・ Windows 2000の場合
「電源オプション」アイコン

2 次の操作を行う

- ・ 休止状態を利用するための設定を行う場合
「休止状態」タブをクリックする
- ・ スタンバイ状態を利用するための設定を行う場合
手順5に進んでください。

3 「休止状態をサポートする」が☒になっていることを確認する

4 次のタブをクリックする

- ・ Windows Meの場合
「詳細設定」タブ

- ・ Windows 98 / Windows 2000の場合
「詳細」タブ

5 「電源ボタン」の欄で、設定したい動作と機能を選ぶ

- ・ 電源スイッチを押して行う場合
「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「スタンバイ」または「休止状態」を選ぶ
- ・ 液晶ディスプレイを閉じて行う場合
「ポータブル コンピュータを開じたとき」で「スタンバイ」または「休止状態」を選ぶ

6 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

電源設定のモードを選ぶ

Windows Me / Windows 98の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする

「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

2 「電源設定」タブをクリックする

3 「電源設定」欄でモードを選ぶ

- ・ Windows Meの場合
購入時には「LaVie/VersaPro」に設定されています。
- ・ Windows 98の場合
購入時には「常にオン」に設定されています。

4 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

画面の下段の「**の電源の設定」の「**」には、上段の「電源設定」欄で選んだモード名が表示され、それぞれの項目欄には、モードの設定時間が表示されます。また、「電源設定」欄で新しいモードを作成することもできます。

Windows 2000の場合

- 1 「コントロールパネル」を開き、「電源オプション」アイコンをダブルクリックする
「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。
- 2 「電源設定」タブをクリックする
- 3 「電源設定」欄でモードを選ぶ
購入時には「ポータブル / ラップトップ」に設定されています。
- 4 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

画面の下段の「**の電源の設定」の「**」には、上段の「電源設定」欄で選んだモード名が表示され、それぞれの項目欄には、モードの設定時間が表示されます。また、「電源設定」欄で新しいモードを作成することもできます（→p.72）

時間を個別に設定する

- 1 「電源設定のモードを選ぶ（→p.72）の手順1～2を行う
- 2 画面の下段でそれぞれの時間を設定する

項目	説明
モニタの電源を切る	入力は何も行われないまま指定した時間が経過すると、モニタの電源を切ります。
ハード ディスクの電源を切る	指定した時間、ハードディスクへのアクセスがないと、ハードディスクの電源を切ります。
システム スタンバイ	指定した時間何の入力もなく、ハードディスクへのアクセスがないと、パソコンがスタンバイ状態になり、消費電力を抑えます。
システム休止状態	指定した時間何の入力もなく、またハードディスクへのアクセスがないと、パソコンが休止状態になり、電源が切れます。

:Windows Me / Windows 2000のみ

- 3 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

Windows 98で時間を設定する場合の注意

「システムスタンバイ」の設定時間を「モニタの電源を切る」の設定時間より先後にした場合、「システムスタンバイ」が実行されるのは、「モニタの電源を切る」が実行されてからの時間になります。

「モニタの電源を切る」を「15分後」、「システムスタンバイ」を「20分後」に設定した場合、実際に「システムスタンバイ」が実行されるのは、モニタの電源が切れてから、さらに20分経過した35分後となります。

- ・ 入力がなくなってから「システムスタンバイ」を20分後に設定したい場合

例1:「システムスタンバイ」→15分後

「モニタの電源を切る」→5分後

例2:「システムスタンバイ」→20分後

「モニタの電源を切る」→なし

新しいモードを作成する

パソコンの利用状態に合わせて、モードを新たに登録することができます。

- 1** 「電源設定のモードを選ぶ」(→p.72)の手順1～2を行う
- 2** 画面の下段でそれぞれの時間を設定する
- 3** 「名前を付けて保存」ボタンをクリックする
- 4** 任意の保存名を入力し、「OK」ボタンをクリックする
これで、新しいモードが登録されました。
- 5** 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

作成したモードは「電源設定」欄で選ぶことができますようになります。

休止状態の設定の解除と再設定(Windows 98のみ)

休止状態中は、元の状態をハードディスクにファイルとして保存しています。このファイルのことを「ハイバネーション用ファイル」と呼び、工場出荷時には、すでに作成された状態になっています。このハイバネーション用ファイルをいったん削除することを「休止状態の設定の解除」と呼び、メモリの取り付け / 取り外しを行ったり、CDドライブの圧縮 / 圧縮解除を行ったときには、この「休止状態の設定の解除」を行う必要があります。

設定を解除したあと、再び休止状態を利用したいときは、「休止状態の再設定」でハイバネーション用ファイルを作成する必要があります。

休止状態の設定を解除する

休止状態の設定を解除するには、「ハイバネーション設定ユーティリティ」を使います。

 **チェック!!** 「ハイバネーション設定ユーティリティ」は、MS-DOSモードで起動します。「MS-DOSプロンプト」ウィンドウでは実行できません。

- 1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「MS-DOSモードで再起動する」を選ぶ
- 2 「OK」ボタンをクリックする
MS-DOSモードで再起動します。
- 3 次のように入力する
HIBEROFF【Enter】
- 4 次のようなメッセージが表示されたら、電源スイッチ(⏻)を押して本機の電源を切る

ハイバネーション用ファイルを削除しました。
電源を切って5秒以上たってから再び電源を入れてください。

メッセージが表示されない場合には、次のように入力します。

CD C:¥necut ils¥hdp rep【Enter】

HIBEROFF【Enter】

すでに休止状態の機能を使うためのファイルが削除されている状態で「ハイバネーション設定ユーティリティ」を実行すると、「ハイバネーション用ファイルは存在しません。」と表示されます。

5 5秒以上待ってから、本機の電源を入れる

これで休止状態の機能を使うためのファイル(ハイバネーション用ファイル)が削除され、休止状態の設定を解除することができました。

休止状態を再設定する

休止状態の設定を解除したときや、休止状態のためのファイルを削除してしまったときは、休止状態の再設定を行ってください。

 **チェック!!** 「ハイバネーション設定ユーティリティ」は、MS-DOSモードで起動します。「MS-DOSプロンプト」ウィンドウでは実行できません。

1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「MS-DOSモードで再起動する」を選ぶ

2 「OK」ボタンをクリックする
MS-DOSモードで再起動します。

3 次のように入力する

HIBERON【Enter】

しばらくの間、ハイバネーション用ファイルの作成画面が表示されることがあります(お使いの機器のメモリ容量によって異なります)。

ハードディスクの空き容量不足についてのメッセージが表示された場合は、不要なファイルを削除するなどしてハードディスクの空き領域を確保した後、手順1からやり直してください。必要なハードディスクの空き領域の目安は、本機に搭載されているメモリ容量 + 8Mバイトです。

4 次のようなメッセージが表示されたら、電源スイッチ(⏻)を押して本機の電源を切る

ハイバネーションファイルを作成しました。
電源を切って5秒以上たってから再び電源を入れてください。

メッセージが表示されない場合には、次のように入力します。

CD C:¥necutils¥hdprep【Enter】

HIBERON【Enter】

すでに休止状態の機能を使うためのファイルがある状態で実行すると、「ハイパネーションファイルはすでに存在します」と表示されます。

5 5秒以上待ってから、本機の電源を入れる

LongRun Power Management Utility(LaVie MXのみ)

LongRun Power Management Utilityのセットアップ

本機でLongRun Power Management Utilityを使用できるようにするためには、以下の手順でセットアップを行う必要があります。

Windows Meの場合

- 1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」をクリックする
- 2 「名前」に「C:¥Necutils¥longrun¥setup_win98.bat」と入力する
- 3 「OK」ボタンをクリックする
- 4 「OK」ボタンをクリックする
- 5 MS-DOSプロンプトの画面を閉じる

以上でセットアップは完了です。

Windows 2000の場合

- 1 「コントロールパネル」を開き、「ハードウェアの追加と削除」アイコンをダブルクリックする
- 2 「次へ」ボタンをクリックする

- 3** 「デバイスの追加 / トラブルシューティング」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 4** 「新しいデバイスの追加」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 5** 「いいえ、一覧からハードウェアを選択します」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 6** 「その他のデバイス」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 7** 「ディスク使用」ボタンをクリックする
- 8** 「参照」ボタンをクリックして、「C: ¥Necut i l s ¥ longrun」フォルダを指定する
- 9** 「OK」ボタンをクリックする
- 10** 「Longrun Kernel Driver」を選択して「次へ」ボタンをクリックする
- 11** 「次へ」ボタンをクリックする
- 12** 「完了」ボタンをクリックする
- 13** 「スタート」ボタン → 「ファイル名を指定して実行」をクリックする
- 14** 「名前」に「C: ¥Necut i l s ¥ longrun ¥ setup_win2k.bat」と入力する
- 15** 「OK」ボタンをクリックする
- 16** 「OK」ボタンをクリックする
- 17** コマンドプロンプトの画面を閉じる

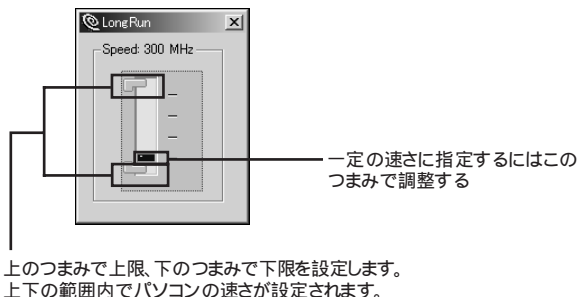
以上でセットアップは完了です。

LongRun Power Management Utilityの設定をする

パソコンのCPU速度の設定を低くすることによって、消費電力を抑えることができます。

パソコンのCPU速度を設定するには、次の手順を行ってください。

- 1 デスクトップ上の (LongRun Utility) をダブルクリックする
- 2 「About LongRun...」画面の「OK」ボタンをクリックする
インジケータ領域(タスクトレイ)にが表示されます。
- 3 インジケータ領域(タスクトレイ)のをダブルクリックする
次のような画面が表示されます。



インジケータ領域(タスクトレイ)にあるの色は速度によって黄色から赤に変化します。CPUの速度の変更は4段階です。

タイトルバーを右クリックすると表示されるメニューからプロパティ画面を開くことができます。プロパティ画面では詳細な設定を行うことができます。

- 4 設定が終了したら、をクリックする

現在のCPUの速度は、インジケータ領域(タスクトレイ)のにポインタを合わせることで、確認することができます。

セキュリティ機能

本機には、本機の不正使用やデータなどの盗難を予防するためのセキュリティ機能が搭載されています。

本機のセキュリティ機能

本機のセキュリティ機能には、次のようなものがあります。

- LaVie MXの場合
 - ・ パスワード
- モバイルノート(長時間駆動型)の場合
 - ・ パスワード
 - ・ ハードディスクのパスワード
 - ・ スマートカード(別売)(Windows 98のみ)
 - ・ 指紋認証ユニット(別売)

 **チェック!!** セキュリティ機能を使用している場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの管理、取り扱いには十分注意してください。

パスワード

パスワードを設定することで、本機の使用者を制限するとともに、本機の不正使用を防止することができます。本機のパスワードはBIOSセットアップメニューで設定します。パスワードを設定することにより、次のような機能を制限することができます。

- ・ 本機の起動
- ・ BIOSセットアップメニューの起動と設定変更
- ・ スリープ状態からの復帰

 **チェック!!** ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所などに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除しておいてください。

パスワードの種類

本機で設定可能なパスワードには、「スーパーバイザパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

スーパーバイザパスワード

スーパーバイザパスワードは、おもに本機の管理者用のパスワードで、管理者以外の不正な使用や設定の変更を防止したり、本機の使用者を制限するために設定します。

パスワードを設定しておく、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードの入力画面が表示され、パスワードを入力しないかぎりBIOSセットアップメニューを起動できなくなります。

また、モバイルノート(長時間駆動型)の場合は、スーパーバイザパスワード入力のタイミングを、起動時やスリープからの復帰時に設定しておくこともできます。

ユーザパスワード

ユーザパスワードは、スーパーバイザパスワードが設定されていないと設定できないパスワードです。おもに本機の使用者のためのパスワードで、スーパーバイザパスワードで本機を管理している管理者が、本機の使用者の使用できる機能を制限するためのものです。

パスワードを使った管理

たとえば、管理者がスーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方を設定し、通常の利用者にはユーザパスワードのみを通知するようにします。このように設定しておく、管理者以外はBIOSセットアップメニューの設定を変更できなくなります。また、どちらのパスワードも通知されていない人は、本機を起動することもできません。

パスワードを設定 / 変更する

スーパーバイザパスワード、またはユーザパスワードの設定 / 変更は、BIOSセットアップメニューで行います。パスワードを設定後にBIOSセットアップメニューを起動するときは、設定したスーパーバイザパスワードを入力しなければ、BIOSセットアップメニューを起動できなくなります。

LaVie MXの場合

- 1** BIOSセットアップメニューを起動する(→p.170)
- 2** 「セキュリティ」メニューを選択する
- 3** 「スーパーバイザパスワード設定」または「ユーザパスワード設定」を選んで、【Enter】を押す
パスワード設定画面が表示されます。

- ✔ **チェック!!** スーパーバイザパスワードを設定していないと、ユーザパスワードを設定することはできません。

4 パスワードを入力して【Enter】を押す

- ✔ **チェック!!** ニューメリックロックキーランプ()が消灯していることを確認し、パスワードの文字列を6文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA～Zの(大文字 / 小文字の区別はありません)と半角英数字の0～9だけです。

5 手順4で入力したパスワードを、もう一度入力して【Enter】を押す

6 「セットアップ通知」の画面が表示されますので、いずれかのキーを押す

7 設定を保存して、BIOSセットアップメニューを終了する

- ✔ **チェック!!** 設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。

モバイルノート(長時間駆動型)の場合

1 BIOSセットアップメニューを起動する(→p.176)

2 「セキュリティセットアップ(System Security Setup)」を選んで、【Enter】を押す

3 「スーパーバイザパスワードの設定(Assign Supervisor Password)」または「ユーザパスワードの設定(Assign User Password)」を選んで、【Enter】を押す パスワード設定の画面が表示されます。

- ✔ **チェック!!** スーパーバイザパスワードを設定していないと、ユーザパスワードを設定することはできません。

4 パスワードを入力して【Enter】を押す

✓チェック!! ニューメトリックロックキーランプ (11) が消灯していることを確認し、パスワードの文字列を6文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA～Z (大文字 / 小文字の区別はありません) と半角数字の0～9だけです。

5 手順4で入力したパスワードを、もう一度入力する

6 【Enter】を押す

7 「何かキーを押して下さい」と表示されるので、いずれかのキーを押す

8 設定を保存して、BIOSセットアップメニューを終了する

✓チェック!! 設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。

パスワードを入力するタイミング

パスワードを設定しておく、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードを入力するように要求されます。BIOSセットアップメニュー起動時以外にも、次のようなタイミングに設定できます。

LaVie MXの場合

パスワードの入力タイミング	設定方法
本機の起動時	BIOSセットアップメニューの「セキュリティメニュー」で「起動時のパスワード」を「使用する」に設定

モバイルノート(長時間駆動型)の場合

パスワードの入力タイミング	設定方法
本機の起動時	BIOSセットアップメニューの「セキュリティセットアップ(System Security Setup)」→「起動時のパスワード(Boot Password Required)」を「はい(Yes)」に設定
スリープからの復帰時	BIOSセットアップメニューの「セキュリティセットアップ(System Security Setup)」→「レジューム時のパスワード(Resume Password Required)」を「はい(Yes)」に設定

「起動時のパスワード(Boot Password Required)」を「はい(Yes)」に設定していないと、「レジューム時のパスワード(Resume Password Required)」の設定の変更はできません。

パスワードを入力する

パスワードを設定しているときの電源の入れ方

LaVie MXでBIOSセットアップメニューの「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」が「使用する」に設定されている場合、またはモバイルノート（長時間駆動型）でBIOSセットアップメニューの「セキュリティセットアップ（System Security Setup）」の「起動時のパスワード（Boot Password Required）」が「はい（Yes）」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

1 本機の電源を入れる

次のようなパスワードを入力する画面が表示されます。

- ・ LaVie MXの場合

パスワードを入力して下さい [_]

- ・モバイルノート（長時間駆動型）の場合

Enter CURRENT Password: _

2 設定されているパスワードを入力して【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、Windowsが起動します。

-  **チェック!!**
- ・ 誤ったパスワードを入力すると、警告が表示されます。パスワードの入力に3回失敗すると、パスワードが入力できなくなります。このときは、電源スイッチをスライドさせて電源を切ったあと、もう一度手順1からやり直してください。
 - ・ モバイルノート（長時間駆動型）の場合、パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。

パスワードを設定しているときの復帰のしかた

モバイルノート（長時間駆動型）でBIOSセットアップメニューの「セキュリティセットアップ（System Security Setup）」の「レジューム時のパスワード（Resume Password Required）」が「はい（Yes）」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

1 電源スイッチをスライドする

キャップスロックキーランプ()とスクロールロックキーランプ()が交互に点灯します。このとき、画面には何も表示されません。

ランプは、キーボード入力がないと1分ほどで消灯します。消灯後、キーボード入力を行うと、再度ランプが点灯します。

2 設定されているパスワードをキーボードから入力して【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、データが復帰されてデータの内容が表示されます。



チェック!!

- ・ スーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方が設定されている場合、前回、電源を入れたときに入力したパスワードでないと復帰できません。
- ・ 誤ったパスワードが入力されると復帰できません。
- ・ モバイルノート(長時間駆動型)の場合、パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。

キーボードロック(モバイルノート(長時間駆動型)のみ)

パスワードが設定されているときにキーボードロックを設定すると、パスワードを入力しないかぎりキーボードやポインティングデバイスからの入力ができなくなります。

キーボードロックを設定する

1 【Ctrl】+【Alt】+【Back Space】または【Fn】+【Back Space】を押す

キャップスロックキーランプ()とスクロールロックキーランプ()が交互に点灯します。

ランプは、キーボード入力がないと1分ほどで消灯します。消灯後、キーボード入力を行うと、再度ランプが点灯します。

キーボードロックを解除する

キーボードロックは次の手順で解除してください。

1 設定されているパスワードをキーボードから入力して【Enter】を押す

このとき、画面にはパスワード入力画面は表示されません。

正しいパスワードが入力されるとランプは消灯し、キーボードやポインティングデバイスからの入力が可能になります。



チェック!!

- ・ スーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方が設定されている場合、前回、電源を入れたときに入力したパスワードでないと復帰できません。
- ・ 誤ったパスワードが入力されると復帰できません。
- ・ パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。

パスワードを忘れてしまったときは

設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合には解除処置が必要です。

参照

解除処置について → 『活用ガイド ソフトウェア編』の「PART4 トラブル解決 Q&A」

ハードディスクのパスワード(モバイルノート(長時間駆動型)のみ)

ハードディスクのパスワードとは

ハードディスクにパスワードを設定することで、本機以外のパソコンでのハードディスクの不正使用を防止することができます。

パワーオンパスワードを併用することにより、ハードディスク内のデータへの不正アクセスを防ぐことが可能です。ハードディスクのパスワードは、BIOSセットアップメニューで設定します。

-  **チェック!!** ・ハードディスクのパスワードを忘れてしまった場合、NECフィールディングの各支店、営業所などに持ち込んでもロックは解除できません。お客様ご自身で作成されたデータは二度と使用できなくなり、またハードディスクを有償で交換することになります。ハードディスクのパスワードは忘れないように、十分注意してください。
- ・ハードディスクのパスワードは、他のセキュリティ機能と併用してください。ハードディスクのパスワードだけでは、十分に本機の不正使用を防止することができません。

パスワードの種類

本機で設定可能なハードディスクのパスワードには、「マスタパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

マスタパスワード

マスタパスワードはロック解除専用のパスワードです。ハードディスクのパスワードを最初に設定するときに入力します。

ユーザパスワード

ユーザパスワードは、ハードディスク認証を行うために設定します。ユーザパスワードを設定することで、本機以外でのハードディスクの不正使用を防止できます。

-  **チェック!!** マスタパスワードを設定しないとユーザパスワードを設定することはできません。

パスワードを設定 / 変更する

マスタパスワードの設定、ユーザパスワードの設定 / 変更は、BIOSセットアップメニューで行います。

-  **チェック!!** マスタパスワードは、忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまうと、パスワードの変更およびハードディスクのロックの解除ができなくなります。

1 BIOSセットアップメニューを起動する(→ p.176)
BIOSセットアップメニューのメイン画面が表示されます。

2 「セキュリティセットアップ(System Security Setup)」を選んで
【Enter】を押す

3 「HDDパスワードの設定(Assign HDD Password)」を選んで、
【Enter】を押す

- ・ はじめて設定する場合
マスタパスワード画面が表示されるので手順5へ進んでください。
- ・ マスタパスワードがすでに設定済みで、ユーザパスワードが設定されていない場合
新しいユーザパスワードの入力画面が表示されるので手順7へ進んでください。
- ・ 上記以外の場合
パスワード入力画面が表示されるので手順4へ進んでください。

4 マスタパスワードまたはユーザパスワードを入力し【Enter】を押す

- ・ ユーザパスワードを入力した場合
新しいユーザパスワード入力画面が表示されるので手順7へ進んでください。
- ・ マスタパスワードを入力した場合
新しいマスタパスワード入力画面が表示されるので手順5へ進んでください。

5 新しいマスタパスワードを入力し【Enter】を押す

6 手順5で入力したマスタパスワードをもう一度入力し【Enter】を押す
ユーザパスワード入力画面が表示されます。

7 新しいユーザパスワードを入力し【Enter】を押す

8 手順7で入力したユーザパスワードをもう一度入力し【Enter】を押す

9 「何かキーを押してください」と表示されるので、いずれかのキーを押す

10 設定を保存して、BIOSセットアップメニューを終了する

パスワードを設定しただけではセキュリティは有効になりません。セキュリティを有効にするためには、次の「ハードディスクのパスワードによるセキュリティを有効にする」をご覧ください。

-  **チェック!!** ・ 設定したユーザパスワードは忘れないようにしてください。ユーザパスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードを忘れないように控えておくことをおすすめします。
- ・ パスワード変更時には、すでに設定されたパスワードの入力画面が表示されます。その場合は設定したユーザパスワードまたはマスタパスワードを入力してください。

ハードディスクのパスワードによるセキュリティを有効にする

マスタパスワードとユーザパスワードを設定してもハードディスクのセキュリティは有効になりません。ハードディスクのセキュリティを有効にするには、BIOSセットアップメニューの「セキュリティセットアップ(System Security Setup)」で「内蔵HDDパスワードの設定(Internal HDD Password)」を「使用する(Enabled)」に設定してください。「使用しない(Disabled)」に設定するとハードディスクのセキュリティを無効にできます。

ハードディスクのセキュリティを有効にしても、設定したマスタパスワードやユーザパスワードを本機の起動時に入力する必要はありません。

-  **チェック!!** 本機でセキュリティを有効にしたハードディスクは、他機では使用できません。他機で使用する場合は「内蔵HDDパスワードの設定(Internal HDD Password)」を「使用しない(Disabled)」に設定してください。

ハードディスクのセキュリティを無効(使用しない)にしても本機にハードディスクパスワードが設定されています。ハードディスクパスワードを無効にするには、次の「ハードディスクのパスワードを無効にする」をご覧ください。

ハードディスクのパスワードを無効にする

ハードディスクのパスワードを無効にする場合は、次の手順でハードディスクのパスワードを無効にしてください。

- 1** BIOSセットアップメニューを起動する(→ p.176)
BIOSセットアップメニューのメイン画面が表示されます。
- 2** 「セキュリティセットアップ(System Security Setup)」を選んで
【Enter】を押す
- 3** 「HDDパスワードの設定(Assign HDD Password)」を選んで
【Enter】を押す
パスワードの入力画面が表示されます。

4 ユーザパスワードまたはマスタパスワードを入力し【Enter】を押す

- ・ ユーザパスワードを入力した場合
新しいユーザパスワード入力画面が表示されるので手順7へ進んでください。
- ・ マスタパスワードを入力した場合
新しいマスタパスワード入力画面が表示されるので手順5へ進んでください。

5 新しいマスタパスワードを入力し【Enter】を押す

6 手順5で入力したマスタパスワードをもう一度入力し【Enter】を押す ユーザパスワード入力画面が表示されます。

7 何も入力せず【Enter】を押す

以上でハードディスクのパスワードが無効になります。

ハードディスクのロックを無効にする

本機の起動時にハードディスクがロックされたという内容のメッセージが表示された場合は、次の手順でハードディスクのロックを無効にしてください。

1 BIOSセットアップメニューを起動する(→p.176)

BIOSセットアップメニューのメイン画面が表示されます。

2 「セキュリティセットアップ(System Security Setup)」を選んで 【Enter】を押す

3 「HDDパスワードの設定(Assign HDD Password)」を選んで、 【Enter】を押す マスタパスワードの画面が表示されます。

4 マスタパスワードを入力して【Enter】を押す

以上でハードディスクのロックが無効になります。手順5の後にパスワードの設定 / 変更の手順にしたがってユーザパスワードの設定を行うか、または【Esc】を押してキャンセルしてください。

スマートカード / 指紋認証ユニット(モバイルノート(長時間駆動型) のみ)

✓チェック!! スマートカードはWindows 98でのみ使用できます。

別売のセキュリティ関連拡張機器を利用して個人認証を行うことにより、本機の使用者を制限するとともに、本機の不正使用を防止することができます。本機ではスマートカードによる個人認証、および指紋による個人認証に対応しています。

✓チェック!! 「スマートカード」「指紋認証ユニット」「パスワード」はそれぞれ同時に使用することはできません。

参照 スマートカード / 指紋認証について → スマートカード発行ツール(PK - SM002V2) または、スマートカードアプリケーション(PK - SM005、PK - SM006) に添付のマニュアル、またはPCカード用指紋認証ユニット(PK - FP001M) に添付のマニュアル

その他のセキュリティ機能を使う

起動セクタへのウィルス感染を防止する

ハードディスクの起動セクタを書き込み禁止に設定できます。起動セクタ部分が削除されたり、書き換えられたりすると、正常にパソコンを起動することができなくなってしまいます。書き込み禁止に設定すると、起動セクタをコンピュータウイルスなどから保護できます。設定は、次の方法で行ってください。

LaVie MXの場合

BIOSセットアップメニューの「セキュリティ」メニューの「ハードディスク起動セクタ」を「書き込み禁止」に設定します。

参照 ハードディスクの起動セクタを書き込み禁止にする → PART3の「セキュリティ」メニューの設定 (p.175)

モバイルノート(長時間駆動型) の場合

BIOSセットアップメニューの「標準セットアップ(Standard CMOS Setup)」の「起動セクタへのウィルス感染防止(Boot Sector Virus Protection)」を「使用する(Enabled)」に設定します。

参照 ハードディスクの起動セクタを保護する → PART3の「標準セットアップ」(p.179)

盗難防止用ロック

本体の盗難防止用ロックに市販の盗難防止用ケーブルを取り付けると、本体の盗難を防止できます。

参照▶ 盗難防止用ロック →「各部の名称」(p.14)

本機の盗難防止用ロックは、キーケーブルロック等のセキュリティワイヤーに対応しています。製品についてのお問い合わせは、以下のとおりです
(2001年4月現在)

日本ポラデジタル株式会社 第3営業部

〒104-0032 東京都中央区八丁堀1丁目5番2号 はごろもビル5F

Tel:03-3537-1070 Fax:03-3537-1071

赤外線通信機能

赤外線通信とは、パソコンとパソコンの間をケーブルで接続せずに赤外線
でデータの交換を行う通信方法です。本機では、IrDA規格に準拠した、通
信速度4Mbpsまでの赤外線通信ができます。

赤外線通信を行う前に

本機は出荷時の状態では赤外線通信機能を利用できる状態になっていま
せん。本機で赤外線通信機能を利用するには準備が必要です。次の手順に従
って設定を行ってください。

赤外線通信の機能を利用するための準備

LaVie MXの場合

- 1** BIOSセットアップメニューを起動する(→p.170)
- 2** 「詳細」メニューの「周辺機器デバイス設定」の「赤外線ポート」を
選ぶ
- 3** 「自動」を選択する
- 4** BIOSセットアップメニューを終了する
バージョンの競合を確認する画面が表示された場合は、「はい」ボタン
をクリックしてください。
- 5** 「システム設定の変更」画面が表示された場合は「はい」ボタン
をクリックする
本機が起動します。
これで、赤外線通信をするための準備ができました。

モバイルノート(長時間駆動型)の場合

- 1** BIOSセットアップメニューを起動する(→p.176)
- 2** 「周辺機器セットアップ(Peripheral Setup)」の「赤外線ポート(IR
Serial Port)」を選ぶ

3 「自動(Auto)」を選択する

4 BIOSセットアップメニューを終了する

バージョンの競合を確認する画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

5 「システム設定の変更」画面が表示された場合は「はい」ボタンをクリックする

本機が再起動します。

これで、赤外線通信をするための準備ができました。

赤外線モニタ

Windows 98には、赤外線通信の設定や監視を行う「赤外線モニタ」というプログラムがあります。「赤外線モニタ」の使い方については、「コントロールパネル」を開いて「赤外線モニタ」のアイコンをダブルクリックし、赤外線モニタのヘルプをご覧ください。

機器の配置について

機器を配置する

赤外線通信を行うときは、本機の赤外線通信ポートと通信相手機器の赤外線通信ポートが向き合うように配置します。

赤外線通信を行う機器は次の範囲内に配置してください。

- ・ 互いの機器の赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにする
- ・ 互いの機器の赤外線通信ポートの距離を約1m以内にする

機器を配置するときの注意

- ・ 赤外線通信ポートを汚したり、傷つけたりしない
- ・ 通信相手機器と本機との間に赤外光を遮るような物を置かない
- ・ 互いの機器どうしを接触させない
- ・ 通信相手の赤外線が本機の赤外線通信ポートまで届かないときや通信相手機器の通信可能距離が本機よりも短い（本機の場合は約1m以内）ときは、通信相手の機器が本機の通信可能範囲にあっても通信できないことがあります。このようなときは、お互いの赤外線通信ポートを真正面で向き合わせて、できる限り近くに置いてください。このとき、お互いの装置が接触しないようにしてください。

こんなときは通信可能距離が短くなってしまうことがあります

- ・ 直射日光や蛍光灯の直下
- ・ 機器どうしが正しく向き合っていない
- ・ 他の赤外線通信機器やノイズを発生する機器の近くにある
- ・ 本機の赤外線通信ポートの指向性(約15度程度)の範囲を越えているとき

こんなときはうまく通信できないことがあります

- ・ 異なる機器と接続した場合(相手の機器の性能に依存するため)
- ・ 通信相手機器がIrDA規格に準拠していない場合

異なる機器との通信には、両装置間の通信に対応したソフトが必要です。

赤外線通信をする

赤外線通信を行うには、次の方法があります。

- ・ 「Intellisync」を使用する(Windows 98のみ)
- ・ 「ケーブル接続」を使用する(Windows Me / Windows 98のみ)
- ・ 「赤外線転送」を使用する(Windows 98のみ)
- ・ 「ワイヤレスリンク」を使用する(Windows Me / Windows 2000のみ)

Intellisync

Intellisyncは、赤外線や通信ケーブルを使ってファイルの転送を行うアプリケーションです。

「Intellisync」の「接続設定マネージャ」を起動し設定を行ってください。



参照 「Intellisyncの使いかた」→『活用ガイド ソフトウェア編』PART1の「Intellisync」

ケーブル接続

「ケーブル接続」とは、通信ケーブルや赤外線で他のコンピュータのネットワークや共有フォルダにアクセスする機能です。

詳しくは、「スタート」ボタン→「ヘルプ」でヘルプをご覧ください。



チェック!! 「ケーブル接続」で赤外線を使うときは、「使用するポート」として仮想赤外線COMポートを指定してください。仮想赤外線COMポートは、「赤外線モニタ」の「オプション」タブで「アプリケーションでサポートしているポート」の部分に表示されています。

赤外線転送

「赤外線転送」とは、Windows 98が起動している2台のパソコン間で、ファイルの転送を行う機能です。

「赤外線転送」を使ったファイルの転送には、次の3つの方法があります。

エクスプローラを使う

- 1** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリックする
- 2** 送信するファイルを表示させる
- 3** 送信するファイルを選択し、右クリックする
- 4** 「送る」→「赤外線の受信側」をクリックする

ドラッグ&ドロップを使う

- 1** 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする
- 2** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリックする
- 3** 送信するファイルを表示させる
- 4** 送信するファイルを選択し、「マイコンピュータ」の「赤外線の受信側」へドラッグ&ドロップする

マイコンピュータを使う

- 1** 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする
- 2** 「範囲内にある利用可能なデバイス」から送信相手のパソコンを選ぶ
- 3** 「ファイルの送信」ボタンをクリックし、送信するファイルを選ぶ

 **チェック!!** 赤外線転送、ケーブル接続、Intellisyncは、同時に使用することはできません。

ワイヤレスリンク

「ワイヤレスリンク」とは、赤外線通信が可能な2台のパソコン間で、ファイルの転送を行う機能です。

「ワイヤレスリンク」を使ったファイルの転送には、次の方法があります。

「ワイヤレスリンク」ダイアログボックスを使う

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)にある  か、またはデスクトップに表示される「ワイヤレスリンク」アイコンをダブルクリックする
「ワイヤレスリンク」ダイアログボックスが表示されます。

- 2 送信するファイルを選び、「送信」ボタンをクリックする

「送る」コマンドを使う

- 1 デスクトップやエクスプローラ、マイコンピュータなどで送信するファイルを表示させる
- 2 送信するファイルを右クリックする
- 3 表示されたメニューから「送る」→「赤外線受信者」または「赤外線
の受信者側」をクリックする

ドラッグ&ドロップを使う

- 1 デスクトップやエクスプローラ、マイコンピュータなどで送信するファイルを表示させる
- 2 送信するファイルをデスクトップの「ワイヤレスリンク」アイコン
へドラッグ&ドロップする

 **チェック!!** インジケータ領域(タスクトレイ)やデスクトップにアイコンが表示されていない場合は、赤外線通信を行う相手の機器が通信範囲内に正しく配置されているか確認してください。

ワイヤレスリンクの使い方について詳しくは、「スタート」ボタン→「ヘルプ」をクリックすると表示されるWindowsのヘルプをご覧ください。

サウンド機能

ボリュームコントロールを使うと、内蔵音源の再生音量や録音時の入力レベルを調節することができます。

ボリュームコントロールを表示させる

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)のをダブルクリック
「音量の調整」、「ボリュームコントロール」または「Volume Control」の画面が表示されます。

 **チェック!!** ディスプレイの解像度を低解像度に設定しているときにボリュームコントロールを表示させると、ボリュームコントロールのすべての音源コントロールが表示されない場合や右端の音源コントロールの表示が一部欠ける場合があります。このようなときには、ディスプレイの解像度を変更する(→ p.46)か、または「プロパティ」ウィンドウの「表示するコントロール」欄で、使用しない音源の選択を解除し、必要な音源コントロールが表示されるように変更してください。
なお、ディスプレイの解像度を変更する場合は、ボリュームコントロールを一旦終了し、解像度を変更後に再度ボリュームコントロールを起動してください。

表示項目を切り替える

ボリュームコントロールに表示させる項目を切り替えることができます。

- 1 メニューバーの「オプション」→「プロパティ」をクリックする
「プロパティ」ウィンドウが開きます。
- 2 「音量の調整」から「再生」「録音」のどれかを選択する
表示項目が切り替わります。

設定項目一覧

表示できる項目と各項目の説明は次のようになります。
項目はモデルによって多少異なる場合があります。

項目名	音量調節の種類		機 能
	再生	録音	
音量の調整または ボリュームコントロール またはVolume Control	○		再生するすべての音量を調整します。
W A V E	○		WAVEデータなどのPCM音源の音量を調整します。
Phone	○		本機では使用できません。
IIS	○	○	ZVポートなどからの音量を調整します。
マイクまたは Microphone	○	○	マイクロホン端子から入力される音声をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。
CD オーディオ	○	○	CD オーディオを再生するときの音量を調整します。なお、CD オーディオを録音するときの音量は「Record Mixer」で調整します。
M I D I	○	○	MIDIデバイスとして"Microsoft GS Wavetable SW Synth"または"ESFM Synthesizer"を選択した場合のMIDIの音量を調整します。
Record Mixer		○	録音するすべての音量を調整します。

音楽CDを再生するための設定をする

✓チェック!! USBコネクタに接続するCD-ROMドライブは、デジタル再生、録音のみ使用可能です。USBコネクタに接続するCD-ROMドライブを使用して音楽CDを再生、録音する場合は、アナログではなくデジタルで音楽CDを再生するように設定しておく必要があります。

音楽CDを再生するために次の設定を確認してください。

■ Windows Meの場合

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 2** 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
- 3** 「CD-ROM」の横の $\oplus$ をクリックして、その下に表示されるCD-ROMデバイスをダブルクリックする
- 4** 「プロパティ」タブの「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」にチェックを付ける
- 5** 「OK」ボタンをクリックする
- 6** 「OK」ボタンをクリックする

■ Windows 98の場合

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「マルチメディア」アイコンをダブルクリックする
- 2** 「音楽CD」タブの「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」にチェックを付ける
- 3** 「OK」ボタンをクリックする

■ Windows 2000の場合

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 2** 「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする
- 3** 「DVD/CD-ROMドライブ」の横の $\oplus$ をクリックして、その下に表示されるCD-ROMデバイスをダブルクリックする
- 4** 「プロパティ」タブの「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」にチェックを付ける
- 5** 「OK」ボタンをクリックする
- 6** 「デバイスマネージャ」画面を閉じ、「システムのプロパティ」画面で「OK」ボタンをクリックする

内蔵モデム

ここでは、FAX内蔵モデルについての説明をしています。

内蔵のモデムを介して電話回線に接続すると、インターネットや電子メールなどのやり取りができます。

電話回線との接続

接続可能な電話回線のコンセントについて

本機に接続可能な電話回線は2線式のみです。電話回線に接続する前に、使用する電話回線の種類を確認してください。

本機には、モジュージャックと接続するためのモジュラーケーブルが添付されています。

電話回線のコンセントがモジュージャック式以外の場合は、変換アダプタを使用するかNTTにモジュージャックの取り付けをご相談ください。

- ✔ **チェック!!** 内蔵のFAXモデムは、加入電話回線に適合するように設計されています。加入電話回線以外と接続すると、うまく動作しないことや、内蔵FAXモデムやパソコン本体などを破損するおそれがあります。

電話回線を接続する

⚠ 警告



感電注意

- 雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

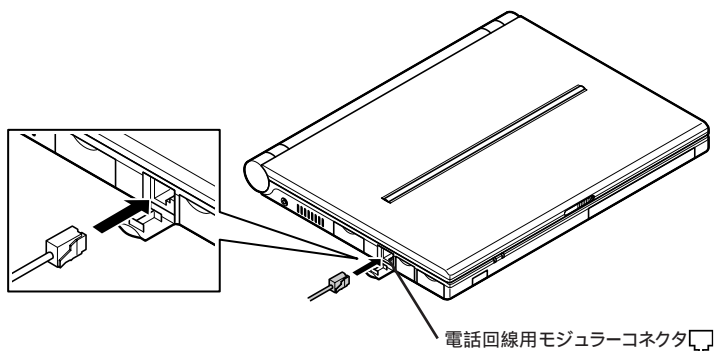
⚠ 注意



感電注意

- モジュージャックの端子に触れないでください。電話回線と接続しているモジュージャックを抜いたときに電話がかかってくると、電話回線上に電圧がかかるため、端子に触れると感電することがあります。

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3 電話機のモジュラーケーブルをモジュラージャックなどから取り外す
- 4 電話回線用モジュラーコネクタのカバーを開き、付属のモジュラーケーブルの一方を本機の電話回線用モジュラーコネクタに接続する



- 5 モジュラーケーブルのもう一方を、壁などのモジュラージャックに接続する

1つの電話回線のモジュラージャックを本機以外の機器(電話機など)と共用で使用する場合は、使用することによりケーブルの接続や取り外しが必要になります。

ダイヤル設定のしかた

■ Windows Me / Windows 98の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「テレフォニー」アイコンをダブルクリックする

「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

「所在地情報」ウィンドウが表示された場合

0を除いた市外局番を入力し、「閉じる」ボタンをクリックすると、「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

必要な項目を確認して、設定してください。

携帯電話など必ず市外局番からダイヤルする必要がある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。

「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示された場合

使用する場所の0を除いた市外局番を入力する。携帯電話など、市外局番からダイヤルする必要がある場合は「000」を入力する。

外線発信番号が必要な回線の場合は入力する。

プッシュ回線を使用するときは「トーン」、ダイヤル回線のときは「パルス」に設定してください。回線の種類が不明の場合は、NTTにお問い合わせください。

この画面はモデルによって異なります。

■ Windows 2000の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「電話とモデムのオプション」アイコンをダブルクリックする

「電話とモデムのオプション」ウィンドウが表示されます。

はじめてダイヤル設定を行うときは、「所在地情報」ウィンドウが表示されます。このような場合は、次の「所在地情報」ウィンドウが表示された場合」で設定を行ってください。

「所在地情報」ウィンドウが表示された場合

「市外局番 / エリア コード」欄に0を除いた市外局番を入力し、「OK」ボタンをクリックすると「電話とモデムのオプション」ウィンドウが表示されます。

必要な項目を確認して、設定してください。

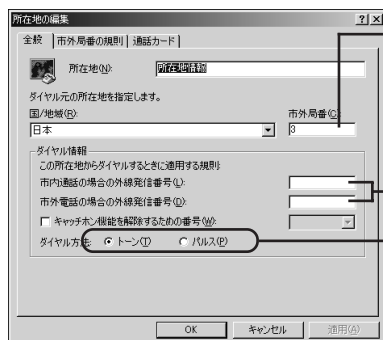
携帯電話など必ず市外局番からダイヤルする必要がある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。

2 「ダイヤル情報」タブで、設定したい所在地名を選んでから「編集」ボタンをクリックする



新規にダイヤル設定を行いたい場合は「新規」ボタンをクリックし、表示された「新しい所在地」ウィンドウで設定を行ってください。

3 「所在地の編集」ウィンドウで設定を行う



使用する場所の0を除いた市外局番を入力する。携帯電話など、市外局番からダイヤルする必要がある場合は「000」を入力する。

外線発信番号が必要な回線の場合は入力する。

プッシュ回線を使用するときは「トーン」ダイヤル回線のときは「パルス」に設定してください。回線の種類が不明の場合は、NTTにお問い合わせください。

4 設定が終わったら、「OK」ボタンをクリックする

通信機能使用上の注意

- ・内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。
- ・加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは、NTTに確認してください。
- ・回線の状態によっては、接続しにくかったり、通信時に雑音が入ることがあります。
- ・キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- ・ダイヤルアップネットワーク接続の場合、インターネットエクスプローラを終了しても回線が接続されたままになっている場合があります。
回線を切断する必要がある場合は、インジケータ領域（タスクトレイ）の「ダイヤルアップネットワーク」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「切断」をクリックしてください。
- ・コードレスホンや親子電話などの加入電話回線以外の回線をご使用の場合は、正常なデータの送受信ができなくなる場合があります。
- ・回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できない場合があります。
- ・電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでのファクシミリ通信ができないことがあります。この場合には、通信速度を9600bpsにしてください。
- ・データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。それ以外に設定すると、データ抜けが生じる可能性があります。
- ・通常の電話回線を使用する場合、送信レベルはご購入時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合には、送信レベルの調整が必要なことがあります。送信レベルの調整は、工事担当者以外が行うことは法律で禁じられていますので、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。
- ・本機に内蔵されているモデムは、海外では使用できません。
- ・海外と直接接続した場合、伝送路の特性のため正常に通信できない可能性があります。
- ・K56flexおよびITU-T V.90の最大受信速度56,000bpsは、理論値であり、加入電話回線での通信速度とは異なります。
- ・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。詳しくは、下記のREADMEファイルをご覧ください。

-Windows Me / Windows 98の場合:

C: ¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

-Windows 2000の場合:

C: ¥WINNT¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

- ・ 回線を使って通信中はスタンバイ状態、休止状態にしないでください。
- ・ 分岐アダプタを使ってパソコンと電話機などの両方を電話回線に接続している場合、パソコンで回線を使っているときは、電話機などの受話器をはずさないでください。パソコンの通信が妨害され、切断されることがあります。
- ・ 接続する電話機などの種類によっては、動作しない機種があります。
- ・ 接続する電話機などの種類によっては、内蔵FAXモデムが正常に通信できない場合があります。内蔵FAXモデムが正常に通信できない場合は、以下のいずれかの方法で、正常に通信できるようになります。
 - 接続する電話機などにアース接続用の端子がある場合は、アース線をつなぐ
 - 内蔵FAXモデムで通信を行うときは、電話機などを取りはずす
- ・ 構内交換機(PBX)の種類によっては内蔵FAXモデムが使用できない場合があります。
- ・ Windows2000でモデムドライバを削除する場合は、次の「モデムドライバの削除のしかた」の手順で行ってください。(LaVie MXのみ)

モデムドライバの削除のしかた(LaVie MXのみ)

1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」をクリックする

2 次のように入力して、「OK」ボタンをクリックする

C: ¥WIN2K¥XCMODEM¥XMREMOVE.EXE



チェック!! デバイスマネージャのドライバの削除で、モデムドライバの削除を行わないでください。デバイスマネージャでモデムドライバを削除すると、モデムが使用していたシリアルポート番号が開放されません。

インターネットへの通信環境を切り替える

インターネット設定切替ツールを使うと、複数のダイヤルアップ接続を使い分けたり、ダイヤルアップ接続からLAN接続へ切り替えたりと、利用シーンに応じて通信環境を切り替えることができます。

パソコンを携帯して、外出先でインターネットを利用するときなどに便利な機能です。



チェック!!

- ・インターネット設定切替ツールは、ご購入時にはインストールされていません。インターネット設定切替ツールを使用する場合は、添付の「アプリケーションCD-ROM」を使ってインストールします。インストール方法は、『活用ガイド ソフトウェア編』の「PART2 添付アプリケーションの追加と削除」をご覧ください。
- ・インターネット設定切替ツールを使うには、ダイヤルアップネットワークの情報が必要です。ダイヤルアップネットワークが設定されていない場合は、インターネット設定切替ツールは起動できません。
- ・LANを使った接続を行うには、あらかじめネットワークの設定をしておく必要があります。
- ・インターネット設定切替ツールは、Outlook 2000には対応していますが、Outlook 2002では対応していません。

インターネット設定切替ツールを起動する

インターネット設定切替ツールは、本機の起動時にアイコン化してインジケータ領域(タスクトレイ)に常駐します。

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)のをダブルクリックする
次の画面が表示されます。



この画面には、ダイヤルアップの接続情報が3つまで表示されます。使用したいダイヤルアップの接続情報が表示されていない場合は、またはをクリックして表示させてください。

はじめてインターネット設定切替ツールを起動したときは、インターネット設定切替ツールのウィザードが表示されます。ウィザードにしたがって設定を行ってください。

インターネット設定切替ツールを終了するときは

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)のを右クリックし、表示されたメニューから「インターネット設定切替ツールの終了」をクリックする

インターネット設定切替ツールを使うための設定をする

ダイヤルアップ接続の情報を登録する

外出先でインターネットを使うときなどは、あらかじめインターネット設定切替ツールに新しいダイヤルアップ接続の情報を登録しておきます。

- 1 「インターネット設定切替ツール」の「プロパティ」ボタンをクリックする
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「ボタン設定」タブをクリックする
- 3 「ダイヤルアップ」をにし、「追加」ボタンをクリックする
- 4 新しく登録する接続名を入力して、「次へ」ボタンをクリックする
- 5 プロバイダに接続するための電話番号、国番号を入力し、「次へ」ボタンをクリックする
「新しいダイヤルアップ ネットワーク接続が次の名前で作成されました。」と表示されます。
- 6 接続名を確認して、「完了」ボタンをクリックする
- 7 「OK」ボタンをクリックする。
新しいダイヤルアップ情報が登録されます。

ダイヤルアップ接続の情報を修正する

登録した情報を修正したいときは、次の手順で行います。

- 1 登録されているダイヤルアップ接続から、変更するものをクリックする
- 2 「修正」ボタンをクリックする
- 3 表示された画面でダイヤルアップ接続の内容を変更する

LAN接続へ切り替えるための設定を行う

インターネット設定切替ツールで、LAN接続への切り替えを利用したい場合は、次の手順で設定を行っておいください。

- 1 「インターネット設定切替ツール」の「プロパティ」ボタンをクリックする
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「環境設定」タブをクリックする
- 3 「LANを使用する」を☒にし、「OK」ボタンをクリックする
これでインターネット設定切替ツールでLAN接続への切り替えができますようになります。

接続環境を反映するメールソフトを選ぶ

インターネット設定切替ツールで接続環境を切り替えたときに、切り替えた接続環境の情報をどのメールソフトに反映するかを選んでおきます。
接続環境を変更すると、メールソフトでも新たにその接続環境を設定しておく必要があるのですが、ここで選んだメールソフトは、メールソフト側で設定変更することなく使えるようになります。

インターネットエクスプローラは、接続環境の切り替えを自動的に認識しますので、ここで設定する必要はありません。

- 1 「インターネット設定切替ツール」の「プロパティ」ボタンをクリックする
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「環境設定」タブをクリックする

3 「切り替えるAPを選択してください」欄で、接続環境を反映するメールソフトを☑にする

4 「OK」ボタンをクリックする

これで通信環境を切り替えるための設定ができました。

インターネット設定切替ツールで、より詳細な設定を行いたい場合は、「詳細設定」をご覧ください。

接続環境を切り替える

1 「インターネット設定切替ツール」を起動する

2 切り替える接続環境名をクリックする

または、インジケータ領域(タスクトレイ)のを右クリックし、表示されたメニューから切り替える接続環境名をクリックする。

これでインターネットへの接続環境が切り替わります。

詳細設定

接続環境の詳細設定は「プロパティ」ウィンドウで行います。



接続先の選択

設定を行いたい接続の種類(ダイヤルアップまたはLAN接続)をクリックしてにします。

接続名表示欄

登録されているダイヤルアップ接続名が表示されています。接続名の左を☒にすると、メイン画面やインジケータ領域(タスクトレイ)からのメニューにダイヤルアップ接続環境名として表示されるようになります。

「更新」ボタン

登録してあるダイヤルアップの接続情報を自動更新することができます。インターネット設定切替ツールで接続環境を設定したあとで、インターネット設定切替ツールを使用せずに直接ダイヤルアップ接続の設定を追加や削除した場合は、このボタンをクリックしてください。現在のダイヤルアップ接続の情報が取り込まれ、インターネット設定切替ツールの環境設定に反映されます。

「修正」ボタン

登録してあるダイヤルアップ接続の情報を変更することができます。

所在地

「所在地を変更しない」を選んだ場合、接続環境を切り替えても所在地情報は変更されません。「所在地情報名」を選んだ場合は、接続環境を切り替えると、システム上の所在地情報に反映されます。

アカウントの選択

使用するメールソフトのどのアカウントに接続情報を反映するかを選ぶことができます。この項目を使用するには、メールソフトで複数のアカウントを作成しておく必要があります。

携帯電話 / PHS接続機能

携帯電話またはPHSを接続することで、屋外でも手軽にインターネットや電子メールを利用できます。

携帯電話またはPHSとの接続

LX60Tをお使いの場合、またはLaVie Gシリーズやモバイルノート(長時間駆動型)の携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル添付のモデルをお使いの場合は、添付されている携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブルを使うと、NTTドコモ、au(1DQ、DDIセルラー)、ツーカーグループ、J-PHONEの携帯電話と接続することができます。また、別売のケーブルを使用してPHSや上記以外の携帯電話と接続することもできます。

PHSや上記以外の携帯電話と接続するためには、次のような別売のPHS接続ケーブルや携帯電話接続ケーブルが必要です(LaVie Gシリーズやモバイルノート(長時間駆動型)でそれぞれのケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)

- ・ 携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)
(LX60Tには購入時に添付)
- ・ cdmaOne 接続ケーブル(PC-VP-WK06)
- ・ PHS(NTTドコモ / アステル)接続ケーブル(PC-VP-WK07)
- ・ PHS(DDIポケット)接続ケーブル(PC-VP-WK08)

接続できる携帯電話またはPHSについては、NECのホームページ「121ware.com(ワンツワンウェア ドット コム)」をご覧ください。

<http://121ware.com/>

- 1 接続ケーブルのラベルが貼ってあるほうのプラグを、携帯電話またはPHS本体に接続する
プラグの向きに注意し、カチッと音がして止まるまで軽く押し込んでください。
- 2 本機のUSBコネクタ()のカバーを開き、本機のUSBコネクタ()に、接続ケーブルのプラグを接続する
本体右側面(ポート1) 左側面(ポート2)のどちらのUSBコネクタに接続してもかまいません。
マークがある方を上にして、止まるまで軽く押し込んでください。
USBコネクタへの接続について詳しくは、PART2の「USBコネクタ」(→p.162)をご覧ください。

接続先を設定する

プロバイダなどへの接続先を携帯電話またはPHSを使用した接続設定にするときは、「ダイヤルアップネットワーク」で「新しい接続」を作成するときに「モデムの選択」で、Windows Meモデル、Windows 2000モデルをお使いの場合は「SunComm MultiMobile3 USB」、Windows 98モデルをお使いの場合は「SunComm MultiMobile3」を選んでください。

-  **チェック!!** お使いの携帯電話またはPHSによっては、電話機側に設定が必要な場合や専用のアクセスポイントへの接続が必要な場合があります。詳しくは、携帯電話またはPHSのマニュアルをご覧ください。また専用のアクセスポイントについては、インターネットのサービスプロバイダにお問い合わせください。

ダイヤル設定のしかた

ダイヤルの設定を確認または変更したいときは、次の手順で行います。

■ Windows Me / Windows 98の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「テレフォニー」アイコンをダブルクリックする

「所在地情報」ウィンドウが開いた場合

市外局番の欄に0を除いた市外局番を入力し、「OK」ボタンをクリックします。再度、「ダイヤルのプロパティ」ボタンをクリックすると、「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。必要な項目を確認して設定してください。

携帯電話またはPHSなど、必ず市外局番からダイヤルする必要がある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。

「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが開いた場合



携帯電話 / PHSの場合は、
「000」を入力する

■ Windows 2000の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「電話とモデムのオプション」アイコンをダブルクリックする

「電話とモデムのオプション」ウィンドウが表示されます。

はじめてダイヤル設定を行うときは、「所在地情報」ウィンドウが表示されます。このような場合は、次の「所在地情報」ウィンドウが表示された場合」をご覧ください。

「所在地情報」ウィンドウが開いた場合

市外局番の欄に0を除いた市外局番を入力し、「OK」ボタンをクリックします。再度、「電話とモデムのオプション」ボタンをクリックすると、「電話とモデムのオプション」ウィンドウが表示されます。必要な項目を確認して設定してください。

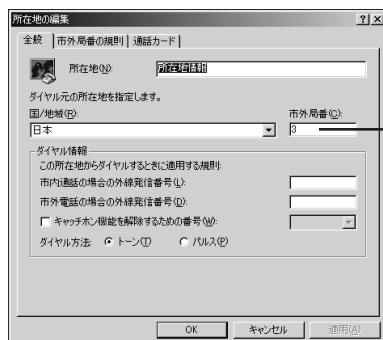
携帯電話またはPHSなど、必ず市外局番からダイヤルする必要のある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。

2 「ダイヤル情報」タブで、設定したい所在地名を選んでから「編集」ボタンをクリックする



新規にダイヤル設定を行いたい場合は「新規」ボタンをクリックし、表示された「新しい所在地」ウィンドウで設定を行ってください。

3 「所在地の編集」ウィンドウで設定を行う



携帯電話 / PHSの場合は、
「000」を入力する

4 設定が終わったら、「OK」ボタンをクリックする

携帯電話 / PHS接続機能使用上の注意

ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。詳しくは、下記のREADMEファイルをご覧ください。

- Windows Me / Windows 98の場合：

C : ¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

- Windows 2000の場合：

C : ¥WINNT¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

いろいろなデータ通信を行う

本機では、通常のデータ通信のほかに、次のようなデータ通信を行うことができます。

- ・ cdmaOneによるデータ通信
- ・ NTTドコモのDoPaサービスによるデータ通信
- ・ NTTドコモのドッチーモによるPIAFS32Kデータ通信
- ・ NTTドコモのドッチーモによるPIAFS64Kデータ通信
- ・ NTTドコモの64K対応PHSによるデータ通信
- ・ DDIポケットの32K対応電話機によるPIAFS32Kデータ通信
- ・ DDIポケットのH⁺ (エッジ)によるPIAFS64Kデータ通信

これらのデータ通信をご利用になる場合には、それぞれのデータ通信に対応した接続ケーブルと、「ダイヤルアップの接続」画面での設定が必要になることがあります。

LaVie Gシリーズで、データ通信サービス用の接続ケーブルが添付されているモデルを購入された場合は、接続ケーブルが添付されています。購入したモデルを確認して、必要な場合に別売の接続ケーブルをお使いください。

 **チェック!!** これらのデータ通信をご利用になるときは、アクセスポイントがご利用のデータ通信に対応していることを確認してください。対応していないデータ通信方式で接続すると、接続できなかったり、正常に通信できないことがあります。

		必要な接続ケーブル	ダイヤルアップの設定
cdmaOne ¹		cdmaOne 接続ケーブル (PC-VP-WK06)	必要ありません
NTT ドコモ	DoPaサービス (パケット通信サービス)	携帯電話 (DoPa/PDC) 接続ケーブル (PC-VP-WK05)	「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##02」を追加する必要があります。 ²
	PHS (64K対応機種)	携帯電話 (NTTドコモ/ アステル) 接続ケーブル (PC-VP-WK-07)	「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##4」を追加する必要があります。
	ドッチーモ (PIAFS64K 機種) ³	携帯電話 (DoPa/PDC) 接続ケーブル (PC-VP-WK05)	「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##4」を追加する必要があります。
	ドッチーモ (PIAFS32K 機種) ³	携帯電話 (DoPa/PDC) 接続ケーブル (PC-VP-WK05)	「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##3」を追加する必要があります。 ⁴
DDI ポケット	PIAFS32K 対応電話機	PHS (DDI ポケット) 接続ケーブル (PC-VP-WK08)	「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##3」を追加する必要があります。 ⁴
	H ⁴ (エッジ)	PHS (DDI ポケット) 接続ケーブル (PC-VP-WK08)	「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##4」を追加する必要があります。 ⁵

1 データ通信を行うには、データ通信モードを「Async」に設定する必要があります。Packet通信モードをご利用になる場合は、データ通信モードを「Packet」に変更してください。データ通信モードの切り替えについては、cdmaOneの取り扱い説明書をご覧ください。

2 DoPaサービスを利用せずに9600bpsデータ通信を行う場合、この設定は必要ありません。

3 ドッチーモでPIAFS通信を行う場合には、ドッチーモの待ち受けモードを「PHS専用」に切りかえる必要があります。

4 NTTドコモ、アステル、DDIポケットのPHSをお使いの場合は、この設定は必要ありません。

5 一部の地域では64Kbpsでのデータ通信ができないことがあります。32Kbpsで接続されます。また、次のような場合にも、64Kbpsでなく、32Kbpsで接続されることがあります。

- ・電話番号の最後に「##4」を追加しなかった場合
- ・回線が混雑している場合



LAN(ローカルエリアネットワーク)

ここでは、LAN内蔵モデルについての説明をしています。

LANへの接続

LANボードが内蔵されているモデルでは、100BASE-TXまたは10BASE-Tネットワークシステムに接続することができます。

100BASE-TXは、従来のEthernet(10BASE-T)の環境で転送速度100Mbpsを実現したネットワークです。従来のネットワーク構成を変更せずに既存のハブやリンクケーブルを変更するだけで、高速化がはかれます。本機は、どちらの環境にも接続することができます。

LANの設置

はじめて100BASE-TXネットワークを設置するためには、配線工事などの技術が必要ですので、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。また、本機に接続するリンクケーブル類やハブなどは、弊社製品を使用してください。他社製品を使用し、システムに異常が発生した場合の責任は負いかねますので、ご了承ください。

接続方法

既存のネットワークに、端末として本機を接続する場合について説明します。

ネットワークへの接続には、リンクケーブルが必要です。

本機に内蔵されているLANインターフェイスは、100Mbpsで動作する100BASE-TX基準を満たしています。100BASE-TX(100Mbps)で使用する際には、必ずカテゴリ5のリンクケーブルを使用してください。10BASE-T(10Mbps)で使用する際には、カテゴリ3または5のリンクケーブルを使用してください。



チェック!!

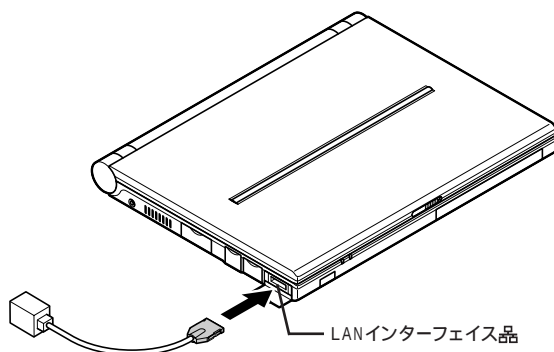
本機を稼働中のネットワークに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示にしたがって、ネットワークの設定とリンクケーブルの接続を行ってください。

チェック!! 本機の電源が入っているときは、専用LANケーブルを抜き差ししないでください。

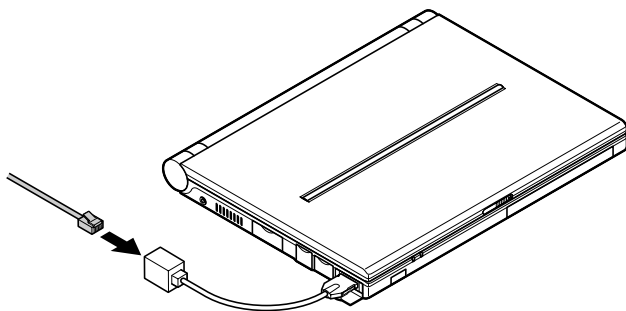
1

本機
の
機
能

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3 LANインターフェイスのカバーを開き、専用LANケーブルの平らな形をした一端を品マークがある方を上にして、本機のLANインターフェイス品にカチッと音がするまで、しっかり差し込む



- 4 本機に接続した専用LANケーブルの先に、リンクケーブルの一端をカチッと音がするまでしっかり差し込む



5 リンクケーブルのもう一方を、ネットワーク(100BASE-TXハブなど)に接続する

ネットワーク側の接続や設定については、接続するネットワーク側の機器のマニュアルをご覧ください。

運用上の注意

LANに接続して本機を使用するときは、次の点に注意してください。

- ・システム運用中は、ハブからリンクケーブルを外さないでください。ネットワークから切断されます。ネットワーク接続中にリンクケーブルが外れたときは、すぐに接続することで復旧し、使用できる場合もありますが、使用できない場合は、本機を再起動してください。
- ・LAN回線を接続してネットワーク通信をするときには、本機にACアダプタを接続して使用するようにしてください。バッテリーパックのみで使用すると、使用時間が短くなります。
- ・スタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイパネーション)では、ネットワーク機能が一旦停止します。ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態または休止状態になったときにデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合は、システム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態または休止状態を使用してください。
- ・100BASE-TX/10BASE-Tシステムの保守については、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

ユニバーサル管理アドレスについて

ユニバーサル管理アドレスは、IEEE(米国電気電子技術者協会)で管理されているアドレスで、主に他のネットワークに接続するときなどに使用します。ユニバーサル管理アドレスは、次の方法で確認することができます。

MS-DOSプロンプトに、次のコマンドを入力してください。

Windows Me/Windows 98の場合

Winipcfg.exe【Enter】

(ただしTCP/IPプロトコルが必要です。)

Windows 2000の場合

NET CONFIG WORKSTATION【Enter】

(「アクティブなネットワーク(ワークステーション)」という項目の()内に表示されます。)

本機の運用管理

本機は、システム管理者が効率よく本機をマネジメントするための運用管理、セキュリティ、資源管理および遠隔操作・保守を行うための機能があります。システム管理者が効率よくパソコンをマネジメントするために、次のような手段・機能を利用することが効率的であるといわれています。

- ・一般のユーザが、Windowsのシステムに影響のあるファイルを変更・削除したり、アプリケーションをインストールできないようにする。
- ・機密データの漏洩、改ざん防止、コンピュータウイルスの侵入を防ぐため、外部からデータを取り込むフロッピーディスクドライブを使用できないようにする(ロックする)。
- ・アプリケーションのバージョンアップのために、必要なパソコンのハードウェア構成情報(メモリ容量、ハードディスクの空き容量など)ソフトウェア構成情報を管理する。
- ・ハードウェアに異常が発生したことを一般ユーザやシステム管理者に通知する。
- ・システム管理者のパソコンから管理するパソコンの電源、システムを遠隔操作できる。

本機は、このような手段・機能を利用するために、次のようなマネジメント(運用管理)機能を備えています。

クライアントモニタリング(モバイルノート(長時間駆動型)のみ)

「Intel® LANDesk® Client Manager (with NEC Extensions)」により、離れたところにあるマシンから本機の状態を知ることができます。また、システム管理者が別売のPCMANAGERなどを利用して一括でクライアントPCの障害情報を監視できます。

参照

『活用ガイド ソフトウェア編』PART1の「アプリケーションを使う前に」の「Intel® LANDesk® Client Manager (with NEC Extensions)」

・資源管理

本機のメモリ容量、ハードディスク容量などのハードウェア構成およびインストールされているアプリケーションについての情報を知ることができます。また、離れたところにあるマシンから、本機の情報を知ることができます。

- ・ 状態監視

障害監視機能が異常を検出すると、本機の状態監視アイコンやポップアップメニューにより異常を通知し、バックアップツールの連携操作などができます。また、離れたところにあるマシンから、本機の状態を知ることができます。

リモートコントロール(モバイル ノート(長時間駆動型)のみ)

離れたところにあるシステム管理者のマシンから本機を操作して、次の操作を行うことができます。

- ・ 本機のデータやシステムファイルなどのバックアップ
- ・ ファイル転送
- ・ アプリケーションのインストール
- ・ アプリケーションの実行などの操作(アプリケーションによってはできないものがあります)

 **チェック!!** この操作を行うには、システム管理者のマシンに次のアプリケーション(別売)が必要です。

「DMIT00L Ver8.2(pcAnywhere™ 9.2 EX コンプリート版付)」

 **参照** 『活用ガイド ソフトウェア編』PART1の「アプリケーションを使う前に」の「pcAnywhere 9.2 EX」

「DMIT00L Ver8.2(pcAnywhere™ 9.2 EX コンプリート版付)」に関する最新情報は、NECのホームページ「121ware.com(ワントゥワンウェア ドット コム)」で提供しています。
<http://121ware.com/>

電源回復(スタンバイ状態からの復帰)の設定

以下の設定を行うと、本機をネットワークに接続して使用しているときに、電源回復イベントが発生したときに、本機をスタンバイ状態から自動的に復帰させることができます。

Windows Me / Windows 98の場合、電源回復イベントには、従来からサポートされているMagicPacket検出に加えて、電源回復フレーム検出(例えば、ARPリクエスト、NETBIOS名検索、コンピュータに直接送られてきたIPフレームなどの検出)が追加されています。

ARPリクエスト、NETBIOS名検索、コンピュータに直接送られてきたIPフレームなどは、コンピュータをネットワークに接続して使用していると、他のコンピュータから不定期に送られてくるため、本機をスタンバイ状態にしておくと、これらが検出されたときに、不定期にスタンバイから復帰することがあります。



チェック!!

- ・電源回復イベントの設定を行った場合は、購入時の設定で使う場合に比べて、本機のバッテリーの消費量が大きくなります。バッテリー駆動時間を優先して本機を使いたい場合は、電源設定は行わずに出荷時の設定で使用してください。
- ・電源回復イベントを利用するには、電源回復イベントの packets を発信するパソコンに、別売の「DMIT00L Ver8.2 pcAnywhere™ 9.2 EX コンプリート版付」が必要です。

Windows Me / Windows 98の場合

- 1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
- 3 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックする
- 4 表示されたLANアダプタをダブルクリックする
- 5 「電源の管理」タブをクリックする
- 6 以下の設定を行う
 - ・「節電のためにコンピュータの電源を自動的に切る」を「オン」にする
 - ・「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」を「オン」にする

Windows 2000の場合

- 1 「Administrator」でログオンする
- 2 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 3 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする
- 4 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックする
- 5 表示されたLANアダプタをダブルクリックする
- 6 「電源の管理」タブをクリックする
- 7 以下の設定を行う
 - ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」を「オン」にします。
 - ・「電力の節約のために、このコンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」を「オン」にします。

ネットワークブート(モバイルノート(長時間駆動型)のみ)

管理者パソコンと接続し、次の操作を行うことができます。

 **チェック!!** この機能を使用するには、別途同一LAN上の管理者パソコンで、別売のESMPRO/ClientManager Ver3.1以上のRemote Install Managerが設定されている必要があります。

- ・OSのセットアップ
- ・BIOSフラッシュ(BIOS ROMの書き換え)
- ・BIOS設定変更

上記の作業を行う際に、ネットワークからの起動が必要になった場合は、本機起動時に「NEC」のロゴが表示されているときに【F12】を押すとネットワークブートが可能になります。

 **チェック!!** 【F12】を押し続けても、ネットワークブートができない場合があります。この場合、再度【F12】を押しながら電源を入れてください。

P A R T

2

周辺機器を使う

別売の周辺機器の接続方法や注意事項などを説明しています。

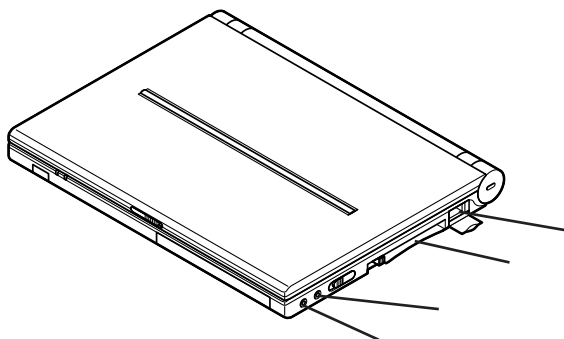
接続できる周辺機器

本機には、次のような別売の周辺機器を接続できます。

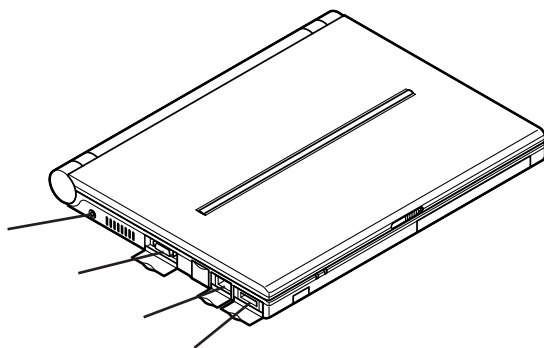
本機に接続できる周辺機器一覧

本機のそれぞれのコネクタや端子に接続できる周辺機器について説明します。

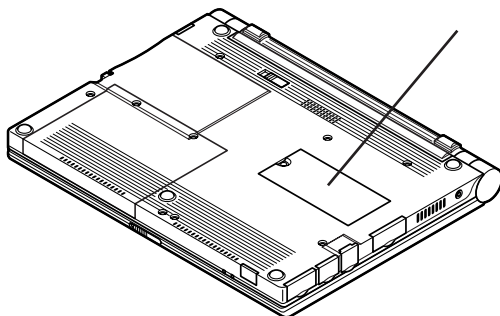
本体前面 / 右側面



本体前面 / 左側面



本体底面



名称	接続できる周辺機器
ヘッドホン / オーディオ出力端子	ヘッドホン、オーディオ機器など
外部マイクロホン端子	マイクロホン
PCカードスロット	PCカード、SCSI インターフェイスカードなど (SCSI インターフェイスカードを使うとMOドライブや ハードディスクを接続できます)
USBコネクタ	USB 機器 USB マウス、USB テンキーボード、携帯電話、PHS 端 末など(携帯電話、PHS 端末を接続する場合は、携帯 電話 / PHS 接続ケーブルが必要)
DCコネクタ	カーアダプタ
外部CRT用コネクタ	外部ディスプレイ (別売のディスプレイ変換ケーブルが必要)
LAN インターフェイス	専用LANケーブル(LAN 内蔵モデルのみ添付)
メモリスロット	増設RAM ボード

周辺機器の利用

プリンタや外部ディスプレイなど、本機に接続して使用する機器全般を、周辺機器といいます。本機には、さまざまな周辺機器を接続するためのコネクタやポートが用意されています。

また、別売のUSBポートバーを利用して周辺機器を接続することもできます。

周辺機器利用上の注意

⚠ 警告



感電注意

- 雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

⚠ 注意



感電注意

- 周辺機器の取り付け / 取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、本機と周辺機器の電源コードを抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま、周辺機器の取り付け / 取り外しをすると、感電の原因となります。
- 濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

周辺機器の取り付け / 取り外し時の注意

- 本機がスリープ状態のときは、周辺機器を取り付けたり取り外したりしないでください。
本機がスリープ状態のときは、一旦スリープ状態から復帰させてデータを保存し、電源を切ってから周辺機器の取り付けや取り外しを行ってください。
- 別売の周辺機器を取り付けるときには、その周辺機器が本機に対応していることを確認してください。また、周辺機器によっては使用上の制限事項がある場合がありますので、周辺機器の説明書などをよくお読みになり使用してください。当社製以外の周辺機器を使用する場合は、機器の製造元 / 発売元などに上記の事項を確認してください。

- ・周辺機器の取り付けや取り外しは、取扱説明書に従って正しく行ってください。
- ・周辺機器によっては、専用のケーブルが必要な場合があります。接続する前に確認のうえご用意ください。

リソースの競合について

周辺機器を増設すると、他の機器とリソースが競合してどちらかが使えなくなることがあります。この場合は、以下の手順でリソースが競合しないように変更してください。

Windows Me / Windows 98の場合

- 1 起動しているアプリケーションをすべて終了する
- 2 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」画面が表示されます。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
「デバイスマネージャ」画面が表示されます。
- 4  や  が表示されていて動作しない周辺機器を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックする
- 5 「プロパティ」画面で「リソース」タブをクリックし、以下の設定を行う
 - ・Windows Meの場合：
「自動設定」を  (オフ) にします。
 - ・Windows 98の場合：
「自動設定を使う」を  (オフ) にします。
- 6 競合しているリソースを「リソースの種類」一覧の中から選択し、ダブルクリックする
「競合するデバイス」欄に、競合しているデバイスと、競合しているリソースの種類が表示されます。

- 7** 競合しないリソースの値を設定し、「OK」ボタンをクリックする
「競合の情報」欄に競合しているデバイスと競合しているリソースが表示されます。

 **チェック!!** 他の周辺機器がそのリソースを使用している場合や、「この設定のリソースは変更できません」と表示された場合は、その値への変更はできません。

選択した周辺機器によっては「ポート番号」と「I/Oの範囲」など複数の変更が必要になることがあります。

- 8** リソースが競合していないことを確認し、「プロパティ」画面で「OK」ボタンをクリックする
- 9** 「変更不可の環境設定の作成」の画面が表示されるので、「はい」ボタンをクリックする
もとの画面に戻るまでに、しばらく時間がかかることがあります。そのままお待ちください。
- 10** 「OK」ボタンをクリックし、「システムのプロパティ」を閉じる
- 11** 本機を再起動する

Windows 2000の場合

- 1** 起動しているアプリケーションをすべて終了する
- 2** 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」画面が表示されます。
- 3** 「ハードウェア」タブをクリックする
- 4** 「デバイスマネージャ」の欄の「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする
「デバイスマネージャ」画面が表示されます。
- 5**  やが表示されていて動作しない周辺機器を右クリックし、表示されたメニューから「プロパティ」をクリックする

6 「プロパティ」画面で「リソース」タブをクリックし、「自動設定」を  (オフ)にする

7 競合しているリソースを「リソースの種類」一覧の中から選択し、ダブルクリックする
「競合の情報」欄に、競合しているデバイスと、競合しているリソースの種類が表示されます。

8 競合しないリソースの値を設定し、「OK」ボタンをクリックする
設定したリソースの値が他のデバイスと競合している場合、「競合の情報」欄に競合しているデバイスと競合しているリソースが表示されます。

 **チェック!!** 他の周辺機器がそのリソースを使用している場合や、「この構成のリソースを変更できません」と表示された場合は、その値への変更はできません。

選択した周辺機器によっては「ポート番号」と「I/Oの範囲」など複数の変更が必要になることがあります。

9 リソースが競合していないことを確認し、「プロパティ」画面で「OK」ボタンをクリックする

10 「変更不可の構成を作成しています」の画面が表示されるので、「はい」ボタンをクリックする
もとの画面に戻るまでに、しばらく時間がかかることがあります。そのままお待ちください。

11 右上の  をクリックし「デバイスマネージャ」を閉じる

12 「OK」ボタンをクリックし、「システムのプロパティ」を閉じる

13 本機を再起動する

周辺機器を使えるようにセットアップする

周辺機器を使うには、接続した周辺機器用のデバイスドライバを本機にセットアップする必要があります。デバイスドライバとは、本機と周辺機器との仲介をする周辺機器専用のソフトウェアのことです。

✓チェック!! デバイスドライバが正しく組み込めなかった場合は、周辺機器が使用できないばかりか、本機の動作が不正になることがあります。その場合は、周辺機器のマニュアルに従って、再度デバイスドライバを正しく組み込んでください。

デバイスドライバのセットアップ方法は、周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しているかどうかによって異なります。

・「プラグ&プレイ機能」対応の周辺機器の場合

機器を本機に接続してWindowsを起動すると自動的にドライバの設定が行われ、機器が使用可能な状態になります。

本機には、プラグ&プレイ機能用に多くの周辺機器のドライバがあらかじめ添付されています。接続しようとする周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しており、かつ添付されたドライバの中に該当するものがあれば、周辺機器の検出と設定が自動的に行われます。

・「プラグ&プレイ機能」に対応していない周辺機器の場合

機器を本機に接続したあと、ドライバの設定が必要な場合があります。設定の詳細は、本機やドライバに添付のREADMEファイルや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

READMEファイルは、「メモ帳」などのテキスト形式のファイルが開けるアプリケーションで簡単に見ることができます。

周辺機器の電源を入れる / 切る順序

本機に周辺機器を接続しているときには、次の順序で電源を入れたり、切ったりしてください。

電源を入れるとき

周辺機器の電源を入れる → 本機の電源を入れる

電源を切るとき

本機の電源を切る → 周辺機器の電源を切る

プリンタ

プリンタを使用するには、そのプリンタ機種に対応した専用のドライバが必要です。ドライバは通常フロッピーディスクなどの形でプリンタに添付されています。また、本機にも代表的なプリンタのドライバが数多く添付されています。

本機で使えるプリンタ

本機でUSB対応のプリンタを接続することができます。USB対応のプリンタを接続するときは、プリンタのほかに、本機と接続するための別売のケーブルが必要になります。

使用したいプリンタがパラレルコネクタに接続するタイプのプリンタの場合は、別売のUSBポートバー（PK-UP012SまたはPK-UP012NS）と別売の25ピンパラレルインターフェイスに対応したプリンタケーブルが必要になります。

✓チェック!! USBポートバー（PK-UP012S / PK-UP012NS）で使用できないプリンタもありますので、購入時には注意してください。

プリンタの接続

USB対応のプリンタ

1 USB対応のプリンタを接続する

参照 接続のしかた → 「USBコネクタ」の「USBコネクタに接続する」（p.162）

2 プリンタ用のドライバや必要なアプリケーションをインストールする

参照 インストールのしかた → プリンタに添付のマニュアル

ほとんどの場合、専用のドライバやプリンタに添付のアプリケーションなどが必要になりますが、プリンタの機種によっては、接続するだけですぐに使えるものもあります。詳しくはプリンタのマニュアルをご覧ください。

3 正しく接続できたかテスト印刷をして確認する

1 このパソコンに別売のUSBポートバーを接続する

参照 接続のしかた→USBポートバーのマニュアル

2 USBポートバーのパラレルコネクタにプリンタを接続する

3 「プリンタの設定」の手順に従って、プリンタの設定を行う

プリンタの設定

プリンタの設定は、使用するプリンタの機種ごとに、Windowsの「プリンタ」ウインドウで行います。例えば、会社で使うプリンタと家庭で使うプリンタの機種が異なる場合は、それぞれの機種に対して設定を行う必要があります。プリンタの設定について詳しくは、お使いのプリンタのマニュアルをご覧ください。

マウス

本機では、添付または別売のマウスを使用することができます。ここでは、別売のマウスを使用するための手順を説明しています。

別売のマウスの設定方法

本機では、別売のUSBマウスを使用することができます。

- ✓チェック!!** マウスドライバの変更を行うとき、一時的にマウスやNXパッドなどのポインティングデバイスが使用できなくなる場合があります。その場合は次のようにキーボードを使って本機を再起動してください。

キーボードでの再起動

【Ctrl】を押しながら【Esc】を押す

カーソル移動キーで「Windowsの終了」を選択し【Enter】を押す

カーソル移動キーで「再起動」または「再起動する」を選択し、【Enter】を押す

USBマウスを使用する

本機でUSBマウスを使用する場合は、次の手順で設定を行ってください。

- ✓チェック!!** ・モバイルノート（長時間駆動型）には、購入時、NXパッドドライバはインストールされていません。NXパッドドライバのインストールについては、PART1の「NXパッドドライバをインストールする（モバイルノート（長時間駆動型）のみ）」（→p.23）をご覧ください。
- ・マウスドライバの変更を行うときは、使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。

Windows Me / Windows 98の場合

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」画面が表示されます。
- 2** 「デバイス マネージャ」タブをクリックする
- 3** 「マウス」の左の $\oplus$ をクリックする

4 「NX PAD」を選択し「プロパティ」ボタンをクリックする
「NX PADプロパティ」または「NX PADのプロパティ」画面が表示されます。

5 「ドライバ」タブをクリックし「ドライバの更新」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」画面が表示されます。

6 次の操作を行う

- ・ Windows Meの場合
「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- ・ Windows 98の場合
「次へ」ボタンをクリックする

7 次のものを選択し、「次へ」ボタンをクリックする

- ・ Windows Meの場合
「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」
- ・ Windows 98の場合
「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」

8 「モデル」から「標準PS/2ポートマウス」を選択し「次へ」ボタンをクリックする

-  **チェック!!** ・ 「モデル」に「標準PS/2ポートマウス」が表示されていない場合は、「すべてのハードウェアを表示」をクリックして「製造元」から「標準マウス」を選択し、「モデル」から「標準PS/2ポートマウス」を選択してください。
- ・ 「ドライバ更新の警告」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

9 「次へ」ボタンをクリックする
必要なファイルがコピーされます。

10 「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする

 **チェック!!** ポインタが動かなくなった場合は、【Enter】を押してください。

- 11** 再起動を促すメッセージが表示された場合は「いいえ」ボタンをクリックする
- 12** 「標準PS/2ポートマウスのプロパティ」画面の「閉じる」ボタンをクリックする
- 13** 「システムのプロパティ」画面の「閉じる」ボタンをクリックする
- 14** 本機を再起動する
「システムの設定変更」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックします。
本機が再起動します。

再起動後、USBマウスを接続してください。

 **チェック!!** Windows Meの場合、「マウスのプロパティ」で「ポインタの速度」の設定を変更すると、USBマウスを動かしても、マウスポインタが正常に動作しない場合があります。
この場合は、次の手順でポインタの速度を標準設定に戻してください。

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする
「マウスのプロパティ」が表示されます。
- 2** 「ポインタ オプション」タブをクリックする
- 3** 「ポインタの速度」を左から5番目の設定にする

 **参照** マウスドライバのインストール方法 → 各機器のマニュアル

Windows 2000の場合

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」画面が表示されます。

- 2 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする
- 3 「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の左の $\oplus$ をクリックする
- 4 「NX PAD」をダブルクリックする
「NX PADのプロパティ」画面が表示されます。
- 5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」画面が表示されます。
- 6 「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 8 「モデル」から「標準PS/2ポートマウス」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

 **チェック!!** ・「モデル」に「標準PS/2ポートマウス」が表示されていない場合は、「このデバイスクラスのハードウェアをすべて表示」をクリックして「製造元」から「標準マウス」を選択し、「モデル」から「標準PS/2ポートマウス」を選択してください。

・「ドライバの更新警告」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

- 9 「次へ」ボタンをクリックする
必要なファイルがコピーされます。「デバイスのインストールの確認」画面が表示された場合は「はい」ボタンをクリックしてください。
- 10 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする
- 11 「閉じる」ボタンをクリックする
「システム設定の変更」画面が表示されます。

12 「はい」ボタンをクリックする 本機が再起動します。

再起動後、USBマウスを接続してください。

参照 マウสดライバのインストール方法→各機器のマニュアル

NXパッドを使用する設定に戻す

チェック!! モバイルノート(長時間駆動型)には、購入時、NXパッドドライバはインストールされていません。NXパッドドライバのインストールについては、PART1の「NXパッドドライバをインストールする(モバイルノート(長時間駆動型)のみ)」(→p.23)をご覧ください。

Windows Me/Windows 98の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

2 「デバイス マネージャ」タブをクリックする

3 「マウス」の左の $\oplus$ をクリックする

4 現在使用しているマウスを選択し、「プロパティ」ボタンをクリックする

現在使用しているマウスのプロパティ画面が表示されます。

5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする

「デバイスドライバの更新ウィザード」画面が表示されます。

6 次の操作をする

- ・ Windows Meの場合
「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」を選択し、
「次へ」ボタンをクリックする
- ・ Windows 98の場合
「次へ」ボタンをクリックする

7 次のものを選択し、「次へ」ボタンをクリックする

- ・ Windows Meの場合
「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」
- ・ Windows 98の場合
「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」

8 「ディスク使用」ボタンをクリックする

9 「C:¥NXPAD」と入力し、「OK」ボタンをクリックする

10 「次へ」ボタンをクリックする

11 「次へ」ボタンをクリックする 必要なファイルがコピーされます。

12 「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました」と表示されたら、「完了」ボタンを押す

13 再起動を促すメッセージが表示された場合は「いいえ」ボタンをクリックする

14 「NX PAD プロパティ」または「NX PADのプロパティ」画面の「閉じる」ボタンをクリックする

15 「システムのプロパティ」画面の「閉じる」ボタンをクリックする

16 本機を再起動する

再起動後、NXパッドが有効になります。再起動してもポインタが動かない場合は、キーボードを使用して本機をもう一度再起動してください。

Windows 2000の場合

1 「Administrator」でログオンする

- 2 使用中のアプリケーションをすべて終了する
- 3 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする
「マウスのプロパティ」が表示されます。
- 4 「ハードウェア」タブをクリックし、一覧に表示されているマウストライバを選択してから「プロパティ」ボタンをクリックする
- 5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
- 6 「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 8 「ディスク使用」ボタンをクリックする
- 9 「参照」ボタンをクリックする
- 10 「ファイルの場所」に「C:\WIN2K\NXPAD」を指定する
- 11 「Apfiltr.inf」を選択してから「開く」ボタンをクリックする
- 12 「OK」ボタンをクリックする
- 13 「NX PAD」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックする
- 14 「次へ」ボタンをクリックする
必要なファイルがコピーされます。
「デジタル署名が見つかりませんでした」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。
- 15 「完了」ボタンをクリックする
- 16 「閉じる」ボタンをクリックする
「システム設定の変更」画面が表示されます。

17 「はい」ボタンをクリックして、本機を再起動する

他社製のマウスドライバを使用するときの注意

他社製のマウスには、独自のマウスドライバが添付されている場合があります。他社製のマウスドライバのインストールまたはアンインストールは次の手順で行ってください。

 **チェック!!** マウスドライバを変更するときは、使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。

他社製のマウスドライバをインストールする

1 「USBマウスを使用する（→ p. 137）の手順1～11を行い、マウスドライバを「標準PS/2ポートマウス」に設定する

2 他社製のマウスドライバをインストールする

 **参照** マウスドライバのインストール→マウスのマニュアル

他社製のマウスドライバをアンインストールする

1 他社製のマウスドライバをアンインストールする

 **参照** マウスドライバのアンインストール→マウスのマニュアル

2 「USBマウスを使用する（→ p. 137）の手順1～14を行い、マウスドライバを「標準PS/2ポートマウス」に設定する

3 「NXパッドを使用する設定に戻す（→ p. 141）の手順に従い、NXパッドを使用する設定に戻す

外部ディスプレイ

本機にCRTディスプレイやプロジェクタを接続することができます。CRTディスプレイの大画面で作業したり、プロジェクタを使ったプレゼンテーションなどが可能になります。

CRTディスプレイの接続

CRTディスプレイ接続時の解像度と表示色

別売のCRTディスプレイでは、次の解像度と表示色を表示できます。

表示解像度 (ドット)	水平走査 周波数 (KHz)	垂直走査 周波数 (Hz) ¹	表示色			
			16色	256色	65,536色	1,677万色
640 × 480	31.5	60	○	○	○	○
	37.5	75	×	○	○	○
	43.3	85	×	○	○	○
800 × 600	37.9	60	×	○	○	○
	46.9	75	×	○	○	○
	53.7	85	×	○	○	○
1,024 × 768	48.4	60	×	○	○	○
	60.0	75	×	○	○	○
1,280 × 1,024	64.0	60	×	○	○	○
	80.0	75	×	○	○	○
1,600 × 1,200 ²	75.0	60	×	○	○	×
	93.8	75	×	○	×	×

○ : 表示可能

× : 表示不可能

1: 本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを同時に表示する場合、外部ディスプレイへの出力は、表示解像度によらず水平走査周波数48.4kHz、垂直走査周波数60Hz(解像度1024 × 768、60Hz相当)になります。

2: LaVie MXのみ

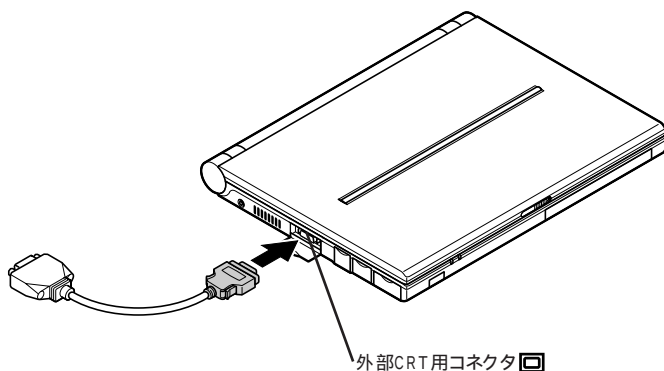


チェック!! お使いになるCRTディスプレイによっては、上の表に記載されている走査周波数や解像度に対応していない場合があります。CRTディスプレイをご使用の際は、CRTディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。

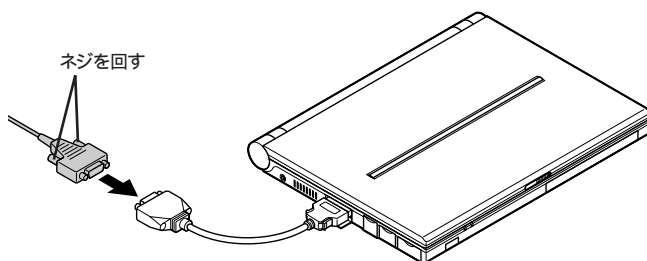
CRTディスプレイを接続する

本機と別売のCRTディスプレイを接続するには、別売のディスプレイ変換ケーブル(PC-VP-SK01)が必要です。

- 1** 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2** 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3** 本機の外部CRT用コネクタのカバー()を開き、ディスプレイ変換ケーブルを外部CRT用コネクタ()に接続する



- 4** ディスプレイ側のケーブルを本機に接続したディスプレイ変換ケーブルに接続する



- 5** 本機にACアダプタを接続する

プロジェクタの接続

液晶プロジェクタと解像度について

別売の液晶プロジェクタを使用する場合は、接続する前にプロジェクタのマニュアルを参考にして表示解像度などを確認してください。

参照 プロジェクタとの接続→プロジェクタのマニュアル

外部ディスプレイの設定

表示ディスプレイの切り替え

別売のCRTディスプレイなどを接続した場合、キーボードの【Fn】を使って、次のように表示するディスプレイを切り替えることができます。

機 能	キー操作	説 明
ディスプレイ切り替え 	【Fn】+【F3】	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイとCRTの同時表示（初期状態）」→「液晶ディスプレイのみ表示」→「CRTのみ表示」の順に切り替わります。



チェック!!

- ・外部ディスプレイ接続時は、液晶ディスプレイを閉めてもスリープ状態にできません。
 - ・LaVie MXで、Windows 2000を使用している場合、キーボードの【Fn】を押しながら【F3】を押して画面の出力先を切り替える操作では設定が保持されないため、本機を再起動すると切り替える前の出力先に戻ってしまいます。設定を保持したいときは、BIOSセットアップメニューの「メイン」メニューで「起動時表示デバイス」の設定を行ってください。
- また、解像度や色数を変更した場合、またはスタンバイ状態や休止状態から復帰した場合にも画面の出力先が変わってしまうことがあります。このような場合は、再度【Fn】を押しながら【F3】を押して画面の出力先を切り替えてください。

表示するディスプレイを変更する(LaVie MXの場合)

液晶ディスプレイ(LCD)、外部ディスプレイ(モニタ)に表示を行うことができます。次の手順で変更してください。

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
- 2** 「画面のプロパティ」の「設定」タブの「詳細」ボタンをクリックする
- 3** 「画面」タブをクリックする
- 4** モニタ、パネルのボタンを押して設定し、それぞれの隣にあるボタンで表示するデバイスを決定する
モニタ、パネルのボタンの隣のボタンが水色の場合に表示がされ、グレーの場合にそのデバイスに表示されなくなります。
- 5** 設定が終了したら「適用」ボタンをクリックし、表示が切り替わったことを確認したら、「OK」ボタンをクリックする

ディスプレイに合わせて本機を設定する

別売のCRTディスプレイを使用したとき、表示されたメッセージが適切でなかったり、プラグ&プレイに対応していないディスプレイの場合には、次の操作を行ってください。

Windows Me / Windows 98の場合

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 3** 「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。

4 次の操作を行う

- ・ Windows Meの場合
「ドライバの場所を指定する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- ・ Windows 98の場合
「次へ」ボタンをクリックする

5 次のものを選択し、「次へ」ボタンをクリックする

- ・ Windows Meの場合
「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」
- ・ Windows 98の場合
「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」

6 「すべてのハードウェアを表示」を選択する

7 「デバイスドライバの更新ウィザード」の一覧から「製造元」と「モデル」を選択する

一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造元」で「(標準モニタの種類)」を選択し、「モデル」で接続したディスプレイに対応した解像度を選択してください。

8 「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする

9 「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする

10 「OK」ボタンをクリックする これでディスプレイの設定が完了しました。

Windows 2000の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする 「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする

- 3** 「モニタ」タブをクリックし、「プラグアンドプレイモニタ」または「既定のモニタ」を選択する
- 4** 「プロパティ」ボタンをクリックする
- 5** 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
「デバイス ドライバのアップグレード ウィザード」が表示されます。
- 6** 「次へ」ボタンをクリックする
- 7** 「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 8** 「このデバイス クラスのハードウェアをすべて表示」を選択する
- 9** 「製造元」と「モデル」を選択する
一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造元」で（標準モニタの種類）を選択し、「モデル」で接続したディスプレイに対応した解像度を選択してください。
- 10** 「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする
- 11** 「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする
- 12** 「OK」ボタンをクリックする
これでディスプレイの設定が完了しました。

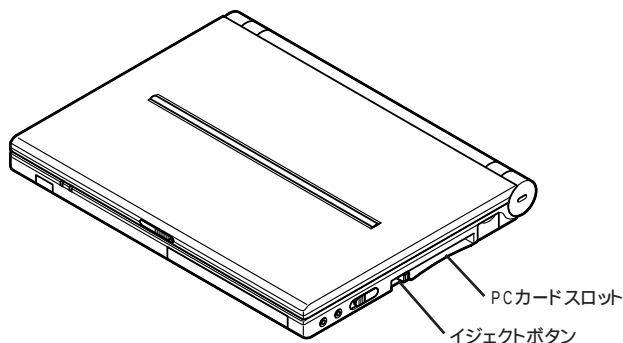
PCカード

本機ではPC Card Standard準拠のPCカードを使用できます。PCカードを使うことで、本機の機能を拡張したり、さまざまな周辺機器を接続することができます。

使用上の注意

PCカードスロットについて

- ・TYPE IかTYPE IIのPCカードを1枚使用できます。
- ・Windows 98のMS-DOSモードでは使用できません。
- ・本機のPCカードスロットでは、PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。



PCカードの取り扱いについて

PCカードは精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- ・高温多湿あるいは低温の場所に放置しないでください。
- ・濡らさないでください。
- ・重いものを乗せたり、ねじ曲げたりしないでください。
- ・ぶつけたり、落としたりして衝撃を与えないでください。
- ・PCカードの端子部分に金属などを差し込まないでください。

PCカード使用時の注意

- ・ Windows Me / Windows 98 では、ATAカードをセットしていると、カードをセットしていないときよりもスタンバイ状態または休止状態になるまでに時間がかかります。
- ・ Windows Me / Windows 98 では、CardBus対応PCカードのドライバをインストールしているときに、「例外エラー」が発生する場合があります。この場合、本機を再起動すると、正常にインストールを完了することがあります。
- ・ ZVポートを利用する場合は、使用するPCカードが本機に対応しているかをあらかじめ販売元に確認してください。

PCカードのセットのしかたと取り出し方

⚠注意



高温注意

- ・ 本機の使用途中や使用直後はPCカードが熱くなっていますので、出し入れにご注意ください。



チェック!!

- ・ PCカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。まちがった向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。
- ・ 本機がスリープ状態のときは、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。本機の機器構成が変更されると、データが消失してしまうことがあります。
- ・ アプリケーション使用中は、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。

PCカードのセットのしかた

- 1** PCカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、水平に静かに差し込む
- 2** セットするとPCカードスロットのイジェクトボタンが少し飛び出すので、イジェクトボタンを引き出してから手前に倒す



チェック!!

- ・ イジェクトボタンを完全に引き出さずに無理に倒そうとすると、破損の原因になります。

PCカードの取り出し方

■ Windows Me / Windows 2000の場合

- 1** インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックする
「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。
- 2** 取り外すPCカードを選択し、「停止」ボタンをクリックする
- 3** 「OK」ボタンをクリックする
安全に取り外せるという内容のメッセージが表示されます。
- 4** 「OK」ボタンをクリックする
- 5** 「閉じる」ボタンをクリックして、「ハードウェアの取り外し」画面を閉じる
- 6** イジェクトボタンをPCカードスロット側に引き起こす
- 7** 起こしたイジェクトボタンを押す
- 8** PCカードが少し出てくるので、水平に静かに引き抜く

上記の手順以外の方法でPCカードを抜きとった場合は、「デバイスの取り外しの警告」または「予期しないPCカードの取り外し」ウィンドウが表示される場合があります。

■ Windows 98の場合

- 1** インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックする
「PCカード(PCMCIA)のプロパティ」が表示されます。
- 2** 取り外すPCカードをクリックする
- 3** 「停止」ボタンをクリックする
しばらくすると、「このデバイスは安全に取りはずせます」と表示されます。
- 4** 「OK」ボタンをクリックする

- 5 イジェクトボタンをPCカードスロット側に引き起こす
- 6 起こしたイジェクトボタンを押す
- 7 PCカードが少し出てくるので、水平に静かに引き抜く

上記の手順以外の方法でPCカードを抜きとった場合は、「予期しないPCカードの取りはずし」ウィンドウが表示される場合があります。

PCカードの設定

PCカードを使用するときには、次のような設定が必要な場合があります。

割り込みレベルの設定

PCカードによっては、割り込みレベルの設定が本機の他の設定と重なる場合があります。PCカードのマニュアルと、このマニュアルのPART4の「割り込みレベルとDMAチャンネル（→ p. 207）をご覧ください。割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みが重なる場合は、重ならないように設定を変更してください。

メモリ

オプションの増設RAMボードを付加することで、より多くのアプリケーションを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができます。

メモリ容量について

本機に使用できる増設RAMボードは次のとおりです。

型名	メモリ容量
PK-UG-M024	64M バイト
PK-UG-M025	128M バイト

LaVie MXは増設RAMボードを標準で搭載しています。

本機にはメモリスロットが1つあり、最大192Mバイトまでメモリを増設することができます。

メモリの取り付け方と取り外し方

△注意



感電注意

- 増設RAMボードの取り付け / 取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、電源コードとバッテリーパックを取り外してください。電源コードやバッテリーパックが取り付けられたまま増設RAMボードの取り付け / 取り外しをすると、感電の原因となります。

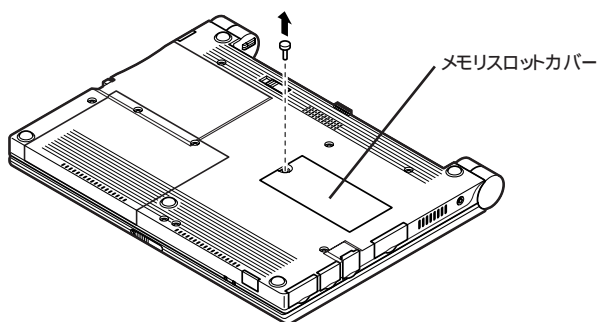


✓チェック!!

- ・ 増設RAMボードは静電気に大変弱く、身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- ・ 増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ・ ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。
- ・ 増設RAMボードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、本機のコネクタ部や増設RAMボードが故障する原因となります。取り付け方向に注意してください。

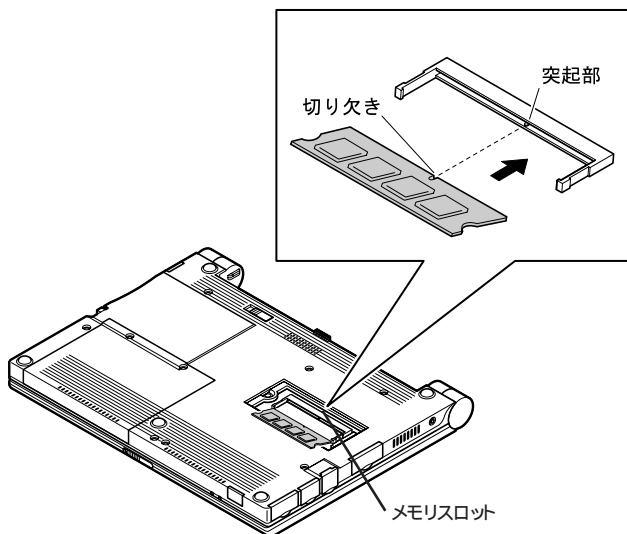
増設RAMボードの取り付け方

- 1** 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2** 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3** 液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す
- 4** バッテリーパックを本機から取り外す(→ p.63)
- 5** 図のネジをプラスドライバで取り外し、メモリスロットカバーを取り外す



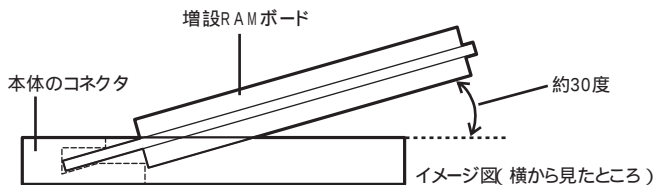
- 6** 増設RAMボードの切り欠き部分を本機のコネクタの突起部に合わせ、本機コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで挿入する

チェック!! 増設RAMボードの表と裏が逆の場合は、増設RAMボードの切り欠きとコネクタの突起部が合わず、挿入することができませんので、よく確認してください。



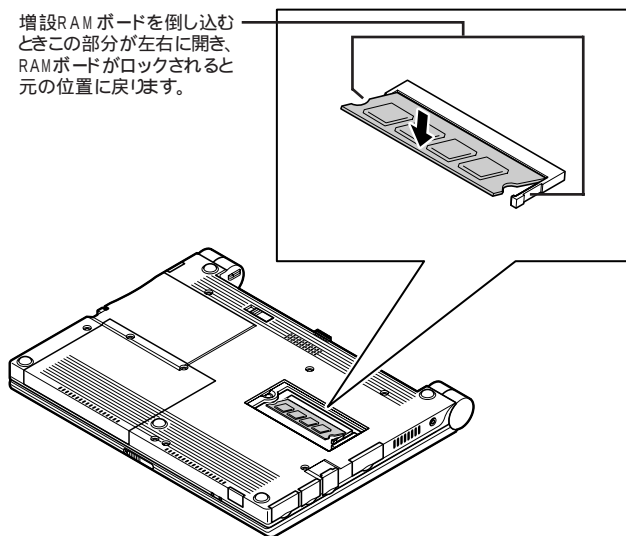
(実物はイラストと多少異なる場合があります)

チェック!! 挿入するときに、固いことがあります。奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。

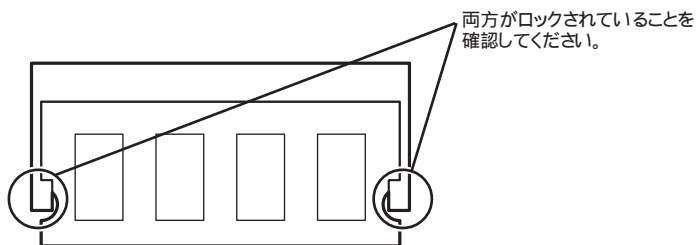


7 カチッと音がする位置まで増設RAMボードを本機のコネクタに強く倒し込む

増設RAMボードを倒し込むときこの部分が左右に開き、RAMボードがロックされると元の位置に戻ります。



チェック!! 増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認してください。



8 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本機底面に取り付ける

9 バッテリーパックとACアダプタを本機に取り付け、電源コードのプラグをACコンセントに接続する

Windows 98の場合、休止状態の機能(→p.64)を使用する方は、続けて次の手順10～11の操作を行ってください。設定を行わないと、休止状態の機能が使用できなくなります。

Windows Me、Windows 2000の場合、手順10～11の操作は必要ありません。

10 本機の電源を入れる

 **チェック!!** 起動直後にメッセージが表示されますが、ご使用上支障ありません。

11 休止状態の設定を解除したあと、休止状態を再設定する

「休止状態の設定の解除と再設定(→p.75)の手順にしたがって設定を行ってください。

メモリ増設後は、次の「増設したメモリ(RAM)の確認」に従って、増設が正しく行われたかどうか確認してください。

増設したメモリ(RAM)の確認

増設が正常に行われ、メモリが本機に認識されているかどうかを確認します。

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

2 「全般」タブで右下に表示されている内容を確認する

「***KB RAM」または「***MB RAM」と表示されています。***KBまたは***MBが総メモリ容量です。

 **チェック!!** システムの状態によっては、増設したメモリ分より容量が少なく表示される場合がありますが、故障ではありません。

メモリ容量が増えていない場合は、次のことを確認してください。

- ・増設RAMボードが正しく取り付けられているか
- ・本機で使用できる増設RAMボードを取り付けているか

ハードディスクの空き容量を確認する

Windows Me、Windows 2000で休止状態の機能 → p.64)を使用する場合は、次の手順1～4の操作を行って設定を確認してください。増設したメモリ容量分、ハードディスクの空き容量が必要になります。

1 本機の電源を入れる

 **チェック!!** 本機の起動直後にメッセージが表示されますが、動作上問題ありません。

2 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンまたは「電源オプション」アイコンをダブルクリックする
「電源の管理のプロパティ」画面または「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。

3 「休止状態」タブをクリックする

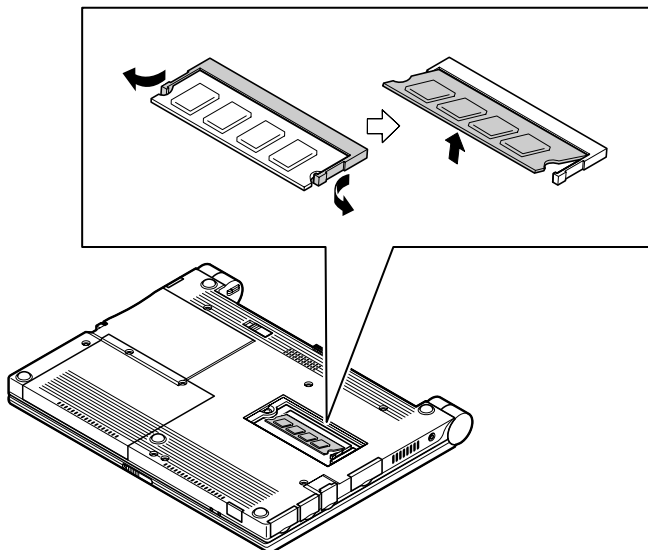
4 「休止のためのディスク領域」欄で、「ディスクの空き領域」の値が「休止状態にするために必要なディスク領域」の値よりも大きいことを確認する

 **チェック!!** 「ディスクの空き領域」の値が「休止状態にするために必要なディスク領域」の値より小さいと休止状態にできなくなります。このような場合は、不要なファイルを削除するなどしてディスクの空き領域を増やしてください。

増設RAMボードの取り外し方

1 「増設RAMボードの取り付け方」の手順1～5に従って、メモリスロットのカバーを取り外す

- 2** コネクタの両端部分を左右に押し広げる
増設RAMボードが図のようにおきあがります。



- 3** そのまま増設RAMボードを斜めに引き抜く
- 4** メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本機底面に取り付ける
- 5** バッテリーパックとACアダプタを本機に取り付け、電源コードのプラグをACコンセントに接続する

Windows 98の場合、休止状態の機能(→p.64)を使用する方は、続けて次の手順6～7の操作を行ってください。設定を行わないと、休止状態の機能が使用できなくなります。

Windows Me、Windows 2000の場合、手順6～7の操作は必要ありません。

- 6** 本機の電源を入れる

チェック!! 起動直後にメッセージが表示されますが、ご使用上支障ありません。

- 7** 休止状態の設定を解除したあと、休止状態を再設定する
「休止状態の設定の解除と再設定(→p.75)」の手順にしたがって設定を行ってください。

USBコネクタ

USB対応の機器は、一般の周辺機器と異なり、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外すことができます。

USBとは

本機にはUSB対応機器を取り付けるためのコネクタが2つあります。USBとはUniversal Serial Busの頭文字をとったもので、コネクタの形状が統一されており、127台までの機器を接続することができます。また、電源を切らずにプラグの抜き差しが可能で、プラグ&プレイ機能にも対応しています。現在利用できる主なUSB対応機器として、次のようなものがあります。

- ・マウス
- ・プリンタ
- ・イメージスキャナ
- ・デジタルカメラ
- ・ISDNターミナルアダプタ
- ・USBポートバー
- ・USB CD-ROMドライブ
- ・キーボード
- ・テンキーボード
- ・携帯電話 / PHS接続ケーブルなど

USB対応機器の、本機での動作確認情報については、各機器に添付のマニュアルをご覧ください。各機器の発売元にお問い合わせください。なお、NEC製のUSB機器の情報は、NECのホームページ「121ware.com (ワンツワンウェア ドット コム)」をご覧ください。
<http://121ware.com/>

USBコネクタに接続する

⚠ 警告



感電注意

- 雷が鳴りだしたら、パソコンや電源ケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル(電話線)、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。落雷による感電のおそれがあります。

接続する前に

機器によっては、接続する前や接続したあとにドライバのインストールや、各種設定スイッチなどの設定が必要な場合がありますので、接続するUSB対応機器のマニュアルを読んでおき、ドライバなどインストールに必要なCD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば用意してください。

別売のUSBマウスなどには、接続してすぐ使うことができるものがあります。ただし、いくつかの機能が制限される可能性がありますので、必ず添付のマニュアルをよく読んでください。

USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態でも接続できるので、接続前に電源を切る必要はありません。

BIOSセットアップメニューの設定を確認する

モバイルノート(長時間駆動型)で「click!-USB」ドライブキット(PK-CL101)などUSBで接続する外付用記憶装置を使う場合は、BIOSセットアップメニューで、次のように設定してください。

「周辺機器セットアップ(Peripheral Setup)」で、「USBコントローラ(USB Controller)」が「使用する(Enabled)」に設定されていることを確認してください。出荷時は「使用する(Enabled)」に設定されています。

接続するときの注意

- ・「デバイスマネージャ」の画面にある「USB(Universal Serial Bus)コントローラ」の記述は削除しないでください。
- ・USB対応機器の抜き差しを行うときは、3秒以上の間隔をおいて行ってください。
- ・USBコネクタにプラグをすばやく差ししたり斜めに差ししたりすると、信号が読みとれずに不明なデバイスとして認識されることがありますので、その場合はプラグをUSBコネクタから抜いて、もう一度正しく接続しなおしてください。
- ・はじめてUSB対応機器を接続したときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、再度差し込んでみてください。

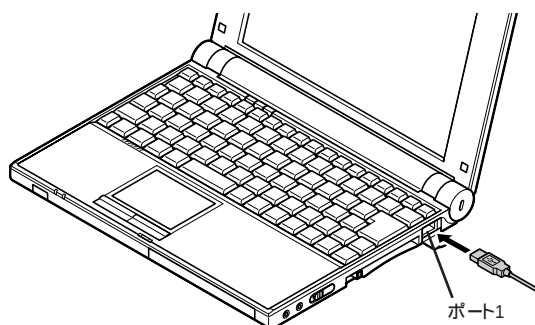
なお、USB対応機器は、一度設定をすれば、次回からはプラグを差し込むだけですぐに機器が使用可能になります。このとき画面には何も表示されませんが、故障ではありません。

- ・スタンバイ状態中、スタンバイ状態へ移行中、スタンバイ状態から復帰中、休止状態中、休止状態へ移行中、休止状態から復帰中のときは、USB対応機器を抜き差ししないでください。
- ・USB対応機器を接続した状態では、スタンバイ状態に移行できない場合があります。スタンバイ状態に移行する前にUSB対応機器を取り外してください。
- ・USBマウス使用時にNXパッドを無効にしたい場合は、BIOSセットアップメニューで設定してください。LaVie MXの場合は、「詳細」メニューの「NXパッド」の設定を「使用しない」に設定してください（→p.174）。モバイルノート（長時間駆動型）の場合は、「NXパッド（Internal Mouse）」の設定を「使用しない（Disabled）」にしてください（→p.180）。
- ・USBハブ経由でUSB対応機器を使用するときは、USBハブを本機に接続してからUSB対応機器を接続してください。USBハブにUSB対応機器を接続した状態でUSBハブを本機に接続すると、USB対応機器が正常に認識されないことがあります。

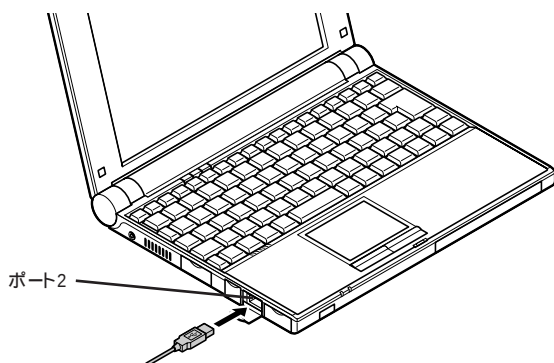
USBコネクタに機器を取り付ける

1 USBコネクタのカバー()を開き、USBコネクタにプラグを差し込む

本体右側面のUSBコネクタ(ポート1)に差し込む場合



本体左側面のUSBコネクタ(ポート2)に差し込む場合



接続したUSB対応機器が正しくパソコンに認識されたかどうかを確認してください。確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、接続後さらに別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

USBコネクタから機器を取り外す

チェック!! USB対応機器は、必ず次の手順で取り外しを行ってください。正しい手順で取り外しを行わないと本機が正常に動作しなくなることがあります。

Windows Me / Windows 2000の場合

- 1** インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックする
「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。
が表示されていない場合は手順6へ進んでください。
- 2** 取り外したい機器名をクリックして「停止」ボタンをクリックする
機器名が表示されていない場合は、手順5へ進んでください。
- 3** 「ハードウェア デバイスの停止」画面で取り外したい機器名をクリックして「OK」ボタンをクリックする
安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。

4 「OK」ボタンをクリックする

5 「閉じる」ボタンをクリックして「ハードウェアの取り外し」画面を閉じる

6 取り外す機器のプラグを、本体のUSBコネクタから取り外す

Windows 98の場合

1 取り外す機器のプラグを、本体のUSBコネクタから取り外す

その他の機器

本機で可以使用できるその他の機器

本機では、次のような別売の機器を使用することができます。

種類	機器
オーディオ機器	ヘッドホン、マイクロホン、オーディオ装置など
入力装置	マウス、外付けキーボード、テンキーボード、デジタルカメラ、イメージスキャナなど
通信機器	携帯電話、PHS、外付けモデム、ターミナルアダプタなど

本機のどのコネクタに機器を接続するかは、機器が使用しているインターフェイスによって異なります。また、機器によってインターフェイスが決まっている訳ではありません。詳しくは、各機器のマニュアルをご覧ください。



チェック!!

本機がスリープ状態のときは、周辺機器を接続したり、接続していた機器を取り外したりしないでください。本機の機器構成が変更されると、データが消えてしまうことがあります。

別売のキーボードやテンキーボードを使うには

本機には、別売のUSBタイプのキーボードやテンキーボードを接続することができます。

別売のUSBタイプのキーボードを使用する場合は、キーボードのプラグを本機のUSBコネクタに接続します。(→ p.162)

別売のPS/2タイプのテンキーボードを接続して使用するには、別売のUSBポートバー(PK-UP012S / PK-UP012NS)が必要になります。

パラレルコネクタ

- **チェック!!** ・ 本機でパラレル対応機器を接続するためには、USBポートバー(PK-UP012S / PK-UP012NS)が必要でです。
- ・ USBポートバーは双方向対応ではありません。USBポートバーに周辺機器を接続するときは、片方向対応のものを使用してください。

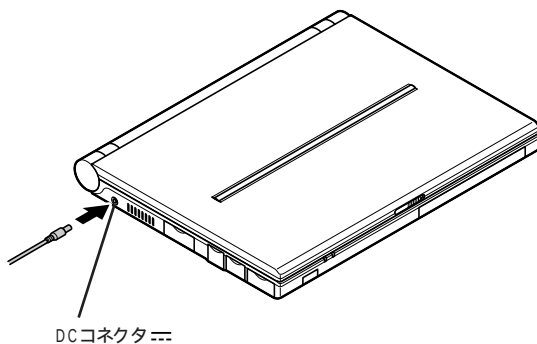
DCコネクタ

添付のACアダプタを取り付けるコネクタです。ACアダプタ以外に、カーアダプタ(PC-VP-WP05)を接続することができます。

カーアダプタを使うと、車のシガーライターからバッテリーを充電することができます。

カーアダプタを使用する場合は、カーアダプタ本体(PC-VP-WP05)とカーアダプタケーブル(PC-VP-WP05-06)の両方を用意する必要があります。

- **チェック!!** ・ カーアダプタを接続する場合は、必ず本機の電源を切ってから接続してください。
- ・ 車が走行しているときには本機の電源を入れないでください。振動 / 衝撃などによって本機が故障するおそれがあります。



システムの設定

セキュリティや省電力など、本機の使用環境の設定について説明します。設定方法をまちがえると正しく動作しなくなってしまうので、十分注意してください。また、必要がある場合以外は設定値を変更しないでください。

BIOSセットアップメニュー (LaVie MXの場合)

BIOSセットアップメニューは、本機の使用環境を設定するためのものです。

BIOSセットアップメニューを使ってできること

次のような設定ができます。

- ・現在の日付と時間の設定
- ・BIOSセットアップメニューで使用する言語の選択
- ・ハードウェア環境の確認と変更
- ・セキュリティの設定
- ・起動デバイスの起動順位の設定

BIOSセットアップメニューを使う

BIOSセットアップメニューの起動とメイン画面

- 1** 「NEC」のロゴが表示された後、「F2 キーを押すと、BIOSセットアップメニューを起動します」と表示されたら、すぐにキーボードの【F2】を押す

次のようなメイン画面が表示されます。

画面上では「PhoenixBIOSセットアップユーティリティ」と表示されます。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ				
メイン	詳細	セキュリティ	起動	終了
BIOSバージョン:		XXXXXXXX	項目ヘルプ <Tab>キー、<Shift+Tab>キー、<Enter>キーは、項目を選択します。	
システム時刻:		[hh:mm:ss]		
システム日付:		[mm/dd/yyyy]		
言語:		[日本語(JP)]		
フロッピーディスクA:		[1.44:MB 3.5"]		
▶ 内蔵HDD:		[XXXXXX-XXXXXX-XXXX]		
QuickBootモード		[有効]		
起動時表示デバイス:		[両方]		
システムメモリ:		XXXKB		
拡張メモリ:		XXXKB		
CPUタイプ:		XXXXXXXXXX		
CPU速度		XXX MHz		
F1 ヘルプ	↑ ↓ 項目の選択	← / → 値の変更	F9 デフォルトの設定	
Esc 終了	← → メニューの選択	Enter ▶ サブメニューの選択	F10 保存して終了	

BIOSセットアップメニューの基本操作

- ・操作はキーボードで行います。
- ・【←】【→】でメニューを選び、【↑】【↓】で設定項目を選びます。
- ・設定内容の値は【Fn】と【F1-F12】のキーを同時に押すか、または【Fn】と【P1-P9】のキーを同時に押して変更します。

BIOSセットアップメニューを終了する

変更を保存して終了する

1 【F10】を押す

セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。
終了を中止したいときは【Esc】を押してください。

2 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

- ・メニューバーの「終了」で「変更を保存して終了する」を選んでBIOSセットアップメニューを終了することもできます。
- ・変更を保存せずに終了したいときなどは、次の「メニューバーから終了する」で終了してください。

メニューバーから終了する

【←】【→】でメニューバーの「終了」を選ぶと、以下のメニューが表示されます。

変更を保存して終了する

変更内容を保存してBIOSセットアップメニューを終了します。

変更を保存せずに終了する

設定値を保存せずにBIOSセットアップメニューを終了します。設定の変更を行った場合も、すべて無効にして終了します。

デフォルト値をロードする

すべての設定項目にデフォルト値を書き込みます。これによりBIOSセットアップメニューの設定値は工場出荷時の状態に戻ります。

変更を取り消す

すべての設定項目に対して変更前の値を読み込みます。BIOSセットアップメニューは終了しません。

変更を保存する

変更値を保存します。BIOSセットアップメニューは終了しません。

バッテリーリフレッシュ

バッテリーリフレッシュはバッテリーの機能を回復させるための機能です。バッテリーリフレッシュの詳しい手順については、PART1「バッテリー」の「バッテリーリフレッシュ」(→p.58)をご覧ください。

工場出荷時の値に戻す

- 1** キーボードの【F9】を押す
セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。
- 2** 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す
デフォルト値を読み込みます。
- 3** キーボードの【F10】を押す
セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。
- 4** 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す
設定の変更を保存して終了します。

メニューバーの「終了」で「デフォルト値をロードする」を選んで工場出荷時の値に戻すこともできます。

設定項目一覧

ここでは、BIOSセットアップメニューでどのような設定ができるかを説明しています。

表中の は、購入時の設定です。

「メイン」メニューの設定

設定項目	設定値	説明
BIOSバージョン	-	BIOSのバージョンを表示します。
システム時刻 (時:分:秒)	-	現在の時刻を「時:分:秒」(24時間形式)で設定します。
システム日付 (年/月/日)	-	日付を「月/日/年」(西暦)で設定します。
言語	日本語(JP) English(US)	BIOSセットアップメニューで使用する言語を設定します。標準では「日本語(JP)」に設定されています。
フロッピーディスクA	1.44MB 3.5" 使用しない	フロッピーディスクドライブのモードを選びます。「1.44MB 3.5"」の場合、フロッピーディスクドライブが使用できます。「使用しない」の場合、フロッピーディスクドライブは使用できません。
内蔵HDD	-	現在接続されているIDEデバイスが表示されます。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すと設定画面が表示されます。【Esc】を押すとメイン画面に戻ります。
タイプ	自動 なし ユーザ	BIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。設定は変更しないでください。
32ビットI/O	使用する 使用しない	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを設定します。
QuickBootモード	有効 無効	起動中に特定のテストを省略します。この設定により、システムの起動時間が短縮されます。
起動時表示 デバイス	両方 LCD CRT	起動時に表示するディスプレイを設定します。
システムメモリ	-	搭載されているシステムメモリ容量を表示します。
拡張メモリ	-	搭載されている拡張メモリを表示します。
CPUタイプ	-	CPUタイプを表示します。
CPU速度	-	CPU速度を表示します。

「詳細」メニューの設定

設定項目	設定値	説明
起動時Num-Lock	オフ オン	起動時にNum Lockをオンにするかを設定します。
NX パッド	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、NXパッドが使用できます。「使用しない」の場合、NXパッドが使用できません。
LCDパネルの 拡張表示	オフ オン	LCDパネルの拡大表示を行うかどうかを設定します。「オン」に設定すると、LCDパネルの最大表示サイズ以下の表示画面では拡大されて表示されます。
セットアップ移行 画面表示	表示 非表示	「表示」に設定すると、セットアップの移行画面に関するメッセージが表示されます。
サイレントブート	ロゴ画面 非表示 自己診断画面	ブート時の画面を設定します。
周辺機器 デバイス設定	-	各周辺機器の設定を行います。この項目にカーソルを合わせて【Enter】を押すと設定を行うことができます。
赤外線ポート	使用しない 使用する 自動 PnP OS	オプションを使用して、赤外線ポートを設定します。
オンボードデバイス	-	各周辺機器の設定を行います。この項目にカーソルを合わせて【Enter】を押すと設定を行うことができます。
USB デバイス	使用する 使用しない	USBデバイスを設定します。

：BIOSセットアップメニューを起動する場合は、電源を入れた後、1秒おきに【F2】を押すことを何度かくりかえしてください。

「セキュリティ」メニューの設定

スーパバイザパスワード設定

スーパバイザパスワードの設定または変更を行います。

【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。

参照 パスワードの設定 → PART1の「セキュリティ機能」(p.80)

ユーザパスワード設定

ユーザパスワードの設定または変更を行います。

スーパバイザパスワードを設定していないとユーザパスワードは設定できません。

【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。

参照 パスワードの設定 → PART1の「セキュリティ機能」(p.80)

設定項目	設定値	説明
起動時のパスワード	使用しない 使用する	システム起動時にパスワード入力を行うかどうかを設定します。
ハードディスク 起動セクタ	通常動作 書き込み禁止	ウイルス感染防止のため、ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかを設定します。

：スーパバイザパスワードを設定していないと「起動時のパスワード」は設定できません。

起動順位の設定

「起動」メニューでは、起動するデバイスを優先順にしたがってリスト表示します。

本機を起動するときには、上から順にOSを検索します。もしOSが存在しないなど起動に失敗した場合は次のデバイスから起動します。

起動デバイスの表示と順位の変更

デバイス名の左に + の表示があるデバイスにカーソルを合わせて【Enter】を押すと展開表示されます。

起動するデバイスを変更するには【↑】【↓】を使用して変更したいデバイスにカーソルを合わせます。【Fn】と $\left[\begin{smallmatrix} + \\ \uparrow \downarrow \end{smallmatrix} \right]$ のキーを同時に押すとリストの上側に移動し、【Fn】と $\left[\begin{smallmatrix} - \\ \uparrow \downarrow \end{smallmatrix} \right]$ を押すとリストの下側に移動します。

なお、ニューメリックロックキーランプ($\left[\begin{smallmatrix} 1 \\ \uparrow \downarrow \end{smallmatrix} \right]$)が点灯しているときには前面に【+】【-】の刻印のあるキーでもリストの上下にカーソルを移動させることができます。

BIOSセットアップメニュー (モバイルノート(長時間駆動型)の場合)

BIOSセットアップメニューは、本機の使用環境を設定するためのものです。

BIOSセットアップメニューを使ってできること

BIOSセットアップメニューを使うと、次のような設定ができます。

- ・現在の日付と時間の設定
- ・ハードウェア環境の確認と変更
- ・起動デバイスの起動順位の設定
- ・セキュリティの設定
- ・省電力の設定

BIOSセットアップメニューを日本語表示にするには

1 電源を入れて、「NEC」のロゴが表示されたらすぐに【F2】を押し続ける

チェック!! BIOSセットアップメニューが表示されない場合は、いったん電源を切り【F2】を押しながら電源を入れ直してください。

次のような画面が表示されます。

AMIBIOS HIFLEX English SETUP - VERSION x.xx (C) 2000 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved
BIOS Revision xxxxxxxx Standard CMOS Setup Advanced CMOS Setup System Security Setup Power Management Setup Boot Device Setup Peripheral Setup Change Language Setting Refresh Battery Auto Configuration with Defaults Save Setting and Exit Exit Without Saving
Standard CMOS setup for changing time, date, hard disk type, etc. ESC : Exit ↑ ↓ : Sel F3/F4 : Color F10 : Save & Exit

2 【↑】または【↓】を押して「Change Language Setting」を選び、
【Enter】を押す

3 【↑】または【↓】を押して「Japanese」を選び、【Enter】を押す

4 【F10】を押す
確認の画面が表示されます。

5 「はい」になっていることを確認して【Enter】を押す
設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

以降、BIOSセットアップメニューが日本語で表示されるようになります。

BIOSセットアップメニューを使う

BIOSセットアップメニューの起動とメイン画面

1 電源を入れて、「NEC」のロゴが表示されたらすぐに【F2】を押し
続ける

 **チェック!!** BIOSセットアップメニューが表示されない場合は、いったん電源を切り、【F2】
を押しながら電源を入れ直してください。

次のようなメイン画面が表示されます。画面上では「AMIBIOS
HIFLEX 日本語 SETUP - VERSION x.xx」と表示されます。

AMIBIOS HIFLEX 日本語 SETUP - VERSION x.xx (C)2000 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved
BIOS Revision xxxxxxxx 標準セットアップ 拡張セットアップ セキュリティセットアップ 省電力セットアップ 起動デバイスセットアップ 周辺機器セットアップ 表示言語 (Language) セットアップ バッテリリフレッシュ デフォルト値をロード 変更を保存して終了 変更を保存せずに終了
システム日付、システム時刻、IDE デバイスのタイプなどを変更します ESC : 終了 ↑ ↓ : 選択 F3/F4 : カラー F10 : 保存と終了

BIOSセットアップメニューの基本操作

- ・操作はキーボードで行います。
- ・【↑】【↓】で設定項目を選びます。
- ・設定内容の値は【Fn】+【↑】または【Fn】+【↓】で変更します。
- ・各設定項目の画面からメイン画面に戻るときは【Esc】を押します。

BIOSセットアップメニューを終了する

変更を保存して終了する

- 1 メイン画面で【F10】を押す
確認の画面が表示されます。
- 2 「はい」になっていることを確認して【Enter】を押す
設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

メイン画面で「変更を保存して終了」を選んで、BIOSセットアップメニューを終了することもできます。

変更を保存せずに(起動前の設定のまま)終了する

- 1 メイン画面で【Esc】を押す
- 2 【←】【→】で「はい」を選び、【Enter】を押す
起動する前の設定のまま(設定の変更を行った場合は、すべて無効にして)BIOSセットアップメニューが終了します。

メイン画面で「変更を保存せずに終了」を選んで、BIOSセットアップメニューを終了することができます。

工場出荷時の値に戻す

- 1 メイン画面で【↑】【↓】を使って「デフォルト値をロード」にカーソルを合わせる

2 【Enter】を押す
確認の画面が表示されます。

3 【←】→】で「はい」を選び、【Enter】を押す

設定項目一覧

ここでは、BIOSセットアップメニューでどのような設定ができるかを説明しています。

表中の 部分は、購入時の設定です。

標準セットアップ

 **チェック!!** 「内蔵IDE」の設定を変更すると、内蔵ハードディスクが動作しなくなる場合がありますので、通常は初期設定のまま使用してください。

設定項目	設定値	説明
システム日付 (年/月/日)	-	日付を「年/月/日(西暦)」で設定します。
メモリ容量	-	本機のメモリ容量が自動計算されます。
システム時刻 (時:分:秒)	-	現在の時刻を「時:分:秒(24時間形式)」で設定します。
内蔵IDE	-	現在接続されているIDEデバイスの設定をします。
Type	ユーザ設定 自動 使用しない	「自動」に設定するとBIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。「ユーザ設定」にするとユーザによる指定ができます。
Cyl n	0-65535	シリンダ数を設定します。
Head	0-255	ヘッド数を設定します。
WP com	0-65535	ヘッド待避シリンダ番号を設定します。
Sec	0-255	セクタ数を設定します。
LBA Mode	オン オフ	LBAモードを使用するかどうかを指定します。
Blk Mode	オン オフ	マルチセクタ転送モードを使用するかどうかを設定します。

PIO Mode	自動 0-4	CPUが直接I/OポートとアクセスしてIDEとのデータのやりとりをするときのデータ転送モードを設定できます。
32Bit Mode	オン オフ	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを設定できます。
起動セクタへのウイルス感染防止	使用する 使用しない	ウイルス感染防止のため、ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかを設定します。 「使用する」に設定すると書き込み禁止になります。

: 「Type」を「ユーザ設定」に設定したときのみ指定可

拡張セットアップ(システムの設定)

設定項目	設定値	説明
LCD パネル 拡大表示	オン オフ	Windows起動時や、スクリーンセーバー、640×480表示時のLCDパネルの拡大表示を行うかどうかを設定します。
NX パッド	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、NXパッドを使用することができます。USBマウスを使用するときにNXパッドを無効にしたい場合は、「使用しない」に設定します。

セキュリティセットアップ

セキュリティの設定を行います。

設定項目	設定値	説明
セキュリティモード	パスワード スマートカード ¹ 指紋 ²	設定するセキュリティのモードを選びます。 設定値のいずれかを選ぶと、それぞれのセキュリティ機能を設定できるようになります。

1: 「スマートカード」を選ぶためには、別売のセキュリティ関連の拡張機器が必要です。

2: 「指紋」を選ぶためには、指紋認証ユニットまたは別売のセキュリティ関連の拡張機器が必要になります。

参照 「スマートカード」「指紋」を選ぶ→PART1の「セキュリティ機能」(p.80)

パスワード

「セキュリティモード」で「パスワード」を選ぶと設定できるようになります。

参照 パスワードの設定のしかた → PART1の「パスワード」(p. 80)

設定項目	設定値	説明
起動時のパスワード	はい いいえ	システム起動時にパスワード入力を行うかどうかを設定します。
レジューム時のパスワード	はい いいえ	レジューム時にパスワード入力を行うかどうかを設定します。起動時のパスワードを「はい」に設定しないと、この項目の設定は変更できません。

スマートカード

「スマートカード」の各設定は、セキュリティモードで「スマートカード」を選ぶと設定できるようになります。詳しくは、スマートカード発行ツール(PK-SM002V2) または、スマートカードアプリケーション(PK-SM005、PK-SM006)に添付のマニュアルをご覧ください。

指紋

「指紋」の各設定は、セキュリティモードで「指紋」を選ぶと設定できるようになります。詳しくは、PCカード用指紋認証ユニット(PK-FP001M)に添付のマニュアルをご覧ください。

ハードディスクのパスワードの設定

【Enter】を押すと、ハードディスクのパスワードの設定画面が表示されます。

- ✓チェック!!** ニューメトリックロックキーランプ()が消灯していることを確認し、パスワードの文字列を6文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA～Z(大文字 / 小文字の区別はありません)と半角数字の0～9です。

設定項目	設定値	説明
内蔵HDD パスワードの設定	使用する 使用しない	ハードディスクのセキュリティを有効にするかどうかの設定を行います。

- ✓チェック!!**
- ・ハードディスクのパスワードが設定されていないと「内蔵HDDパスワードの設定」の設定を変更することはできません。
 - ・ハードディスクのパスワードを忘れてしまった場合、お客様ご自身で作成されたデータが消えてしまい、ハードディスクを有償で交換することになります。ハードディスクのパスワードは忘れないよう十分注意してください。

参照 ハードディスクのパスワードの設定方法について→PART1の「セキュリティ機能」の「ハードディスクのパスワード(モバイルノート(長時間駆動型)のみ)」(p.86)

省電力セットアップ

省電力機能の設定を行います。

チェック!! 本機では「省電力セットアップ」の設定はすべて無効になります。省電力の設定は「コントロールパネル」の「電源の管理」または「電源オプション」で行ってください(→p.71)。

設定項目	設定値	説明
システムスイッチ切り替え	パワーボタン スリープボタン	電源スイッチの機能を設定します。「スリープボタン」に設定すると、電源スイッチでスリープモードに移行できます。
AC電源駆動時の省電力	オン オフ	AC電源駆動時に、現在の省電力設定を有効にするかを設定します。
省電力レベルの設定	オフ ユーザ設定 性能優先 最大省電力	「オフ」に設定すると、BIOSによる省電力設定はすべて無効になります。「性能優先」では本機の性能を優先した設定になり、「最大省電力」では、本機の動作時間を優先した設定になります。この設定を「ユーザ設定」に設定すると、次の項目を任意に変更できます。
CPUスピード	100%/50%/25% /12.5%	CPUスピードを4つのレベルから選択することができます。
ハードディスクタイムアウト	オフ/5秒/30秒/45秒 /1分/2分/4分/6分 /8分/10分/15分	設定した時間を経過してもハードディスクに対するアクセスがなかった場合、ハードディスクのモーターを停止します。
ビデオタイムアウト	オフ/30秒/45秒/1分 /2分/4分/6分/8分 /10分/15分	設定した時間を経過しても本体のキーボードやポインティングデバイスの操作が行われなかった場合、液晶ディスプレイの表示を停止します。
周辺機器タイムアウト	オン オフ	「オン」に設定すると、シリアルポート、パラレルポート、フロッピーディスクに対するアクセスが2秒間以上なかった場合、それぞれのデバイスを停止します。

オーディオ タイムアウト	オン オフ	「オン」に設定すると、サウンド機能が30秒以上使用されなかった場合、オーディオデバイスを停止します。
自動スタンバイ タイムアウト	オフ/1分/2分/4分 /6分/8分/10分/15分	設定した時間を経過してもコンピュータに対するアクセスがなかった場合、コンピュータをスタンバイモードに移行します。
自動スリープ タイムアウト	オフ/5分/10分/15分 /20分/25分/30分	設定した時間を経過してもコンピュータに対するアクセスがなかった場合、コンピュータを「スリープ種別」で設定したスリープモードに移行します。
LCDパネル連動 スリープ	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、LCDパネルを閉じたときに「スリープ種別」で設定したスリープモードに移行します。
スリープ種別	サスペンド ハイバネーション	スリープモードの種別を変更します。
自動ハイバネーション	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、サスペンド状態に移行してから30分経過すると、自動的にハイバネーション状態に移行します。
スリープ時警告音	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、スリープモード移行時に警告音を鳴らします。
リモート電源制御	使用する 使用しない	リモート電源制御を行うかどうかを設定します。
時刻指定によるレ ジューム	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、「レジューム時刻」で指定した時刻になるとスリープモードから復帰します。
レジューム時刻	オフ	スリープモードから復帰する時刻を設定します。「時刻指定によるレジューム」が「使用する」に設定されているときのみ設定できます。

: 別売のUSBキーボード、ポインティングデバイスでの操作を除く。

起動デバイスセットアップ

設定項目	設定値	説明
クイックブート	使用する 使用しない	BIOSによるシステムの診断を一部スキップし、起動時間を短縮します。
ロゴ表示	使用する スキップ 使用しない	起動時の表示画面を設定します。
起動時表示デバイス	同時表示 LCD表示 CRT表示	起動時に表示するディスプレイを設定します。
起動時Numロック	オフ オン	起動時に【Num Lk】をロックするかを設定します。
第一起動デバイス	使用しない IDE HDD フロッピー ネットワーク USB - CDROM	一番最初に起動するドライブを設定します。
第二起動デバイス	使用しない IDE HDD フロッピー USB - CDROM	二番目に起動するドライブを設定します。
第三起動デバイス	使用しない IDE HDD フロッピー USB - CDROM	三番目に起動するドライブを設定します。
その他のデバイスからの起動	はい いいえ	設定したすべてのデバイスで起動に失敗したとき、その他のデバイスから起動します。

: 「スキップ」または「使用しない」に設定したときに、BIOSセットアップメニューを起動する場合は、電源を入れた後に【F2】を押してください。

周辺機器セットアップ

周辺機器に関する設定をします。

設定項目	設定値	説明
USB コントローラ	使用する 使用しない	「使用しない」に設定すると、USBコントローラを初期化しません。
USB フロッピー	使用する 使用しない	「使用する」に設定するとUSBフロッピーが使用できます。
内蔵ハードディスク	使用する 使用しない	内蔵ハードディスクを使用するかを設定します。
赤外線ポート ¹	使用しない COM2 IRQ3 COM3 IRQ4 COM4 IRQ3 自動	ポートのリソースを他の周辺機器でも使用できるようにします。「自動」を設定すると、自動的に他のデバイスと競合しないリソースを設定します。

¹ : USB CD Boot、USB FD Bootを使用するときは、USBコントローラを「使用する」に設定しておく必要があります。

表示言語(Language)セットアップ

セットアップの表示言語を設定します。

表示言語(Language)セットアップ

設定項目	設定値	説明
表示言語 (Language) セットアップ	英語(English) 日本語(Japanese)	標準では英語に設定されています。

バッテリーリフレッシュ

バッテリーリフレッシュを行います。

参照 バッテリーリフレッシュ → PART1の「バッテリー」の「バッテリーリフレッシュ」(→ p.58)

P A R T

4

付録

ここでは、本機の機能に関連した補足情報を記載してあります。

本機のお手入れ

ここでは、パソコンのお手入れの方法を説明しています。

お手入れをはじめる前に

⚠注意



感電注意

- お手入れの前には、必ず本機や本機の周辺機器の電源を切り、電源コードをACコンセントから抜いてください。
電源を切らずにお手入れをはじめると、感電することがあります。

準備するもの

汚れが軽いとき

やわらかい素材の乾いたきれいな布

汚れがひどいとき

水かぬるま湯を含ませ強くしぼったきれいな布

OA機器用クリーニングキットも汚れを拭き取るのに便利です。

OA機器用クリーニングキットについてはご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所などに問い合わせてください。

参照

NECのお問い合わせ先→『121wareガイドブック』または『NEC PCあんしんサポートガイド』

お手入れをする

本機のお手入れをするときは、次のことに注意してください。

- ✓ **チェック!!** ・水やぬるま湯は、絶対に本機に直接かけないでください。本機の傷みや故障の原因になります。
- ・シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんなどは使わないでください。本機の傷みや故障の原因になります。

液晶ディスプレイ

やわらかい素材の乾いたきれいな布で拭いてください。水やぬるま湯、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんは使わないでください。

- ✓ **チェック!!** LX60T/7B1EC、LG60T/TLの液晶ディスプレイは、ディスプレイ表面に乱反射を防止するAR（アンチリフレクション）コートがされています。市販の液晶画面クリーナーは汚れを広げたり、ARコートに悪影響を与えることがありますので使用しないでください。

本体 / NXパッド / キーボード

やわらかい素材の乾いたきれいな布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、強くしぼったきれいな布で拭いてください。キーボードのキーのすきまにゴミが入ったときは、専用のクリーナーなどでゴミを取ってください。ゴミが取れないときは、ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所に問い合わせてください。

参照 ▶ NECのお問い合わせ先 → 『121wareガイドブック』または『NEC PCあんしんサポートガイド』

フロッピーディスクドライブ

（LaVie Gシリーズまたはモバイルノート（長時間駆動型）の外付3.5インチフロッピーディスクドライブ添付のモデルを購入された場合のみ）

クリーニングディスク（別売）を使ってフロッピーディスクドライブをクリーニングします。ひと月に一回を目安にクリーニングしてください。

電源コード

電源コードのプラグを長時間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にはこりを拭き取るようにしてください。



補足情報

別売のUSBポートバー使用時の注意

Windows 98で、別売のUSBポートバー(PK-UP012N、PK-UP012NS)
を使用するときの注意

Windows 98で、別売のUSBポートバー(10Base-Tインターフェイス付)(PK-UP012N、PK-UP012NS)を使用するときは、次の手順に従って設定を行ってください。

別売のUSBポートバー(PK-UP012、PK-UP012S)を使用する場合は、以下の設定は必要ありません。

- 1** 本機にUSBポートバーを接続する
USBポートバーが自動的に認識され、汎用USBハブ、USB互換デバイスドライバが自動的にインストールされます。
- 2** 「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面に「次の新しいドライバを検索しています:CATC NetMate2 Ethernet Adaptor」と表示されたら、「キャンセル」ボタンをクリックする
次の各ドライバが自動的にインストールされます。
 - ・ NEC USB to Serial
 - ・ USB ヒューマンインターフェイスデバイス
 - ・ NEC USB to Parallel
 - ・ NEC USB COM Port
 - ・ NEC USB LPT Port
- ここではLANドライバのインストールは行いません。次の手順3で行います。
- 3** 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックする
- 4** 「名前」欄に以下のように入力するか、または「参照」ボタンをクリックして表示される「ファイル名の場所」で以下のファイルを選ぶ
C:\¥OPTIONS¥OTHER¥NEC¥PK-UP012¥SETUP.EXE

5 「OK」ボタンをクリックする

LANドライバのインストールプログラムが起動します。

6 「NEXT」ボタンをクリックする**7** 「Disconnect the USB cable(if connected)from the CATC USB/Ethernet Link. 」と表示されたら、USBポートバーを本機から取り外して「OK」ボタンをクリックする**8** 「Connect the USB cable to the CATC USB/Ethernet Link. 」と表示されたら、USBポートバーを本機に接続する**9** 「This installation of the CATC USB Ethernet Link Software is complete. 」と表示されたら、「Finish」ボタンをクリックする**10** 本機を再起動する

以上で設定は終了です。

 別売のUSBハブに別売のUSBポートバーを接続するときの注意

別売のUSBハブ(PK-UP002またはPK-UP003)を2つ以上続けて接続し、その2つ目以降のUSBハブに別売のUSBポートバー(PK-UP012 / PK-UP012N / PK-UP012S / PK-UP012NS)を接続した場合、USBハブに接続してある他の機器(USBポートバーも含む)が正常に動作しなくなることがあります。この場合は、本機に取り付けた1つ目のUSBハブにUSBポートバーを接続してください。

サウンド機能について(Windows Meモデルのみ)

 音楽CDを利用する

音楽CDを再生する

Windows MeではWindows Media Playerを使って音楽CDを再生することができます。Windows Media Playerには、インターネットでCDのデータの検索をしたり、音楽CD再生中に視覚エフェクトを表示させる機能もあります。

参照 ▶ 音楽CDの再生について→Windows Media Playerのヘルプ



チェック!!

- ・音楽CDをデジタル再生で再生しているときに、ほかのアプリケーションを使用すると、音楽CDの再生音が音飛びする場合があります。その場合は、ほかのアプリケーションを終了してください。
- ・USBコネクタに接続するCD-ROMドライブは、デジタル再生、録音のみ使用可能です。USBコネクタに接続するCD-ROMドライブを使用して音楽CDを再生、録音する場合は、アナログではなくデジタルで音楽CDを再生するように設定しておく必要があります。

参照

音楽CDを再生するための設定 → 「音楽CDを再生するための設定をする」
(p.100)

音楽CDをハードディスクにコピーする

Windows Media Playerの「CDオーディオ」の「音楽のコピー」で、音楽CDをハードディスクにコピーすることができます。

参照

音楽CDのハードディスクへのコピーについて → Windows Media Playerのヘルプ

本機では、ハードディスクに音楽CDをデジタルでコピーしたり、アナログでコピーすることができます。

参照

音楽CDのハードディスクへのコピー方法を変更する → 「音楽CDからのコピー方法の変更」(p.194)

音楽CDの再生方法の変更

次の手順で、音楽CDの再生方法をデジタル再生、またはアナログ再生のどちらかに設定することができます。

Windows Media Playerの場合

- 1 「スタート」ボタン → 「プログラム」 → 「Windows Media Player」をクリックする
Windows Media Playerが起動します。
- 2 メニューバーの「ツール」 → 「オプション」をクリックする
- 3 「CDオーディオ」タブをクリックし、「再生の設定」欄の「デジタル再生」を設定したい再生方法にあわせて選択する

- ・ デジタル再生にする場合
「デジタル再生」を☒にします。
- ・ アナログ再生にする場合
「デジタル再生」を☐にします。

4 「OK」ボタンをクリックする

- #### 5 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 「システムのプロパティ」が表示されます。

6 「デバイスマネージャ」タブをクリックする

- #### 7 「CD-ROM」の左のをクリックし、表示されたデバイス名をダブルクリックする
- CD-ROMデバイスのプロパティが表示されます。

8 「プロパティ」タブをクリックする

- #### 9 「デジタルCD再生」欄の「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」を設定したい再生方法にあわせて選択する

- ・ デジタル再生にする場合
☒にします。
- ・ アナログ再生にする場合
☐にします。

10 「OK」ボタンをクリックする

設定した再生方法によって音楽CDの音量の調整方法が変わります。

その他のプレイヤーの場合

Windows Media Player以外のプレイヤーでの音楽CDの再生方法を変更するときは、「Windows Media Playerの場合」(→p.192)の手順5～10を行ってください。

音楽CDからのコピー方法の変更

次の手順で、音楽CDからのコピー方法を設定することができます。

- 1** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Windows Media Player」をクリックする
Windows Media Playerが起動します。
- 2** メニューバーの「ツール」→「オプション」をクリックする
- 3** 「CDオーディオ」タブをクリックし、「コピーの設定」欄の「デジタルコピー処理」を設定したいコピー方法にあわせて選択する
 - ・ デジタルでコピーしたい場合
「デジタルコピー処理」を☒にします。
 - ・ アナログでコピーしたい場合
「デジタルコピー処理」を☐にします。
- 4** 「音楽CDの再生方法の変更」の「Windows Media Playerの場合」(→p.192)の手順4～10を行う

設定した再生方法によって、音楽CDの音量の調整方法が変わります。

参照▶ 音楽CDの再生音量を調整する→次の「音楽CDの音量を調整する」

音楽CDの音量を調整する

チェック!! 本機を再起動すると、再起動前にボリュームコントロールで調整した音量が調整前の音量に戻っている場合があります。この場合は、再度音量を調整してください。

再生音量を調整する

「音量の調整」画面で音楽CDの再生音量の調整をすることができます。音楽CDの再生音量の調整方法は、音楽CDの再生方法によって異なります。

参照▶ 音楽CDの再生方法を変更する→「音楽CDの再生方法の変更」(p.100)

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテインメント」→「ボリュームコントロール」をクリックする
「音量の調整」画面が表示されます。

2 音楽CDの再生方法に応じて、「音量の調整」画面の以下の項目の音量つまみを上下にドラッグして音量を調整する

- ・ デジタル再生に設定している場合
「音量の調整」または「WAVE」
- ・ アナログ再生に設定している場合
「音量の調整」または「CDオーディオ」



- チェック!!** ・ Windows Media Player以外のプレイヤーを使用する場合は、再生方法にかかわらず、「音量の調整」または「CDオーディオ」で音量を調整してください。
- ・ 「音量の調整」はスピーカから出力されるすべての音量を調整する項目です。音楽CDの再生音量のみを調整したい場合は「WAVE」または「CDオーディオ」で調整してください。

録音音量を調整する

次の手順で、音楽CDからの録音音量を調整できます。

1 「音量の調整」画面のメニューバーの「オプション」→「プロパティ」をクリックする

2 「音量の調整」で「録音」を選択し、「表示するコントロール」で「Record Mixer」にチェックを付けて「OK」ボタンをクリックする
「録音の調節」画面が表示されます。

3 「Record Mixer」の「選択」にチェックを付ける

4 「Record Mixer」の音量調整つまみを上下にドラッグして録音音量を調整する

機能一覧

仕様一覧

機種名		LX60T/71EC	LX60T/7B1EC
CPU		トランスメタ社 Crusoe™ プロセッサ	
	型番 / クロック周波数	TM5600 / 600MHz	
内蔵キャッシュメモリ		128Kバイト	
セカンドキャッシュメモリ		512Kバイト(CPU内蔵)	
メモリ	ROM	2Mバイト(BIOS、Code Morphing™ Software ほか)	
	メインRAM	128Mバイト(システムバス120MHz対応) ^{1 2}	
	最大	192Mバイト(別売の増設RAMボード(128Mバイト)を1枚取り付け付けた場合) ³	
	ビデオRAM	4Mバイト	
表示機能	表示素子 ¹¹	10.4型TFTカラー透過型液晶ディスプレイ(XGA)	10.4型微透過型液晶ディスプレイ(XGA)
	ウィンドウアクセラレータ	ATI Mobility-M標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応) 640×480ドット(16色 / 26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 800×600ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色)	
	別売のCRTディスプレイ接続時	640×480ドット(16色 / 26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 800×600ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1280×1024ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1600×1200ドット(26万色中256色 / 65536色)	
サウンド機能	サウンドチップ	ESSテクノロジー社製 ESS1946(Solo-1E)搭載	
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート11.025KHz/22.05KHz/44.1KHz) 全二重化対応	
	FM音源機能	内蔵	
	スピーカ・マイク	モノラルスピーカ・マイクロホン内蔵	
サラウンド		エンハンスド・ステレオ機能(ヘッドホン利用時のみ)	
通信機能	モデム	モデム内蔵 データ転送速度 最大56kbps(K5flex/V.90) エラー訂正 V.42/MNP4データ圧縮V.42bis/MNP5	
	携帯電話 / PHS接続ケーブル	携帯電話:9.6Kbpsデータ通信 / 9.6Kbps・28.8Kbpsパケット通信(DoPa)	
	FAX	データ転送速度 最大14.4Kbps (V.17)FAX制御クラス1	
	LAN	内蔵(100BASE-TX / 10BASE-T)	

機種名		LX60T/71EC	LX60T/7B1EC
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな) Fnキー(ホットキー対応) 12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・右Ctrlキー付	
	ポインティングデバイス	NXパッド標準装備	
補助記憶装置	固定ディスクドライブ	約20Gバイト ⁴	
	CD-ROMドライブ	外付CD-ROMドライブ(USBインターフェイス) CAV方式、CD-DA(オーディオCD) CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE2(FORM1/2) エンハンスドCD、PhotoCD(シングル / マルチセッション) CD-I Video、CD-TEXT、最大約6倍速 ⁵	
インターフェイス		ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力) ⁶ 、USB×2、赤外線通信(IrDA規格準拠、データ転送速度4Mbps)	
サウンド関連		ヘッドホン出力 / ライン、マイク入力(モノラル、ミニジャック)マイク入力インピーダンス2.2kΩ 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms	
PCカードスロット		TYPE ×1スロット PC Card Standard準拠、CardBus / ZVポート対応	
パワーマネージメント		自動または任意設定可能(Windowsで設定)	
セキュリティ機能		ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(市販の盗難防止用ケーブルを使用)	
バッテリー駆動時間 ⁷		約4.5~8.5時間	約8~11時間 ¹²
バッテリー充電時間 ⁷		約8時間(電源ON時) / 約4.5時間(電源OFF時)	
バッテリーによるスタンバイ状態保持時間 ⁷ (バッテリーフル充電時)		約6日	
電源		内蔵バッテリー(DC11.1V、2,040mAh) ⁸ リチウムイオンバッテリー(DC11.1V、1,950mAh) またはAC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由) ⁹	
消費電力		約10W	約6W ¹²
		内蔵オプション最大接続時 約45W	
温湿度条件		5~35℃、20~80%RH(ただし、結露しないこと)	
外形寸法		264(W)×211(D)×21(H)mm(最上部29.5(H)mm 突起部含まず)	
質量 ⁷		約1.39kg	

1: 標準メモリ時、メモリを増設するとメモリクロックは100MHzになります。

2: メインRAMのうち約16MBはCPUが使用します。

3: 最大メモリ容量にする場合は、標準実装されている64MBのメモリを取り外して、別売の増設RAMボード(128MB)を取り付ける必要があります。

4: 固定ディスク容量は、1G/バイトを10億バイトで計算した場合の数値です。0Sから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。

5: ほかのUSB機器が接続されている場合、速度が遅くなることがあります。

6: 別売のディスプレイ変換ケーブル(PC-VP-SK01)が必要。

7: 時間や質量は、本機のご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。

8: 本機はディスプレイ後部に内蔵バッテリーを搭載しております。お客様ご自身で交換することができません。バッテリーの交換はNECフィールディングで実施しています(有償)。

9: ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。

10: 18~25℃、45~75%での使用を推奨。

11: 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。

12: バックライトスイッチを「オフ」にした場合

機種名		VA60H/TM
CPU		モバイル インテル®Celeron™ プロセッサ600MHz
	内蔵キャッシュメモリ	32Kバイト
セカンドキャッシュメモリ		128Kバイト(CPU内蔵)
メモリ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)
	メインRAM	64Mバイト / 128Mバイト / 192Mバイト(システムバス100MHz対応)
	最大	192Mバイト(別売の増設RAMボード(128Mバイト)を1枚増設した場合)
	ビデオRAM	4Mバイト
表示機能	表示素子 ¹	10.4型TFTカラー透過型液晶ディスプレイ(XGA)
	ウィンドウアクセラレータ	Silicon Motion社製Lynx3DM4標準搭載 640×480ドット(16色 / 26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 800×600ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色)
	別売のCRTディスプレイ接続時	640×480ドット(16色 / 26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 800×600ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1280×1024ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色)
サウンド機能	サウンドチップ	ESSテクノロジー社製 ESS1946S(Solo-1E)搭載
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート11.025KHz/22.05KHz/44.1KHz) 全二重化対応
	FM音源機能	内蔵
	スピーカ・マイク	モノラルスピーカ・マイクロホン内蔵
	サラウンド	エンハンスド・ステレオ機能(ヘッドホン利用時のみ)

機種名		VA60H/TM
通信機能	モデム	なし / モデム内蔵(データ転送速度 最大56kbps(K56flex/V.90)エラー訂正 V.42/MNP4データ圧縮V.42bis/MNP5)
	携帯電話 / PHS接続ケーブル	なし / ケーブル添付 携帯電話:9.6Kbpsデータ通信 / 9.6Kbps・28.8Kbpsパケット通信(Dopa) cdmaOne:14.4Kbpsデータ通信 / 64Kbpsパケット通信(PacketOne) PHS(NTTドコモ / アステル):32Kデータ通信 / 64Kデータ通信(PIAFS2.0) PHS(DDIIポケット):32Kデータ通信 / 64Kデータ通信(PIAFS2.1)
	FAX	なし / データ転送速度 最大14.4Kbps (V.17)FAX制御クラス1
	LAN	なし / 内蔵(100BASE-TX / 10BASE-T)
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな) Fnキー(ホットキー対応) 12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・右Ctrlキー付
	ポインティングデバイス	NXパッド標準装備
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	なし / 外付3.5型フロッピーディスクドライブ×1(720K/1.2M/1.44Mバイトタイプの3モードに対応) USBインターフェイス)
	固定ディスクドライブ	約10Gバイト / 約20Gバイト ²
	CD-ROMドライブ	なし / 外付CD-ROMドライブ(USBインターフェイス) (添付の場合) XAV方式、CD-DA(オーディオCD)、CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE2(FORM1/2)、エンハンスドCD、PhotoCD(シングル / マルチセッション)、CD-I Video、CD-TEXT、最大約6倍速 ³
インターフェイス		ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力) ⁴ 、USB×2、赤外線通信(IrDA規格準拠、データ転送速度4Mbps)
	サウンド関連	ヘッドホン出力 / ライン、マイク入力(モノラル、ミニジャック)マイク入力インピーダンス2.2kΩ 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms
PCカードスロット		TYPE ×1スロット ⁵ PC Card Standard準拠、CardBus / ZVポート対応
パワーマネージメント		自動または任意設定可能(Windowsで設定)
セキュリティ機能		ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、ハードディスクのパスワード機能、盗難防止用ロック(市販の盗難防止用ケーブルを使用)、スマートカード(別売) ⁶ 、指紋リーダ(別売)
バッテリー駆動時間 ⁸		約4～8.5時間
バッテリー充電時間 ⁸		約8時間(電源ON時) / 約4.5時間(電源OFF時)
バッテリーによるスタンバイ状態保持時間 ⁸ (バッテリフル充電時)		約6日

機種名	VA60H/TM
電源	内蔵バッテリー(DC11.1V、2040mAh) ⁸ リチウムイオンバッテリー(DC11.1V、1,950mAh) またはAC100V ± 10%、50/60Hz(ACアダプタ経由) ⁹
消費電力	約11W 内蔵オプション最大接続時 約45W
温湿度条件	5 ~ 35℃、20 ~ 80% ¹⁰ (ただし、結露しないこと)
外形寸法	264(W) × 211(D) × 21(H)mm(最上部27(H)mm 突起部含まず)
質量 ⁷	約1.37kg

- 1 : 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのむらや微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
- また、反射型液晶を使っているため暗い場所では見にくいことがあります。
- 2 : 固定ディスク容量は、16バイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。
- 3 : ほかのUSB機器が接続されている場合、速度が遅くなることがあります。
- 4 : 別売のディスプレイ変換ケーブル(PC-VP-SK01)が必要。
- 5 : Windows 98のMS-DOSモードでは使用できません。
- 6 : Windows 98で使用可能。
- 7 : 時間や質量は、本機のご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
- 8 : 本機はディスプレイ後部に内蔵バッテリーを搭載しております。お客様ご自身で交換することができません。バッテリーの交換は NEC フィールディングで実施しています(有償)
- 9 : ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。日本以外の国で使用する場合は、別途電源コードが必要です。
- 10 : 18 ~ 25℃、45 ~ 75%での使用を推奨。

LaVie Gシリーズ

の項目は、ご使用のモデルによって異なります。

機種名		LG60T/TD	LG60T/TL
CPU		トランスメタ社 Crusoe™プロセッサ	
	型番 / クロック周波数	TM5600 / 600MHz	
内蔵キャッシュメモリ		128Kバイト	
セカンドキャッシュメモリ		512Kバイト(CPU内蔵)	
メモリ	ROM	2Mバイト(BIOS、Code Morphing™ Software ほか)	
	メインRAM	128Mバイト / 192Mバイト(システムバス120MHz対応) ^{1 2}	
		最大 192Mバイト(別売の増設RAMポート(128Mバイト)を1枚取り付けた場合) ³	
	ビデオRAM	4Mバイト	
表示機能	表示素子 ¹¹	10.4型TFTカラー 透過型液晶ディスプレイ(XGA)	10.4型TFTカラー 微透過型液晶ディスプレイ(XGA)
	ウィンドウアクセラータ	ATI Mobility-M標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応) 640×480ドット(16色 / 26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 800×600ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色)	
	別売のCRTディスプレイ接続時	640×480ドット(16色 / 26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 800×600ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1280×1024ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1600×1200ドット(26万色中256色 / 65536色)	
サウンド機能	サウンドチップ	ESSテクノロジー社製 ESS1946S(Solo-1E)搭載	
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート11.025KHz/22.05KHz/44.1KHz)全二重化対応	
	FM音源機能	内蔵	
	スピーカ・マイク	モノラルスピーカ・マイクロホン内蔵	
	サラウンド	エンハンスド・ステレオ機能(ヘッドホン利用時のみ)	
通信機能	モデム	モデム内蔵 データ転送速度 最大56Kbps(K56flex/V.90) エラー訂正 V.42/MNP4データ圧縮V.42bis/MNP5)	
	携帯電話 / PHS接続ケーブル	なし / 携帯電話:9.6Kbpsデータ通信 / 9.6Kbps・28.8Kbps/パケット通信(DoPa)	
	FAX	データ転送速度 最大14.4Kbps (V.17)FAX制御クラス1	
	LAN	内蔵(100BASE-TX / 10BASE-T)	
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな)Fnキー(ホットキー対応)12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・右Ctrlキー付	
	ポインティングデバイス	NXパッド標準装備	

機種名		LG60T/TD	LG60T/TL
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	なし / 外付3.5型フロッピーディスクドライブ×1(USBインターフェイス)	
	固定ディスクドライブ	約10Gバイト / 約20Gバイト ⁴	
	CD-ROMドライブ	外付CD-ROMドライブ(USBインターフェイス) CAV方式、CD-DA(オーディオCD)、CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE2(FORM1/2)、エンハンスドCD、PhotoCD(シングル / マルチセッション)、 CD-I Video、CD-TEXT、最大約6倍速 ⁵	
インターフェイス		ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力) ⁶ 、USB×2、赤外線通信(IrDA 規格準拠、データ転送速度4Mbps)	
サウンド関連		ヘッドホン出力 / ライン、マイク入力(モノラル、ミニジャック)マイク入力インピーダ ンス2.2k Ω 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms	
PCカードスロット		TYPE ×1スロット PC Card Standard準拠、CardBus / ZVポート対応	
パワーマネージメント		自動または任意設定可能(Windowsで設定)	
セキュリティ機能		ユーザパスワード機能、スーパバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(市販の盗難 防止用ケーブルを使用)	
バッテリー駆動時間 ⁷		約4.5～8.5時間	約8～11時間 ¹²
バッテリー充電時間 ⁷		約8時間(電源ON時) / 約4.5時間(電源OFF時)	
バッテリーによるスタン バイ状態保持時間 ⁷ (バッテリーフル充電時)		約6日	
電源		内蔵バッテリー(DC11.1V、2,040mAh) ⁸ リチウムイオンバッテリー(DC11.1V、1,950mAh) またはAC100V $\pm$ 10%、50/60Hz(ACアダプタ経由) ⁹	
消費電力		約10W	約6W ¹²
		内蔵オプション最大接続時 約45W	
温湿度条件		5～35、20～80% ¹⁰ (ただし、結露しないこと)	
外形寸法		264(W)×211(D)×21(H)mm(最上部29.5(H)mm 突起部含まず)	
質量 ⁷		約1.39kg	

1: 標準メモリ時。メモリを増設するとメモリクロックは100MHzになります。

2: メインRAMのうち約16MBはCPUが使用します。

3: 最大メモリ容量にする場合は、標準実装されている64MBのメモリを取り外して、別売の増設RAMボード(128MB)を取り付ける必要があります。

4: 固定ディスク容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。

5: ほかのUSB機器が接続されている場合、速度が遅くなることがあります。

6: 別売のディスプレイ変換ケーブル(PC-VP-SK01)が必要。

7: 時間や質量は、本機のご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。

8: 本機はディスプレイ後部に内蔵バッテリーを搭載しております。お客様ご自身で交換することができません。バッテリーの交換はNEC フィールディングで実施しています(有償)。

9: ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。

10: 18～25、45～75%での使用を推奨。

11: 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。

12: バックライトスイッチを「オフ」にした場合

内蔵FAXモデム

内蔵FAXモデム機能は、FAXモデム内蔵モデルのみの機能です。

機能概要

CPU I/F	PCIローカルバスインターフェイス
NCU 部	・ダイヤルパルス送出機能 ・リング検出機能
モデムチップセット部	・CPU直結パラレルアクセスによる高スループット - K56flex, V.90 - V.34 - V.32bis - V.32, V.22bis, V.22, V.21 - V.42LAPMおよびMNP2-4エラー訂正 - V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 - V.17, V.29, V.27ter, V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット準拠 - ATコマンド - Sレジスタ ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびバルスダイヤリング (DTMFトーン、ダイヤルパルス制御)

FAX機能

項 目	規 格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	QAM: 9600/7200bps TCM: 14400/12000bps DPSK: 4800/2400bps FSK: 300bps
送信レベル	-15dBm(LaVie MXの場合) -13dBm(モバイルノート(長時間駆動型)の場合)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

データモデム機能

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信 33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps ¹ 受信 56000/54666/54000/53666/52000/50666/50000/49333/48000/46666/46000/45333/44000/42666/42000/41333/40000/38666/38000/37333/36000/34666/34000/33333/32000/30666/29333/28000bps ¹
通信規格	K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
変調方式	PCM: 56000/54666/54000/53333/52000/50666/50000/49333/48000/46666/46000/45333/44000/42666/42000/41333/40000/38666/38000/37333/36000/34666/34000/33333/32000/30666/29333/28000bps TCM: 336000/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14000/12000/9600bps QAM: 9600/7200/4800/2400bps DPSK: 1200/600bps FSK: 300bps
エラー訂正	ITU-T V.42 MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-15dBm(LaVie MXの場合) -13dBm(モバイルノート(長時間駆動型)の場合)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 ²

1 回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

2 ATコマンドについては、以下のファイルを参照

Windows Me / Windows 98の場合:

C:\¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

Windows 2000の場合:

C:\¥WINNT¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

NCU 機能

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル形式	パルスダイヤル(10PPS)(LaVie MXの場合) パルスダイヤル(10/20PPS)(モバイルノート(長時間駆動型)の場合) トーンダイヤル(DTMF)
NCU形式	AA(自動発信/自動着信型)
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンドAT(class 1)

携帯電話 / PHS接続機能

携帯電話 / PHS接続機能は、携帯電話 / PHS接続ケーブルが添付の場合、または別売の携帯電話 / PHS接続ケーブルを別途購入された場合のみ使用できます。

● 個別仕様

種 類	項 目	規 格
PHS (NTTドコモ / アステル) 接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(PHS後位16芯)
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信: 29.2kbps(実効値)
		PIAFS 64Kデータ通信: 58.4kbps(実効値)
PHS (DDIポケット) 接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(PHS後位12芯)
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信: 29.2kbps(実効値)
		PIAFS 64Kデータ通信: 58.4kbps(実効値)
携帯電話 (DoPa/PDC) 接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(PDC5式携帯電話端末後位16芯)
	通信速度	9.6kbps(データ通信) 9.6kbps(パケット通信)
		28.8kbps(パケット通信)
cdmaOne 接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(CDMA方式携帯電話端末後位18芯)
	通信速度	14.4kbps(データ通信) 最大64kbps(パケット通信)

● 共通仕様

種 類	規 格
制御コマンド	ATコマンド
網制御機能	A A

:ATコマンドについては、以下のファイルを参照

Windows Me/Windows 98の場合:

C:\¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

Windows 2000の場合:

C:\¥WINNT¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

内蔵LAN

内蔵LAN機能は、LAN内蔵モデルのみの機能です。

規格概要

項 目	規 格 概 要
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時:100Mbps 10BASE-T使用時:10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時:UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時:UTPカテゴリ3または5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
ステーション台数	最大1024台 / ネットワーク
ステーション間距離 / ネットワーク経路長	100BASE-TX:最大200m / ステーション間 10BASE-T:最大約500m / ステーション間 最大100m / セグメント
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式

リピータの台数など、条件によって異なります。

割り込みレベルとDMAチャネル

割り込みレベルとDMAチャネルについて

パソコンで利用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル(IRQ)」「DMAチャネル」などがあります。

これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定をしなければなりません。リソースが複数の機器に割り当てられている状態(リソースの競合)では、機器が正常に使用できないばかりか、システム全体の動作も不安定になってしまいます。

割り込みレベル

「割り込みレベル(IRQ)」は、複数の機器から同時にCPUにアクセスしたときに、どのような順序で処理していくかを決めるものです。本機では、工場出荷時には次のように割り当てられています。

LaVie MXの場合

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	9	ACPI用制御割り込み
1	キーボード		内蔵モデム
2	割り込みコントローラ		内蔵LAN
3	赤外線通信		CardBusコントローラ
4	(空き)	10	アクセラレータ
5	USBホストコントローラ	11	サウンド
6	(空き)	12	NXパッド
7	(空き)	13	数値データプロセッサ
8	システムクロック	14	IDEコントローラ
		15	(空き)

: 赤外線通信使用時

モバイルノート(長時間駆動型)の場合

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	9	ACPI用システム制御割り込み
1	キーボード	10	USBホストコントローラ
2	割り込みコントローラ		内蔵LANインターフェイス ³
3	赤外線通信 ¹		アクセラレータ
4	(空き)		CardBusコントローラ ³
5 ²	サウンド	11	(空き)
	内蔵FAXモデム	12	NXパッド
	CardBusコントローラ	13	数値データプロセッサ
6	(空き)	14	IDEコントローラ(内蔵ハードディスク)
7	(空き)	15	(空き)
8	システムクロック		

1: 赤外線通信機能使用時

2: Windows 2000 Professional モデルは空き(サウンド、内蔵FAXモデム、CardBusコントローラはIRQ10になります。)

3: LAN内蔵モデルのみ

DMA チャンネル

「DMAチャンネル」は、CPUを経由せずに周辺機器とメモリとのデータのやり取りを制御する機能のことです。このパソコンでは、工場出荷時には次のように割り当てられています。

DMA	インターフェイス	
	デフォルト	更にIRを使用する場合
#0	(空き)	IR
#1	(空き)	
#2	(空き)	
#3	(空き)	
#4	DMAコントローラ	



索引

索引

英字

ATコマンド	106, 204
BIOSセットアップメニュー	170, 176
CD-ROMドライブ	37
CD-ROMドライブ用ケーブル	37
CRTディスプレイ	146
DCコネクタ	15, 129, 168
DMAチャネル	208
FAT16	33
FAT32	33
FAXモデム	102, 203
FDISK	28, 33
【Fn】エフエヌキー)	18, 20
Intellisync	95
LAN	120, 206
LANインターフェイス	15, 121, 129
LongRun Power Management Utility	65, 77
NXパッド	14, 22
NXパッドの設定	26
PCカード	151
PCカードスロット	14, 129, 151
USB	162
USBコネクタ	14, 15, 129, 162
USBマウス	137
Virtual CD 2	40

あ

アクセスランプ(本体)	17
アクセスランプ(CD-ROMドライブ)	38
イジェクトスイッチ	38
イジェクトボタン(PCカード)	151
インターネット設定切替ツール	108
液晶ディスプレイ	14, 44
お手入れ	188

か

解像度	45, 145
-----	---------

外部CRT用コネクタ	15, 129, 146
外部ディスプレイ	145
外部マイクロホン端子	14, 129
拡張セットアップ	180
仮想CD-ROMドライブ	40
画面回転機能	53
画面表示の調整	44
起動順位の設定	175
起動セクタへのウイルス感染防止	175, 180
起動デバイスセットアップ	184
キーボード	14, 18
キーボードの設定	21
キーボードロック	85
キャップスロックキーランプ	17
休止状態	68
クライアントモニタリング	123
クリック	22
クリックボタン	22
携帯電話 / PHS接続機能	113, 205
ケーブル接続	95
コントロールパネル	5

さ

サウンド機能	98
サスペンド	68
指紋認証ユニット	91
周辺機器	128
周辺機器セットアップ	185
「詳細」メニューの設定	174
省電力機能	64
省電力セットアップ	182
スーパバイザパスワード	81
スクロールロックキーランプ	17
スタンバイ状態	68
ストップボタン	38, 39
スピーカ	14
スマートカード	91
スリープ状態	64

赤外線通信機能 93
 赤外線通信ポート 14, 94
 赤外線転送 96
 赤外線モニタ 94
 セキュリティ機能 80
 セキュリティセットアップ 180
 「セキュリティ」メニューの設定 175
 専用LANケーブル 121, 129
 増設RAM ボード 129, 157

た

ダイヤル設定 104, 115
 タップ 22
 ダブルクリック 22
 ディスクトレイ 38
 ディスプレイストレッチ機能 51
 ディスプレイ変換ケーブル 146
 デバイスドライバ 134
 デュアルディスプレイ機能 49
 電源スイッチ 14
 電源ランプ 16
 電話回線用モジュラーコネクタ .. 15, 103
 盗難防止用ロック 14, 92
 ドラッグ 22

な

内蔵マイクロホン 14
 ニューメリックロックキーランプ 17
 ネットワークブート 126

は

バーチャルスクリーン 47
 ハードディスク 27
 ハードディスクのパスワード 86
 ハイパネーション 68
 パスワード 80
 バックライトスイッチ 14, 44
 バッテリーアンロック 15, 63
 バッテリー残量 57

バッテリー充電ランプ 17, 57
 バッテリーの充電 56
 バッテリーバック 14, 15, 62, 63
 バッテリーバックの交換 62
 バッテリーリフレッシュ 58
 パラレルコネクタ 168
 ピープ音量の調節 20
 表示言語セットアップ 185
 表示色 45, 145
 表示の切り替え 147
 表示ランプ 14, 16
 標準セットアップ 179
 フォーマット(ハードディスク) 28
 復帰 64, 67, 70
 プラグ&プレイ 134
 プリンタ 135
 プレイボタン 38
 プロジェクタ 147
 フロッピーディスクアクセスランプ ... 35
 フロッピーディスクイジェクトボタン ... 35
 フロッピーディスクドライブ 35
 ヘッドホン / オーディオ出力端子 14, 129
 ヘッドホンジャック 38
 ポインタ 22
 ポインティングデバイス 22
 ホットキー機能 20
 ボリュームコントロール 98

ま

マウス 137
 マスタパスワード 87
 「メイン」メニューの設定 173
 メモリ 155
 メモリスロット 15, 129, 157
 モデム(内蔵) 102, 203

や

ユーザパスワード 81, 87

ユニバーサル管理アドレス 122

ら

リソースの競合 131

リモートコントロール 124

領域の確保 28

レジューム 64

ロックレバー 14

わ

ワイヤレスリンク 97

割り込みレベル 207



活用ガイド

ハードウェア編

PC98-**NX** SERIES

LaVie

LX60T

初版 2001年5月

NEC

P

853-810060-045-A